デジタルサウンドプロジェクター

YSP-1000

取扱説明書

ヤマハデジタルサウンドプロジェクターYSP-1000をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

- 本機の優れた性能を十分に発揮させると共に、永年支障なくお使いいただくために、ご使用前にこの取扱説明書と保証書をよくお読みください。お読みになったあとは、保証書と共に大切に保管し、必要に応じてご利用ください。
- 保証書は、「お買上げ日、販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

安全上のご注意

ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。
お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	「ご注意ください」という注意喚起を示します。
	「～しないでください」という「禁止」を示します。
	「必ず実行してください」という強制を示します。

■「警告」と「注意」について

以下、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「警告」と「注意」に区分して掲載しています。

この表示の欄は、「死亡する可能性または重傷を負う可能性が想定される」内容です。

この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。

⚠ 警告

電源/電源コード

電源プラグは、見える位置で、手が届く範囲のコンセントに接続する。

万一の場合、電源プラグを容易に引き抜くためです。

下記の場合には、すぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- 異常なにおいや音がする。
- 煙が出る。
- 内部に水や異物が混入した。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

電源コードを傷つけない。

- 重いものを上に載せない。
- ステープルで止めない。
- 加工をしない。
- 熱器具には近づけない。
- 無理な力を加えない。

芯線がむき出しのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

必ずAC100V (50/60Hz)の電源電圧で使用する。

それ以外の電源電圧で使用すると、火災や感電の原因になります。

電池

電池を充電しない。

電池の破裂や液もれにより火災やけがの原因になります。

禁止

電池からもれ出た液には直接触れない。

液が目や口に入ったり、皮膚についたりした場合はすぐに水で洗い流し、医師に相談してください。

分解禁止

分解・改造は厳禁。キャビネットは絶対に開けない。

火災や感電の原因になります。
修理・調整は販売店にご依頼ください。

設置

水ぬれ禁止

本機を下記の場所には設置しない。

- **浴室・台所・海岸・水辺**
- **加湿器を過度にきかせた部屋**
- **雨や雪、水がかかるところ**

水の混入により、火災や感電の原因になります。

禁止

放熱のため本機を設置する際には：

- **布やテーブルクロスをかけない。**
- **じゅうたん・カーペットの上には設置しない。**
- **仰向けや横倒しには設置しない。**
- **通気性の悪い狭いところへは押し込まない。**

本機の内部に熱がこもり、火災の原因になります。

必ず実行

電源プラグを電源に接続する前に、接地する。接地を外す場合は、必ず電源プラグを電源から切り離す。

機器が故障したり、感電したりするおそれがあります。

使用上の注意

禁止

放熱用の通風孔から金属や紙片など異物を入れない。

火災や感電の原因になります。

必ず実行

本機を落としたり、本機が破損した場合には、必ず販売店に点検や修理を依頼する。

そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。

接触禁止

雷が鳴りはじめたら、電源プラグには触れない。

感電の原因になります。

禁止

本機の上には、花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品・ロウソクなどを置かない。

水や異物が中に入ると、火災や感電の原因になります。
接触面が経年変化を起こし、本機の外装を損傷する原因になります。

手入れ

必ず実行

電源プラグのゴミやほこりは、定期的にとり除く。

ほこりがたまったまま使用を続けると、プラグがショートして火災や感電の原因になります。

⚠ 注意

電源/電源コード

プラグを抜く

長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜く。

火災や感電の原因になります。

ぬれ手禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電の原因になります。

禁止

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらない。

コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

必ず実行

電源プラグは、コンセントに根元まで、確実に差し込む。

差し込みが不充分のまま使用すると感電したり、プラグにほこりが堆積して発熱や火災の原因になります。

禁止

電源プラグを差し込んだとき、ゆるみがあるコンセントは使用しない。

感電や発熱および火災の原因になります。

電池

必ず実行

電池は極性表示（プラス＋とマイナス－）に従って、正しく入れる。

間違えると破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

指定以外の電池は使用しない。また、種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池と金属片をいっしょにポケットやバッグなどに入れて携帯、保管しない。

電池がショートし、破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

禁止

電池を加熱・分解したり、火や水の中へ入れない。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

必ず実行

使い切った電池は、すぐに電池ケースから取り外す。

破裂や液もれにより、火災やけがの原因になります。

使い切った電池は、自治体の条例または取り決めに従って廃棄する。

設置

必ず2人以上で開梱や持ち運びをする。

重いので、けがの原因になります。

不安定な場所や振動する場所には設置しない。

本機が落下や転倒して、けがの原因になります。

直射日光のあたる場所や、温度が異常に高くなる場所（暖房機のそばなど）には設置しない。

本機の外装が変形したり内部回路に悪影響が生じて、火災の原因になります。

ほこりや湿気の多い場所に設置しない。

ほこりの堆積によりショートして、火災や感電の原因になります。

他の電気製品とはできるだけ離して設置する。

本機はデジタル信号を扱います。他の電気製品に障害をあたえるおそれがあります。

移動

移動をするときには電源スイッチを切り、すべての接続を外す。

接続機器が落下や転倒して、けがの原因になります。
コードが傷つき、火災や感電の原因になります。

使用上の注意

電源を入れる前や、再生を始める前には、デジタルサウンドプロジェクター音量（ボリューム）を最小にする。

突然大きな音が出て、聴覚障害の原因になります。

音が歪んだ状態で長時間使用しない。

スピーカーが発熱し、火災の原因になります。

環境温度が急激に変化したとき、本機に結露が発生することがあります。

正常に動作しないときには、電源を入れない状態でしばらく放置してください。

業務用機器とは接続しない。

デジタルオーディオインターフェース規格は、民生用と業務用では異なります。本機は民生用のデジタルオーディオインターフェースに接続する目的で設計されています。業務用のデジタルオーディオインターフェース機器との接続は、本機の故障の原因となるばかりでなく、スピーカーを傷める原因になります。

手入れ

手入れをするときには、必ず電源プラグを抜く。

感電の原因になります。

薬物厳禁

ベンジン・シンナー・合成洗剤等で外装をふかない。また接点復活剤を使用しない。

外装が傷んだり、部品が溶解することがあります。

音楽を楽しむエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては大変気になるものです。隣近所への配慮を充分にしましょう。静かな夜間には小さな音でもよく通り、特に低音は床や壁などを伝わりやすく、思わぬところに迷惑をかけてしまいます。適当な音量を心がけ、窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。音楽はみんなで楽しむもの、お互いに心を配り快適な生活環境を守りましょう。

CINEMA DSP DIGITAL

CINEMA DSP ロゴおよび「シネマDSP」「CINEMA DSP」は、ヤマハ株式会社の登録商標です。

DOLBY DIGITAL PRO LOGIC II

ドルビーラボラトリーズからの実施権により製造されています。「ドルビー」、「PRO LOGIC」およびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

dts 5.1 NEO:6

DTSおよびNeo:6はデジタルシアターシステムズの登録商標です。

SRS TruBass

TruBass、SRSと(●)記号はSRS Lab, Inc.の商標です。TruBass技術はSRS Labs, Inc.からのライセンスに基づき製品化されています。

AAC ロゴマーク はドルビーラボラトリーズの商標です。以下はパテントナンバーです。

08/937,950	5,633,981	5,227,788	5,299,239
5848391	5 297 236	5,285,498	5,299,240
5,291,557	4,914,701	5,481,614	5,197,087
5,451,954	5,235,671	5,592,584	5,490,170
5 400 433	07/640,550	5,781,888	5,264,846
5,222,189	5,579,430	08/039,478	5,268,685
5,357,594	08/678,666	08/211,547	5,375,189
5 752 225	98/03037	5,703,999	5,581,654
5,394,473	97/02875	08/857,046	05-183,988
5,583,962	97/02874	08/894,844	5,548,574
5,274,740	98/03036	5,299,238	08/506,729

世界に広く特許申請中の 1Ltd からライセンスを受けています。

‘ ’ および、‘Digital Sound Projector™’ は 1Ltd の商標です。

もくじ

本機について

はじめに 8
- 本機の特長 9
- リスニングルームの条件 10
- 本書の記載について 10
- 付属品を確認する 11

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ ... 12

各部の名称とはたらき 13
- 前面（フロントパネル）/側面 13
- フロントパネルディスプレイ 14
- 背面（リアパネル） 15
- リモコン 16

設置・接続する

設置する 18
- 本機をリスニングルームに設置する ... 18
- 本機を固定する 21

接続する 22
- テレビを接続する 23
- DVDプレーヤー/レコーダーを接続する ... 24
- ビデオデッキを接続する 25
- BSデジタル/衛星放送/ケーブルTVチューナーを接続する 26
- その他の機器を接続する 28
- サブウーファーを接続する 29
- 光ファイバーケーブルを固定する ... 30
- 電源コードを接続する 30
- RS-232C/REMOTE IN/IR-OUT端子について 30

準備する

リモコンの準備 31
- リモコンに電池を入れる 31
- リモコンの操作範囲 32

設定・操作の準備をする 33
- 電源をオン/スタンバイにする 33
- リモコンの基本的な使い方 33
- テレビ画面にメニューを表示する ... 34

設定する

設定の流れ 35

本機を自動設定する 36
- オプティマイザーマイクを設置する 36
- 測定する 38

メモリー機能を使用する 42
- 設定結果をメモリーに保存する 42
- 保存したメモリーを呼び出す 44

基本操作

入力音声を再生する 45
- 再生したい機器を切り替える 45
- テレビやDVDを楽しむ 46

音量を調節する 47
- 一時的に消音する 47

ビームモードの設定を変更する 48
- 5ビームモード 48
- ST（ステレオ）+3ビームモード 49
- 3ビームモード 49
- ステレオモード 50
- ターゲットモード 50

サラウンド再生を楽しむ 51
- 内蔵デコーダーとインジケーター表示 51
- デジタル放送の音声多重を切り替える 51
- 2チャンネルソースをサラウンドで楽しむ 52

シネマDSPについて 54
音楽プログラム 55
映画プログラム 55
スポーツプログラム 55
エフェクトレベルを調節する 56
シネマDSPをオフにする 56
その他の機能 57
音量を抑えてサラウンドを楽しむ（音量モード） 57
低音を効果的に再生する（TruBass） 58
一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする（スリープタイマー） 59

応用操作

本機を手動設定する 60
各メニューを個別に設定する 64
詳細設定メニュー一覧 64
詳細設定メニューの操作手順 65
ビームを設定する 67
設置視聴環境を設定する 67
ビームの角度や長さを設定する（ビーム調整） 68
フロント左/右チャンネルの位置を調節する（Lch/Rch位置調整） 71
音声出力を設定する 72
高音域と低音域の出力レベルを設定する（トーンコントロール） 72
ビームの音量レベルを設定する（ビームレベル） 72
サブウーファーの設定をする 73
消音のレベルを設定する 73
映像と音声のタイミングを調節する 74
設置環境を設定する 74
ダイナミックレンジ圧縮を設定する 74
入力の設定を変更する 75
入力端子の割り当てを変更する（入力端子設定） 75
電源を入れたときに適用する入力モードを設定する（入力信号デコード） 77
各端子の入力レベルを調節する（入力レベル調整） 77
表示の設定を変更する 78
フロントパネルディスプレイの明るさを設定する（本体表示設定） 78
メニューの表示を設定する（テレビ画面設定） 78
本機の設定を変更する 79
音量の最大値を設定する 79
メニューの設定内容を保護する 80
設定した内容を初期化する 80
音声信号の種類を選ぶ 81
音のバランスを調節する 82
テストトーンを使って調節する 82
再生しながら調節する 83
本機のリモコンで外部機器を操作する 84
リモコンコードを登録する 84
設定した機器を操作する 85
テレビマクロ機能を使う 87
リモコンコード一覧 89

付録

故障かな？と思ったら 90
全般 90
リモコン 94
技術/用語解説 95
主な仕様 97
索引 98

はじめに

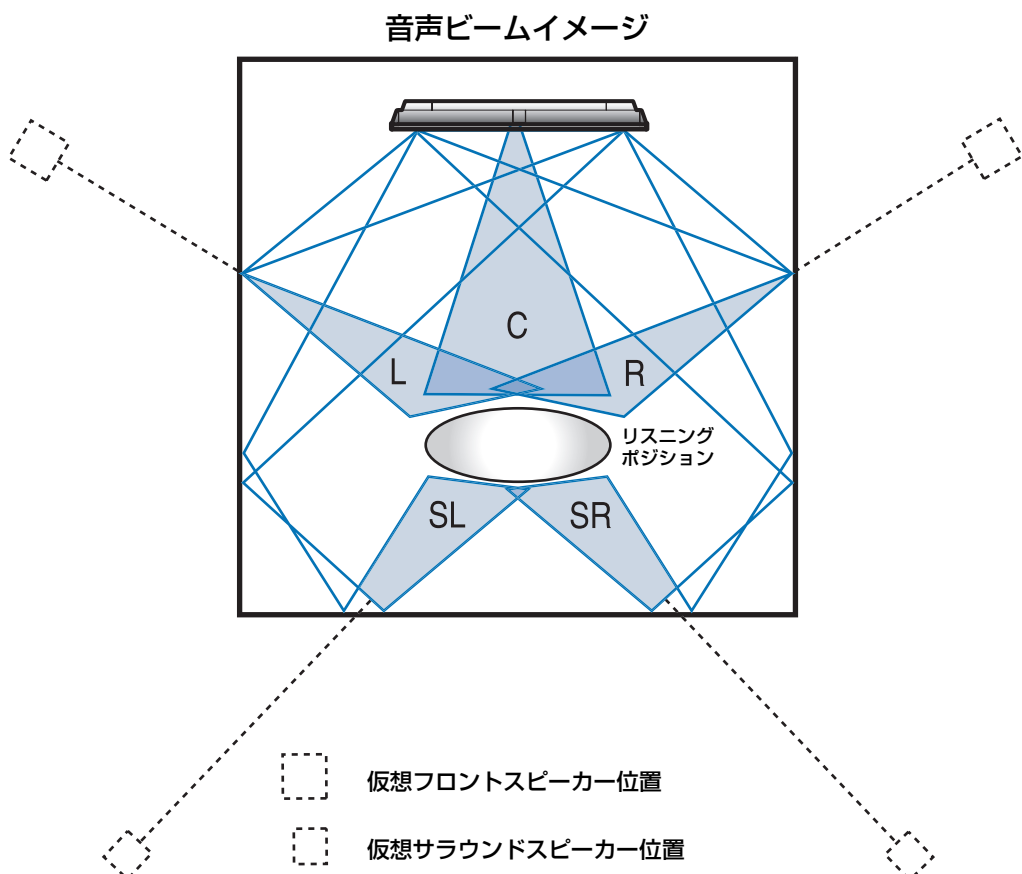
映画館にいるようなサラウンド空間を実現するためには、いくつものスピーカーをそろえ、リスニングルームのあちこちに設置するのが従来のマルチチャンネルサラウンドシステムの常識と考えられてきました。その常識を打ち破り、煩雑なスピーカーの設置や配線といったネガティブな要素を取りのぞいたのがYAMAHAデジタルサウンドプロジェクター「YSP-1000」です。

YSP-1000は、内蔵した2個のウーファーと40個の小口径スピーカーをアレー（格子）状に配置することにより、スリムなデザインと大迫力のサラウンドサウンドを実現しています。

小口径スピーカーのひとつひとつの遅延時間を微妙にコントロールすることによって、小口径スピーカー全体でチャンネルごとに指向性の高い音声を作り出します（音声のビーム化）。ビーム化された音声の指向性（ビームの角度）は、遅延時間を変えることによって調節しています。

フロント右（R）、フロント左（L）、サラウンド右（SR）、サラウンド左（SL）のそれぞれのチャンネル音声に対して音声のビーム化を行い、投射されたビームはリスニングルームの壁に反射してリスニングポジションに向かいます。そして、ビーム化されたセンターチャンネル（C）の音声を加え、5.1チャンネルのリアルサラウンドを創造します。

これにより、まるでリスニングルームの壁の位置にスピーカーを配置したかのようなサラウンド空間を実現します。

YSP-1000の機能をフルに活用し、部屋いっぱいに広がるリアルサラウンドの醍醐味を存分にお楽しみください。

本機の特長

デジタルサウンドプロジェクター機能搭載

音に指向性を持たせる(ビーム化する)ことにより、本機1台で5.1chサラウンド再生を実現します。本機は以下のビームモードを搭載しています。

- 5ビームモード
- ステレオ+3ビームモード
- 3ビームモード
- ステレオモード
- ターゲットモード

シネマDSP(デジタル・サウンド・フィールド・プロセッサー)搭載

世界の著名なコンサートホールや劇場などで実際に測定した音場情報をもとに作成されたシネマDSPを搭載しています。映画、音楽、スポーツの中から、お好みのプログラムを選択できます。

操作性の高いメニュー画面

設定などの操作を、日本語のメニューでサポート。テレビ画面にメニューを表示させて、やりたいことをたどっていけば簡単に設定できます。

メーカーコード設定機能付リモコン

メーカーコードを設定することにより、付属のリモコンでテレビ、DVDプレーヤー、ビデオデッキ、ケーブルテレビ/BSデジタルチューナーを操作することができます。

自動設定機能搭載

本機の設定を、付属のオプティマイザーマイク(高性能測定用マイク)を使用して自動で行うことができます。部屋形状を推定してビームの向きや長さ、音質を設定し、お使いになるお部屋に合わせて最適な視聴空間をつくり出します。

最新の音響技術に対応

以下の信号方式に対応したデコーダーを搭載しています。

- ドルビーデジタル
  DVDが採用している標準音声フォーマットです。
- DTS(デジタル・シアター・システムズ)
  DVDがオプションで採用している音声フォーマットです。
- AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)
  BSデジタル放送や地上デジタル放送が採用している音声フォーマットです。通常の2チャンネルステレオ音声に加え、5.1チャンネルのサラウンド音声や多言語の放送を可能にしています。
- ドルビープロロジック
  2チャンネル音声で記録されたソースをサラウンド再生します。
- ドルビープロロジックII
  2チャンネル音声で記録されたソースをサラウンド再生します。映画用、音楽用、ゲーム用のサラウンドモードが用意されています。
- DTS Neo : 6(ネオ・シックス)
  2チャンネル音声で記録されたソースから最大6チャンネルを抽出し、サラウンド再生します。本機では、5チャンネルの再生モードを使用します。映画用、音楽用のサラウンドモードが用意されています。

リスニングルームの条件

本機はビームを壁に反射させてサラウンドを実現するという特性上、以下のような環境では十分なサラウンド効果が得られなかったり、まったく得られない場合があります。

・ビーム経路上に壁がない部屋

・壁の材質が吸音素材でできている部屋

・部屋の大きさが幅3m～7m、奥行き3m～7m、高さ2m～3.5mにあてはまらない部屋

・本機から視聴位置までの距離が2m未満の場合

・ビーム経路上に出っ張った家具などの障害物がある部屋

・壁に近いところに視聴位置がある場合

・視聴位置が本機の正面にない場合

本書の記載について

・本書はYSP-1000の設置・接続および操作方法について説明しています。他の外部機器の操作方法については、各機器に付属している取扱説明書をご参照ください。

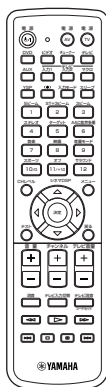
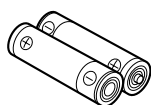
・本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。

・ ご注意 では操作・設定を行う際に留意すべき事項、ヒント では知っておくと便利な補足情報を記載しています。

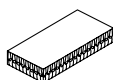
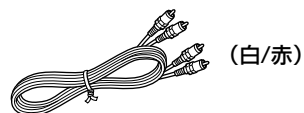
・本書は製品の生産に先がけて印刷されています。製品改良などの理由で、実際の製品と仕様が一部異なる場合があります。また、仕様は予告なく変更されることがあります。ご了承ください。

付属品を確認する

同梱されている付属品がすべてそろっていることをご確認ください。

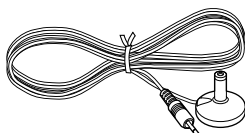
リモコン（1個）

単3乾電池（2本）

ビデオ用ピンケーブル
（1本/1.5m）

（黄）

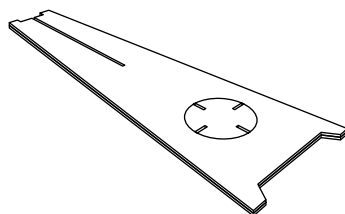
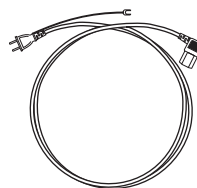
固定テープ（4個）

ステレオピンケーブル
（1本/1.5m）

（白/赤）

ケーブル押さえ（1個）

光ファイバーケーブル
（1本/1.5m）

オプティマイザーマイク
（1本/6m）

デジタル音声ピンケーブル
（1本/1.5m）

（橙）

簡易マイクスタンド
（2枚1セット）

電源コード
（1本/2m）

サラウンドサウンドを楽しむまでの流れ

ヒント

この取扱説明書に加え、別冊の簡易接続・操作ガイドもご利用ください。

1 本機をリスニングルームに設置します。

「設置する」(18ページ)

2 本機をテレビやその他の外部機器と接続します。

「接続する」(22ページ)

3 リモコンや設定・操作の準備をします。

「リモコンの準備～」(31ページ～)

4 自動設定で、本機を使うための設定をします。

「本機を自動設定する」(36ページ)

5 音声を再生したり、ビームモードやシネマDSPの設定を変更し、サラウンドサウンドを楽しみます。

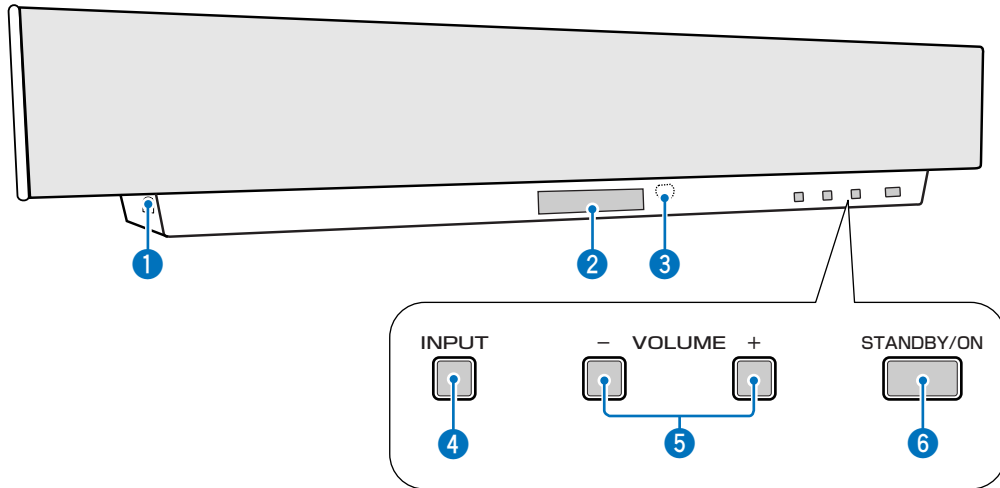
「入力音声を再生する～」(45ページ～)

もっと本機でいろいろなことがしたい！という方は

6 詳細設定やリモコンコード設定などを行います。

「各メニューを個別に設定する～」(64ページ～)

各部の名称とはたらき

前面(フロントパネル)/側面

❶ OPTIMIZER MIC端子

(オプティマイザー マイク)

付属のオプティマイザーマイクを接続します(36ページ)。

❷ フロントパネルディスプレイ

再生の状態や設定値などを表示します。

❸ リモコン受光窓

リモコンの赤外線信号を受信します。

❹ INPUTキー

(インプット)

再生する機器を選択します。

❺ VOLUME+/−キー

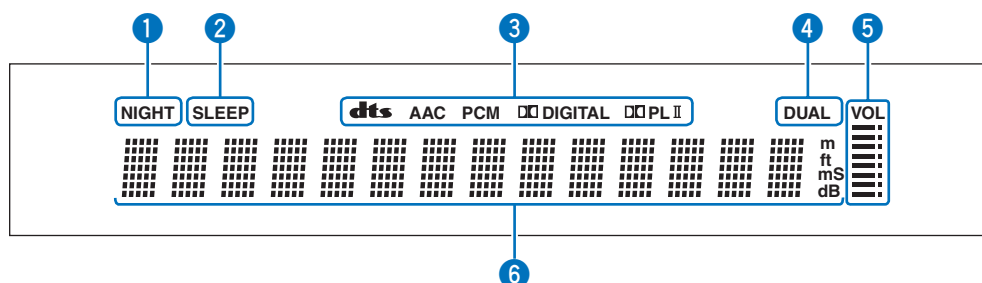
(ボリューム)

音量を調節します(47ページ)。

❻ STANDBY/ONキー

(スタンバイ オン)

電源モード(スタンバイ/オン)を切り替えます(33ページ)。

フロントパネルディスプレイ

1 NIGHT（ナイト）インジケーター

ナイトリスニングモードまたはテレビ音量一定モードで再生しているときに点灯します（57ページ）。

2 SLEEP（スリープ）インジケーター

スリープタイマー設定時に点灯します（59ページ）。

3 デコーダーインジケーター

本機に内蔵のデコーダーが作動しているときにそれぞれのインジケーターが点灯します（51ページ）。

4 DUAL（デュアル）インジケーター

BS/CS/地上デジタルの音声多重信号が入力されているときに点灯します。

5 VOLUME（ボリューム）インジケーター

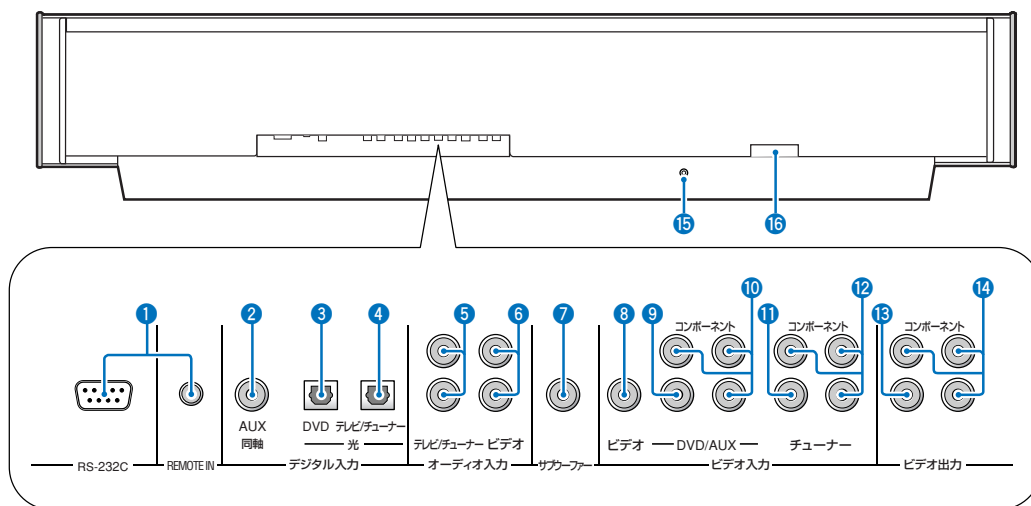
現在の音量を表示します（47ページ）。

6 マルチインフォメーションディスプレイ

設定値などの情報を表示します。

ヒント

「フロントパネルディスプレイの明るさを設定する（本体表示設定）」（78ページ）で、フロントパネルディスプレイの明るさを調節することができます。

背面(リアパネル)

❶ RS-232C/REMOTE IN端子
工場でのサービスに使用します(30ページ)。

❷ 同軸デジタル入力(AUX)端子
外部機器と同軸デジタル接続します(28ページ)。

❸ 光デジタル入力(DVD)端子
DVDと光デジタル接続します(24ページ)。

❹ 光デジタル入力(テレビ/チューナー)端子
テレビ/チューナーと光デジタル接続します(23ページ)。

❺ オーディオ入力(テレビ/チューナー)端子
テレビ/チューナーとアナログ接続します(23ページ)。

❻ オーディオ入力(ビデオ)端子
ビデオデッキとアナログ接続します(25ページ)。

❼ サブウーファー端子
サブウーファーと接続します(29ページ)

❽ ビデオ入力(ビデオ)端子
ビデオデッキとコンポジット接続します(25ページ)。

❾ ビデオ入力(DVD/AUX)端子
DVD/外部機器とコンポジット接続します(24ページ)。

❿ コンポーネントビデオ入力(DVD/AUX)端子
DVD/外部機器とコンポーネント接続します(24ページ)。

⓫ ビデオ入力(チューナー)端子
チューナーとコンポジット接続します(26ページ)。

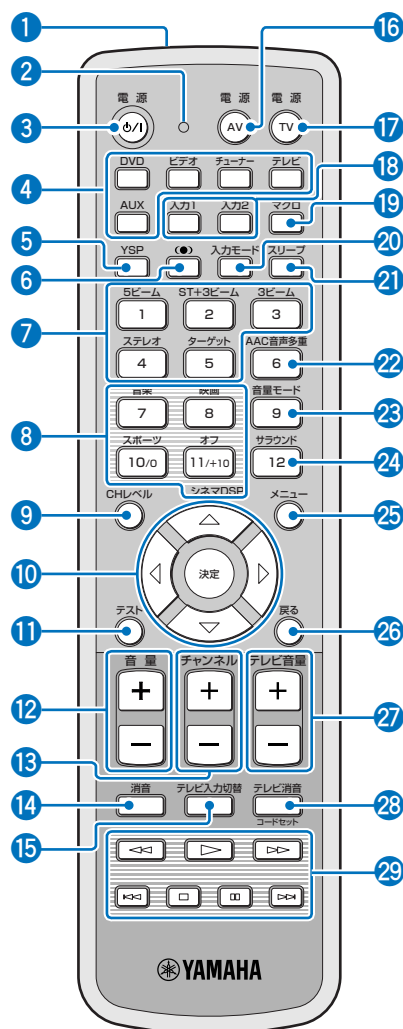
⓬ コンポーネントビデオ入力(チューナー)端子
チューナーとコンポーネント接続します(26ページ)。

⓭ ビデオ出力端子
テレビの映像入力端子とコンポジット接続します(23ページ)。

⓮ コンポーネントビデオ出力端子
テレビの映像入力端子とコンポーネント接続します(23ページ)。

⓯ IR-OUT端子
工場でのサービスに使用します(30ページ)。

⓰ AC IN端子
電源コードを接続します(30ページ)。

リモコン

❶ 赤外線送信部
リモコン操作用の赤外線信号を送信します。

❷ トランスミッションインジケーター
リモコン操作用の赤外線信号を送信しているときに点灯します。

❸ 電源(⏻/I)キー
YSP-1000の電源モード(スタンバイ/オン)を切り替えます(33ページ)。

❹ 入力選択キー
再生する機器を選択します(45ページ)。

❺ YSPキー
リモコンをYSP-1000の操作モードに切り替えます(38ページ)。

❻ (●) TruBass(トゥルーベース)キー
低音を効果的に再生するときに使用します(58ページ)。

❼ ビームモードキー/数字(1～5)キー
ビームモードの設定を変更します(48ページ)。

数字(1～5)を入力します。

❽ シネマDSPキー/数字(7, 8, 10/0, 11/+10)キー
シネマDSPの音場プログラムを選択します(54ページ)。

数字(7, 8, 10/0, 11/+10)を入力します。

❾ CH(チャンネル)レベルキー
各チャンネルの音量を調節します(83ページ)。

❿ カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー
メニューを選択するときなどに使用します。

メニュー画面上では、▲/▼/◀/▶ がカーソル(△/▽/◁/▷)キーを表しています。

⑪ テストキー
テストトーンを出力します(82ページ)。

⑫ 音量(+/−)キー
YSP-1000の音量を調節します(47ページ)。

⑬ チャンネル(+/−)キー
テレビやビデオのチャンネルを切り替えます(85ページ)。

⑭ 消音キー
YSP-1000を消音します(47ページ)。

⑮ テレビ入力切替キー
テレビの入力を切り替えます(85ページ)。

⑯ 電源(AV)キー
選択した機器の電源モード(スタンバイ/オン)を切り替えます(85ページ)。

⑰ 電源(TV)キー
テレビの電源モード(スタンバイ/オン)を切り替えます(85ページ)。

⑱ 入力1/2キー
テレビの入力を選択します(85ページ)。

⑲ マクロキー
テレビマクロを設定します(87ページ)。

⑳ 入力モードキー
本機に入力される音声信号を選択します(81ページ)。

㉑ スリープキー
スリープタイマーを設定します(59ページ)。

㉒ AAC音声多重キー/数字(6)キー
AAC音声多重の設定を切り替えます(51ページ)。

数字(6)を入力します。

㉓ 音量モードキー/数字(9)キー
音量を抑えてサラウンドを楽しむときに使用します(57ページ)。

数字(9)を入力します。

㉔ サラウンドキー/数字(12)キー
サラウンドモードを選択します(52ページ)。

数字(12)を入力します。

㉕ メニューキー
セットメニューをテレビ画面に表示します(38ページ)。

入力選択キーでDVDを選択している場合、DVDメニューを表示します。

㉖ 戻るキー
メニューで前の画面に戻るときに使用します(38ページ)。

㉗ テレビ音量(+/−)キー
テレビのボリュームを調節します(85ページ)。

㉘ テレビ消音キー/コードセットキー
テレビを消音します(85ページ)。

リモコンコードを登録する(84ページ)ときや、テレビマクロ機能を使う(87ページ)ときに使用します。

㉙ DVD、ビデオデッキ操作キー
再生、停止など、DVDやビデオの基本的な操作に使用します(85ページ)。

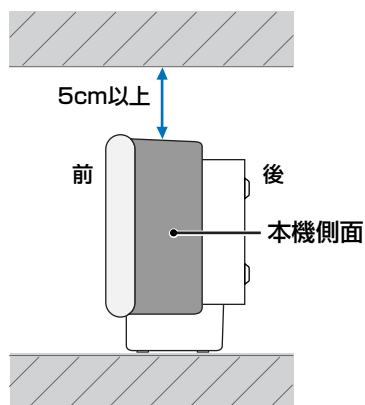
ヒント

リモコンコードを登録すれば、本機のリモコンで外部機器を操作することができます(84ページ)。

設置する

ここでは本機の設置方法について説明します。下記の「設置上のご注意」を参照のうえ、安全な場所に正しく設置してください。なお、ビーム経路上に家具などの障害物があると適切なサラウンド効果が得られない場合がありますので、ビームの経路を考慮した上で設置位置を決定してください。

設置上のご注意

本機の設置には、十分な放熱スペースが必要です。右図のように、本機の上部(または下部)に5cm以上スペースが開くように設置してください。
本機は13kgの重さがあります。地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。
ブラウン管式テレビなど、発熱体の上へは直接設置しないでください。
本機は、防磁型設計となっておりますが、万一テレビに色ムラなどが生じるときは、テレビと本機の距離を離してご使用ください。

本機をリスニングルームに設置する

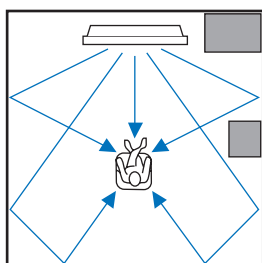
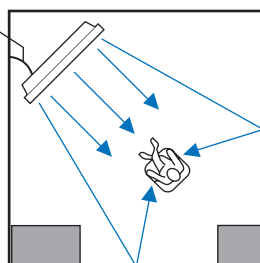
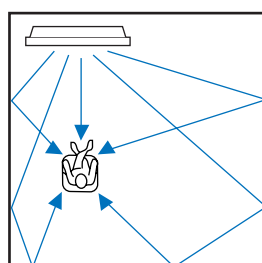
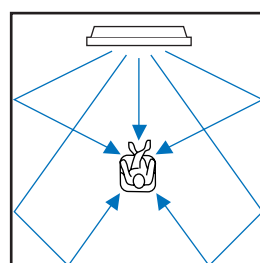
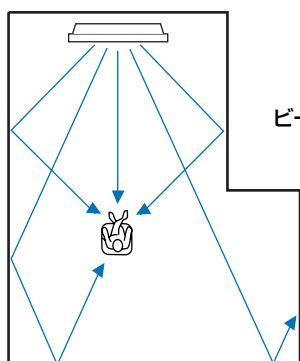
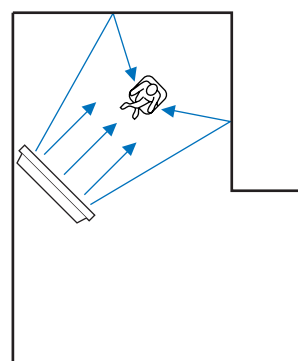
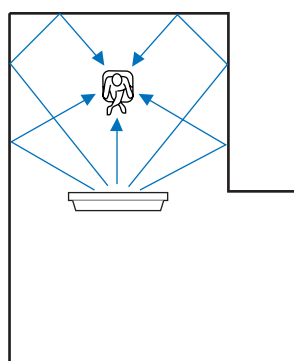
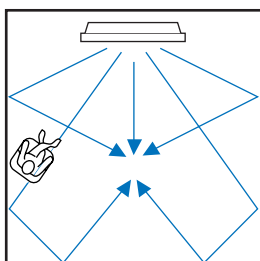
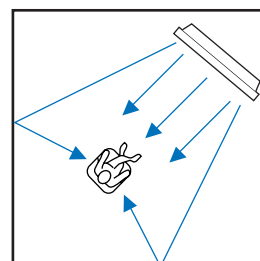
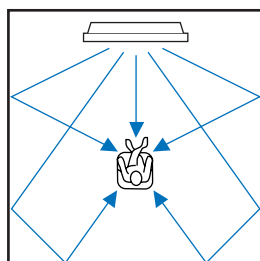
十分なサラウンド効果を得るために、図のように家具などの障害物がビーム経路と重ならない場所に設置してください。

本機を壁と平行に設置する場合には、できるだけ左右の壁の中央に設置し、本機が左右の壁に近づきすぎないようにしてください。

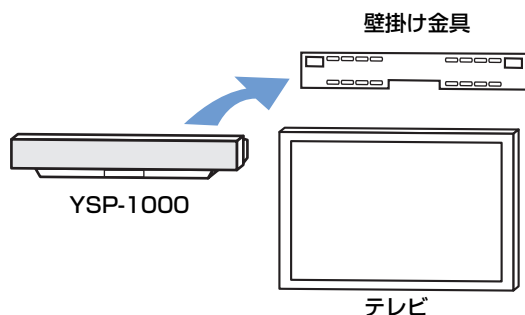
本機を部屋のコーナーに設置する場合には、本機と、隣接する壁との角度が40°～50°の間におさまるように設置してください。

ヒント

設置する場所によっては、選択できないビームモードもあります。選択できるビームモード(48ページ)は以下のとおりです。
[壁と平行に設置する場合]　ステレオモード、3ビームモード、5ビームモード、ST+3ビームモード、ターゲットモード
[コーナーに設置する場合]　ステレオモード、ST+3ビームモード、ターゲットモード

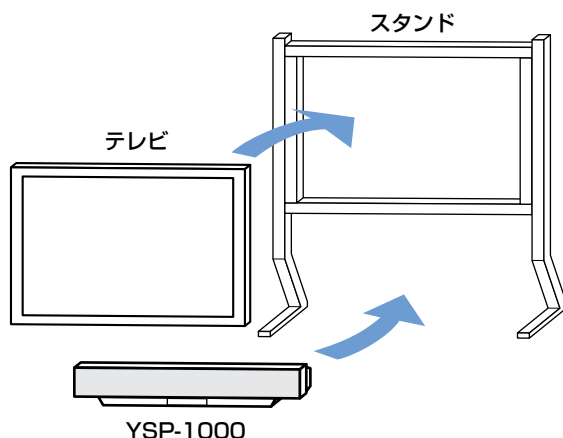
家具などの障害物

設置例1

できるだけ左右の壁の
中央に設置する

設置例2

設置例3

できるだけ視聴位置の
正面に設置する

壁掛け金具を使用して設置する場合

オプションの壁掛け金具を使用して本機を壁に設置します。

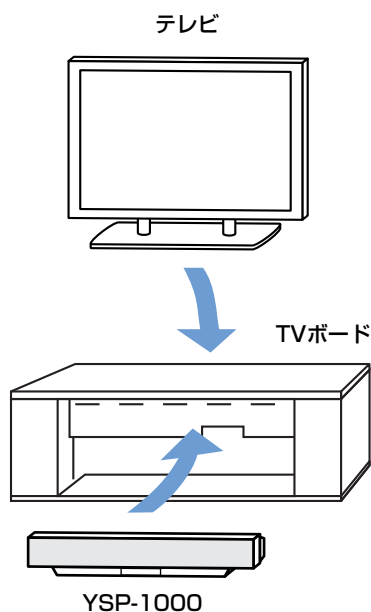
壁掛け金具の壁への取り付けや、壁掛け金具への本機の取り付けについては、壁掛け金具に付属している取扱説明書をご参照ください。

スタンドを使用して設置する場合

市販のラックに設置したスタンドにテレビを取り付け、本機をテレビの下に設置します。

スタンドの設置やテレビと本機の取り付けについては、スタンドに付属している取扱説明書をご参照ください。

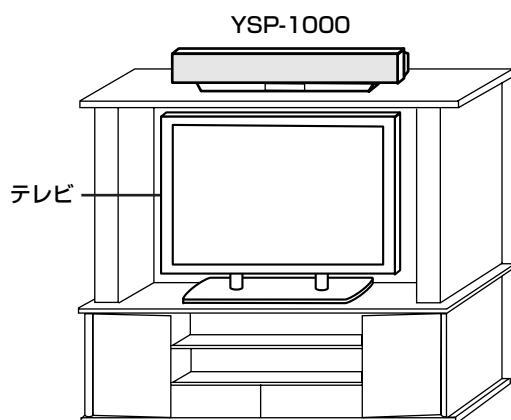
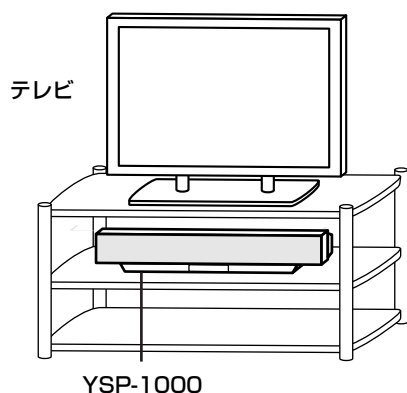
スタンドは本機を設置するのに十分なスペースを持ったものをお買い求めください。

テレビボードを使用して設置する場合

オプションのTVボードを使用して本機を設置します。

TVボードへの本機の取り付けについては、TVボードに付属している取扱説明書をご参照ください。

ラックを使用して設置する場合

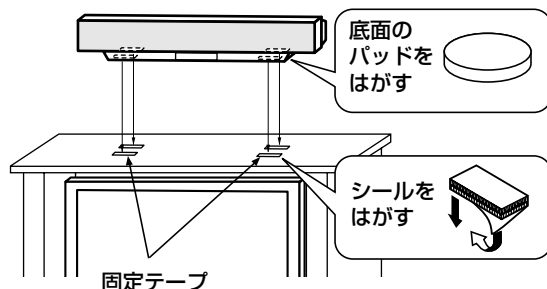
市販のラックを使用して、本機をテレビの上または下に設置します。

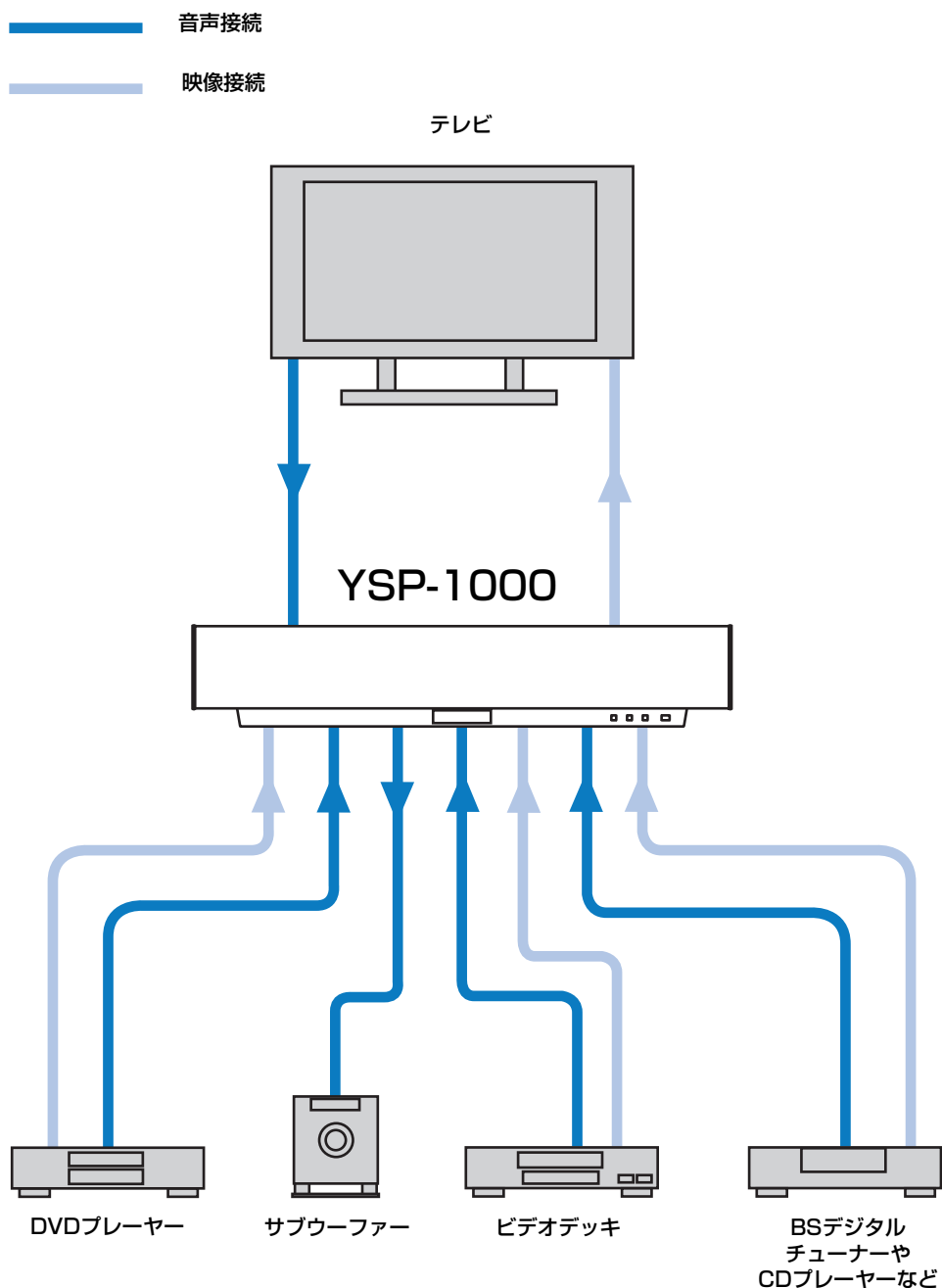
ラックは本機を設置するのに十分なサイズと放熱スペース、本機とテレビを設置するのに十分な強度を持ったものをお買い求めください。

設置例（テレビの上）

設置例（テレビの下）

本機を固定する

本機底面のパッドをはがしてから、下図のように付属の固定テープ（4個）を本機の底面四隅とラック等の上面に貼り、固定してください。

ご注意

- 上面が傾いたラックの上には設置しないでください。本機が落下するとけがの原因になります。
- 固定テープを貼る前に、ラック等の上面をきれいに拭いてください。表面が汚れていたり、または濡れていたりすると、テープの接着力が弱まり、本機が落下する原因になります。

接続する

本機は音声入力用として、光デジタル端子を2系統、同軸デジタル端子を1系統、アナログ端子を2系統装備しています。また、映像入力用として、コンポーネント端子を2系統、コンポジット端子を3系統、映像出力用として、コンポーネント端子を1系統、コンポジット端子を1系統装備しています。それらを利用してテレビやDVDプレーヤー、ビデオデッキ、BSデジタルチューナーやゲーム機などを接続してください。また、サブウーファーを本機に接続すると、よりダイナミックな低音を楽しむことができます。本機とそれぞれの機器の詳しい接続方法については23ページ～29ページを参照してください。

テレビを接続する

音声接続

テレビのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(テレビ/チューナー)端子を接続します。テレビに光デジタル接続端子がある場合は、アナログ接続に加えて、テレビの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(テレビ/チューナー)端子を接続してください。デジタル放送受信時に、デジタル音声信号を本機に入力することができます。

光ファイバーケーブルは接続後、付属のケーブル押さえで受けるようにすると脱落防止になります(30ページ)。

映像接続

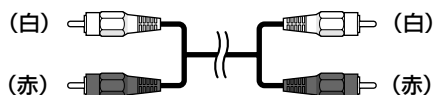
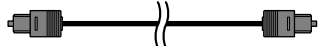
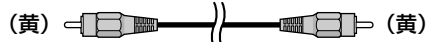
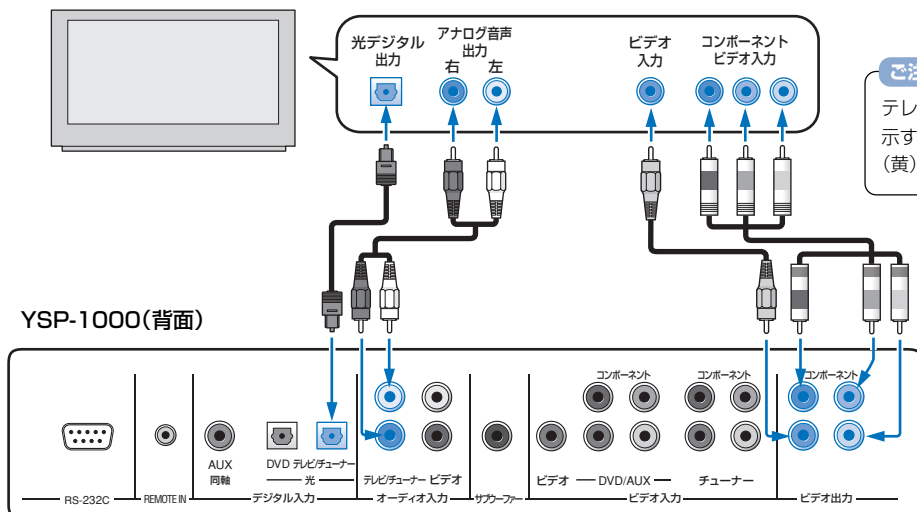
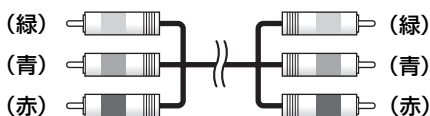
テレビの映像入力端子と本機のビデオ出力端子(黄)を接続します。テレビにコンポーネントビデオ端子がある場合は、コンポジット接続に加えて、テレビのコンポーネントビデオ入力端子と本機のコンポーネントビデオ出力端子を接続してください。コンポーネント接続では、より高画質な映像を再生できます。
また、本機のコンポジット信号回路とコンポーネント信号回路は独立しています。そのため、コンポジット入力端子からの信号はコンポジット端子へのみ出力され、コンポーネント入力端子からの信号はコンポーネント端子へのみ出力されます。

ヒント

- デジタル放送対応のテレビをご使用の場合、デジタル出力のAACが有効になっていることをご確認ください(テレビ側の設定)。詳しくは、ご使用のテレビに付属している取扱説明書をご参照ください。
- 地上デジタル放送は、2003年12月から一部の地域で開始されています。従来の地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。

ご注意

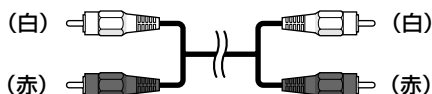
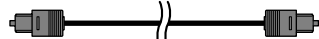
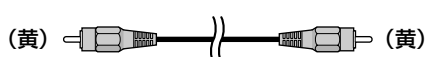
テレビに本機のメニューを表示するには、ビデオ出力端子(黄)とテレビを接続します。

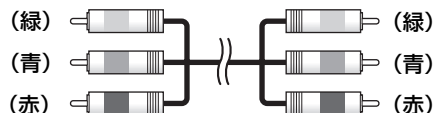
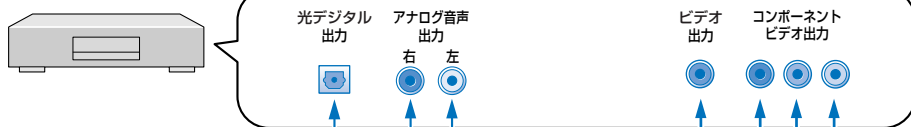
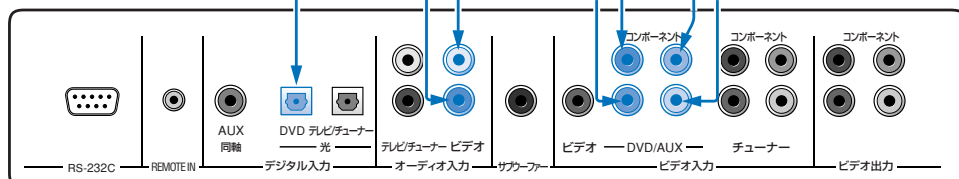
本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

DVDプレーヤー/レコーダーを接続する

音声接続

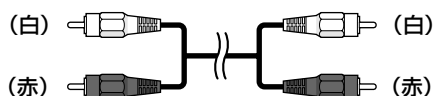
DVDプレーヤー/レコーダーの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(DVD)端子を接続します。ビデオデッキ一体型DVDプレーヤー/レコーダーと接続する場合は、デジタル接続に加えて、DVDプレーヤー/レコーダーのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(ビデオ)端子を接続してください。光ファイバーケーブルは接続後、付属のケーブル押さえで受けるようにすると脱落防止になります(30ページ)。

映像接続

DVDプレーヤー/レコーダーのビデオ出力端子と本機のビデオ入力(DVD/AUX)端子を接続します。DVDプレーヤー/レコーダーにコンポーネントビデオ端子がある場合は、DVDプレーヤー/レコーダーのコンポーネントビデオ出力端子と本機のコンポーネントビデオ入力(DVD/AUX)端子を接続します。ビデオ入力(DVD/AUX)端子との接続よりも高画質な映像を再生できます。

ヒント

- DVDプレーヤー/レコーダーのデジタル音声出力で、ドルビーデジタル、DTS(またはビットストリーム)が有効になっていることをご確認ください(DVDプレーヤー/レコーダー側の設定)。詳しくは、ご使用のDVDプレーヤー/レコーダーに付属している取扱説明書をご参照ください。
- DVDプレーヤー/レコーダーに光デジタル出力端子がない場合は同軸デジタル接続をしてください(28ページ)。

ビデオデッキを接続する

音声接続

ビデオデッキのアナログ音声出力端子と本機のオーディィオ入力(ビデオ)端子を接続します。右チャンネルと左チャンネルをよく確認して正しく接続してください。

映像接続

ビデオデッキのビデオ出力端子と本機のビデオ入力(ビデオ)端子を接続します。

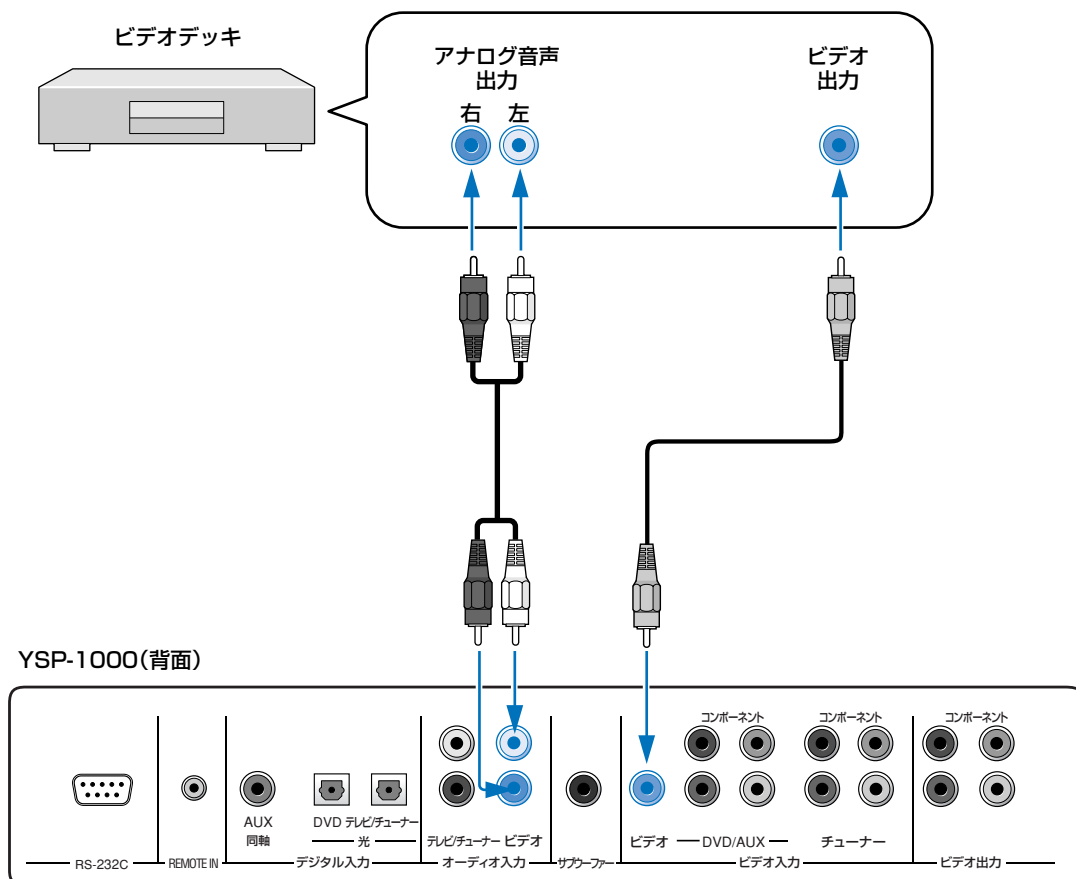
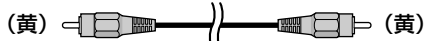
ビデオデッキ

アナログ音声出力

右　左

ビデオ出力

YSP-1000(背面)

RS-232C　REMOTE IN　AUX 同軸　DVD　テレビ/チューナー　光　デジタル入力　テレビ/チューナー　ビデオ　オーディオ入力　サブウーファー　ビデオ　DVD/AUX　チューナー　ビデオ入力　コンポーネント　ビデオ出力

BSデジタル/衛星放送/ケーブルTVチューナーを接続する

音声接続

BSデジタル/衛星放送/ケーブルTVチューナーの光デジタル出力端子と本機の光デジタル入力(テレビ/チューナー)端子を接続します。デジタル接続に加えて、デジタルテレビ/衛星放送チューナーやケーブルテレビのアナログ音声出力端子と本機のオーディオ入力(テレビ/チューナー)端子を接続してください。

映像接続

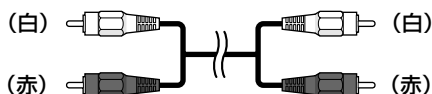
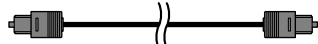
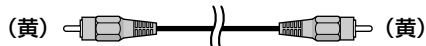
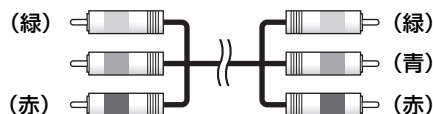
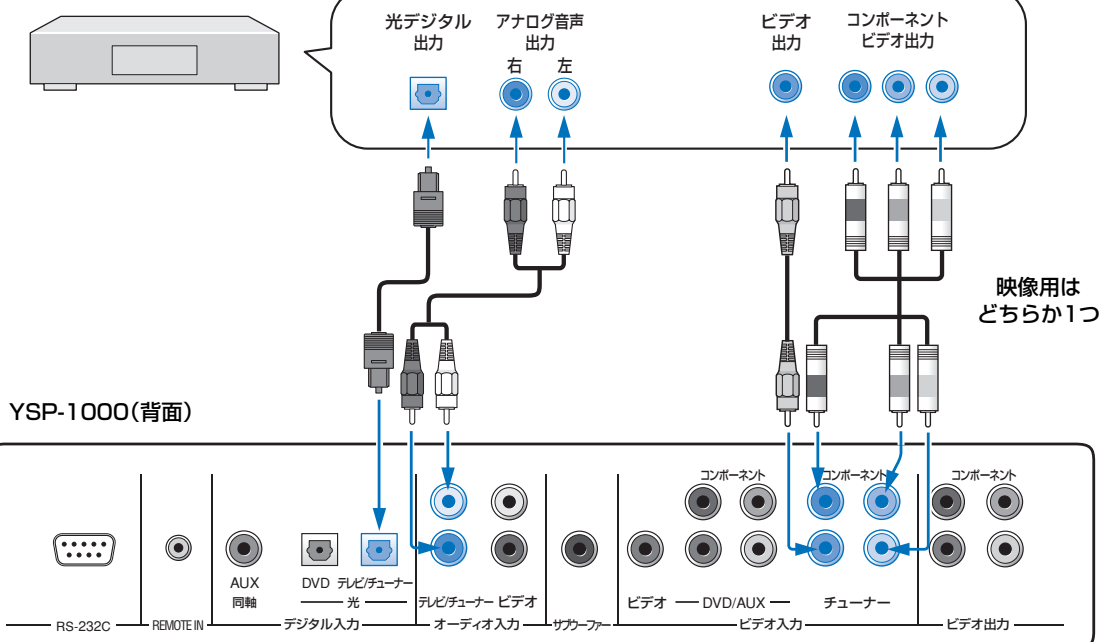
BSデジタル/衛星放送/ケーブルTVチューナーのビデオ出力端子と本機のビデオ入力(チューナー)端子を接続します。チューナーにコンポーネントビデオ端子がある場合は、チューナーのコンポーネントビデオ出力端子と本機のコンポーネントビデオ入力(チューナー)端子を接続します。ビデオ出力(チューナー)端子との接続よりも高画質な映像を再生できます。

BSデジタル/衛星放送/ケーブルTVチューナー

光デジタル出力　アナログ音声出力 右 左　ビデオ出力　コンポーネントビデオ出力

映像用はどちらか1つ

YSP-1000(背面)

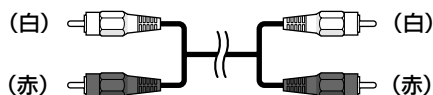
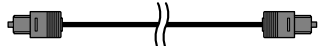
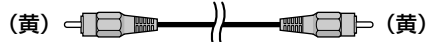
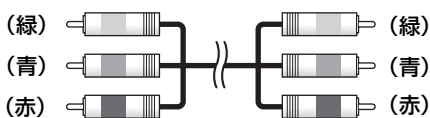
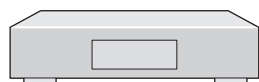
RS-232C　REMOTE IN　AUX 同軸　DVD テレビ/チューナー 光 デジタル入力　テレビ/チューナー ビデオ オーディオ入力　サブウーファー　ビデオ DVD/AUX チューナー コンポーネント ビデオ入力　コンポーネント ビデオ出力

地上アナログ放送非対応のチューナーをご使用の場合

音声接続

地上アナログ放送を受信しないチューナーが接続されている場合は、デジタル接続に加えて、本機のオーディオ入力(テレビ/チューナー)端子とテレビのアナログ音声出力端子を接続してください。

ご利用の際に地上アナログ放送の音声を出力したいときは、チューナーの電源をオフにしてください。

映像接続

地上デジタルチューナーのビデオ出力端子と本機のビデオ入力(チューナー)端子を接続します。チューナーにコンポーネントビデオ端子がある場合は、チューナーのコンポーネントビデオ出力端子と本機のコンポーネントビデオ入力(チューナー)端子を接続します。ビデオ出力(チューナー)端子との接続よりも高画質な映像を再生できます。

地上デジタルチューナー

光デジタル出力

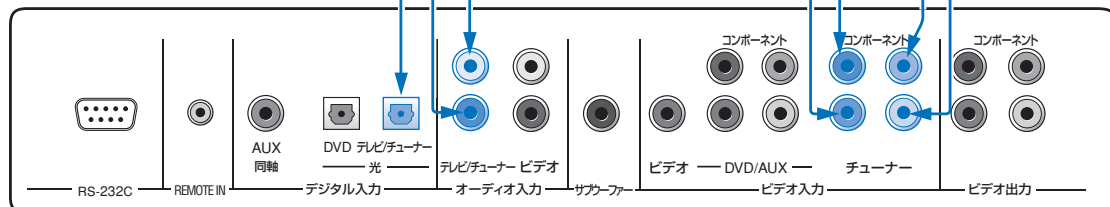
ビデオ出力

コンポーネントビデオ出力

アナログ接続：テレビの音声出力端子へ

映像用はどちらか1つ

YSP-1000(背面)

RS-232C　REMOTE IN　AUX 同軸　DVD　テレビ/チューナー　光　デジタル入力　テレビ/チューナー　ビデオ　オーディオ入力　サブウーファー　ビデオ　DVD/AUX　コンポーネント　チューナー　コンポーネント　ビデオ入力　コンポーネント　ビデオ出力

その他の機器を接続する

その他の機器の同軸デジタル出力端子と本機の同軸デジタル入力(AUX)端子を接続します。

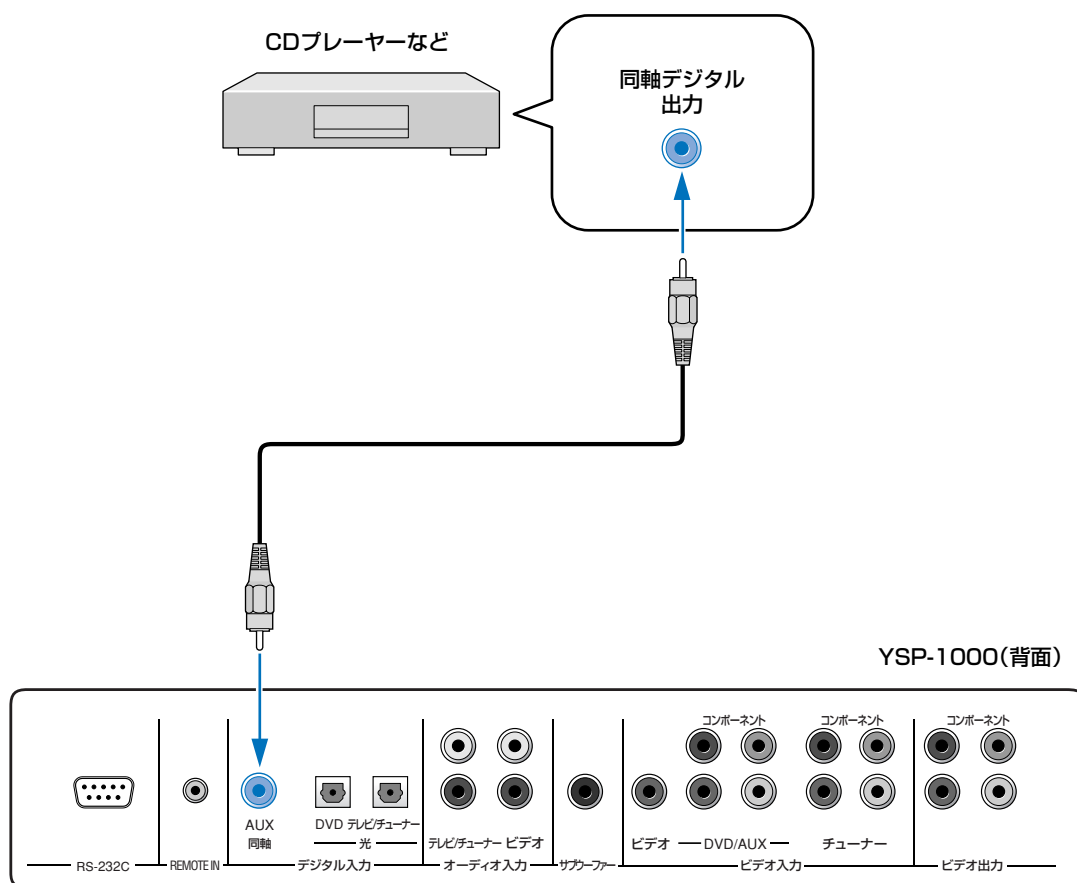
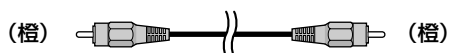
同軸デジタル接続に対応した機器を接続したいときや、DVDプレーヤー/レコーダーを同軸デジタル接続するときにご利用ください。

DVDプレーヤー/レコーダーを接続した場合は、詳細設定の「入力端子の割り当てを変更する(入力端子設定)」(75ページ)で入力端子の設定を変更すると便利です。

CDプレーヤーなど

同軸デジタル
出力

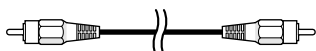
YSP-1000(背面)

RS-232C
REMOTE IN
AUX
同軸
DVD テレビ/チューナー
光
デジタル入力
テレビ/チューナー ビデオ
オーディオ入力
サブウーファー
コンポーネント
ビデオ
DVD/AUX
チューナー
ビデオ入力
ビデオ出力

サブウーファーを接続する

サブウーファーのモノラル入力端子と本機のサブウーファー端子を接続します。

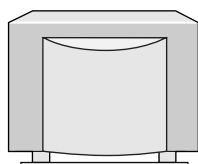
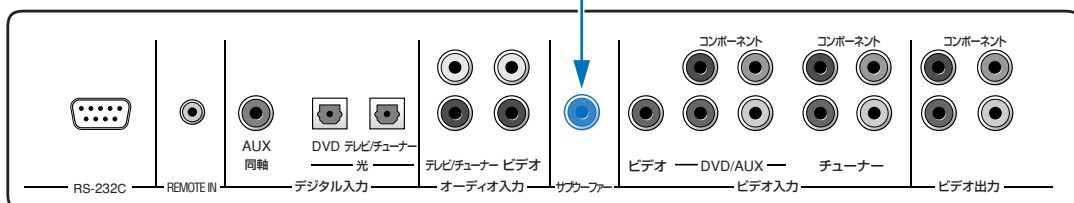
低音成分は本機からも出力されます。サブウーファーを接続した場合、サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う（36ページ）か、詳細設定の「1 「バス出力」を設定する」（73ページ）で「サブウーファー」を選択してください。

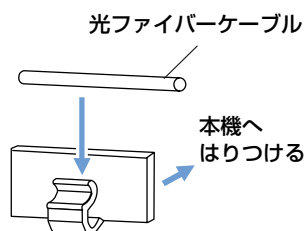
接続に使うケーブル

サブウーファー用ピンケーブル

サブウーファー

モノラル
入力

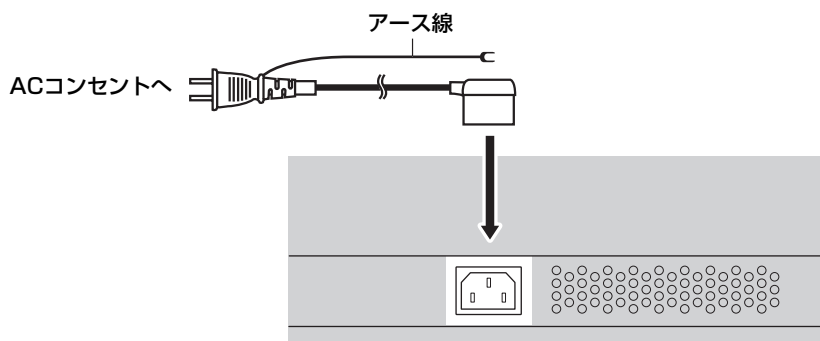
YSP-1000（背面）

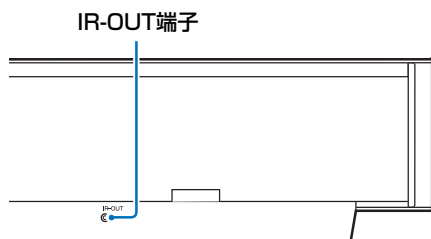
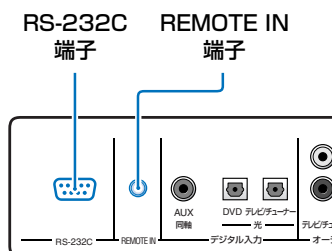
RS-232C　REMOTE IN　AUX 同軸　DVD　テレビ/チューナー　光　デジタル入力　テレビ/チューナー　ビデオ　オーディオ入力　サブウーファー　ビデオ　DVD/AUX　チューナー　コンポーネント　コンポーネント　コンポーネント　ビデオ入力　ビデオ出力

光ファイバーケーブルを固定する

光ファイバーケーブルを使って接続した場合、ケーブルの脱落を防ぐため、付属のケーブル押さえで固定します。ケーブル押さえの口が開いている方を上にして、本体背面の適当な位置に取り付け、ケーブルを固定してください。

電源コードを接続する

すべての接続が終了したら、電源コードを本体のAC IN端子にしっかりと差し込み、家庭用AC100VのACコンセントに電源プラグを接続します。

ご注意

アース接続は、必ず主電源プラグを主電源につなぐ前に行ってください。また、アース接続を外す場合は、必ず主電源プラグから切り離してから行ってください。

RS-232C/REMOTE IN/IR-OUT端子について

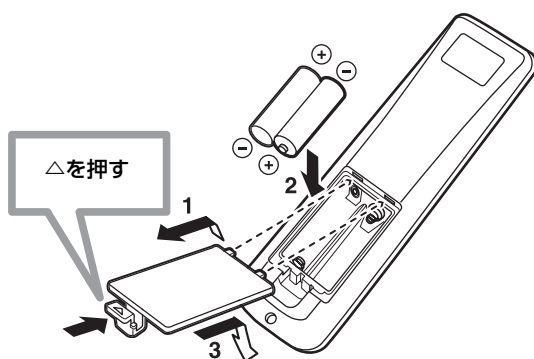
RS-232C端子、REMOTE IN端子およびIR-OUT端子は工場でのサービスに使用します。通常、外部機器との接続に用いることはありません。

リモコンの準備

リモコンに電池を入れる

1 ***バッテリーカバーの△マークを押しながら、カバーをリモコンから取り外す***

2 ***付属の単3乾電池(2本)を、電池ケースに挿入する***

電池の向き(+/−極性)を正しく挿入してください。

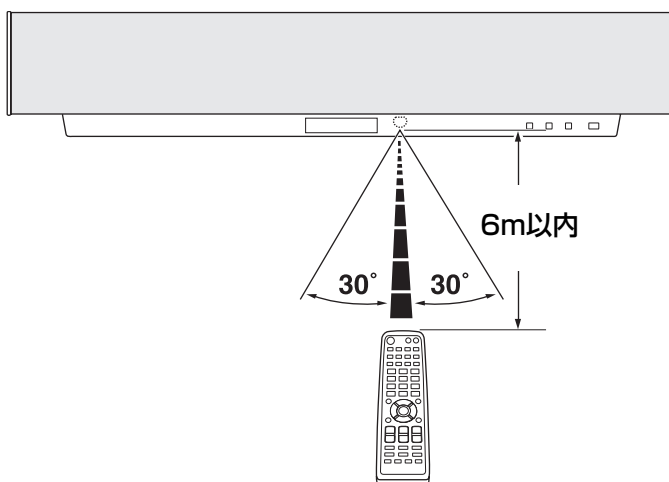
3 ***バッテリーカバーをリモコンに装着する***

ヒント

リモコンの保護シートは、はがしてご利用ください。

ご注意

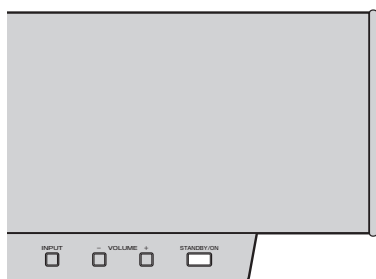
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しないでください。
- 種類の異なる電池(アルカリとマンガンなど)を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性質の異なる場合がありますのでご注意ください。
- 使い切った電池はただちにリモコンから取り出してください。リモコンに挿入したままにしておくと、破裂や液漏れの原因となります。
- 使い切った電池は地域の条例または取り決めに従って廃棄してください。
- 電池が液漏れしている場合は、ただちに電池をリモコンから取り出し、廃棄してください。その際、肌や衣服が漏れているバッテリー液にふれることのないよう十分ご注意ください。
リモコンにバッテリー液が付着している場合はきれいに拭き取ってから新しい電池を挿入してください。
- リモコンから電池を取り出したら2分以内に新しい電池を挿入してください。これ以上の時間が経過すると、リモコンの設定内容が消去されます。また、電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

リモコンの操作範囲

リモコンで本機を操作する際は、リモコンの赤外線送信部を本体のリモコン受光窓（13ページ）に向けます。リモコン操作が可能な範囲は、本体から6m以内で正面から左右に30°以内です。

ご注意

- リモコンに水や飲み物などをこぼさないようご注意ください。
- リモコンを落としたり、リモコンに強い衝撃を与えたりしないようご注意ください。
- リモコンを以下のような場所に放置しないでください。
  - 気温・湿度が高い場所（ヒーターの近くや風呂場など）
  - 極端に気温が低い場所
  - ほこりっぽい場所
- リモコン受光窓には直射日光や蛍光灯などの強い光が当たらないようにしてください。
- リモコンの電池が消耗すると、リモコンで本機を操作できる距離が極端に短くなります。このような場合、早めに新しい電池と交換してください。

設定・操作の準備をする

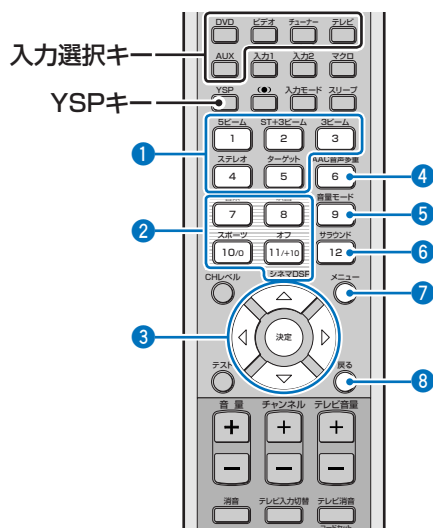
電源をオン/スタンバイにする

本体のSTANDBY/ONキーまたはリモコンの電源キーを押す

押すたびに電源のオン/スタンバイが切り替わります。

リモコンの基本的な使い方

本機のリモコンは、入力選択キー(DVD/ビデオ/チューナー/テレビ/AUX)またはYSPキーを押すことによって機能が切り替わります。❶～❽のキーは、YSPキーを押してリモコンをYSPモードに切り替えることによって有効になります。

ヒント

リモコンコードを登録した場合に操作可能になるキーについては「本機のリモコンで外部機器を操作する」(84ページ)をご参照ください。リモコンコードが登録されている場合には、モードを切り替えることによって、❶～❽のキーでそれぞれの機器を操作することができます。

❶ ビームモードキー
❷ 音場プログラムキー
❸ カーソル(△/▽/◁/▷)キー/決定キー
❹ AAC音声多重キー
❺ 音量モードキー
❻ サラウンドキー
❼ メニューキー
❽ 戻るキー

テレビ画面にメニューを表示する

本機のビデオ出力端子とテレビの映像入力端子を接続することにより(23ページ)、テレビ画面で本機のメニューを見ることができます。

メニューでは、音量や入力選択されている機器名など、さまざまな情報を見たり、メニューをテレビ画面上で操作して本機の設定を行ったりできます(38ページ)。
メニューが表示されるキーの機能については、表に記載の参照ページをご覧ください。

ヒント

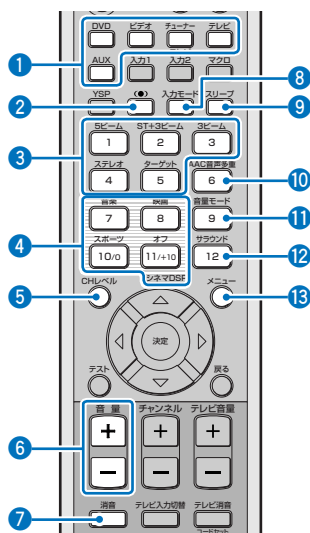
- コンポーネント接続(本機のコンポーネントビデオ出力端子とテレビの映像入力端子との接続)のみでは、メニューは表示されません。メニューを表示させるには、コンポジット接続(本機のビデオ出力端子とテレビとの接続)を行ってください(23ページ)。
- 詳細設定の「メニューの表示を設定する(テレビ画面設定)」(78ページ)で、メニュー表示に関する設定を変更することができます。

1 テレビの電源を入れる

2 テレビの映像入力切替を操作して本機の映像に切り替える

たとえば、本機のビデオ出力端子とテレビの映像入力1端子を接続した場合は、テレビの映像入力を「1」に切り替えます。

3 右上の表で示したリモコンキーを押す

テレビ画面に右下のようなメニューが表示されます。

メニューが表示されるキー	参照ページ
❶ 入力選択キー	45
❷ (●) TruBassキー	58
❸ ビームモードキー	48
❹ シネマDSPキー	54
❺ CHレベルキー	83
❻ 音量+/−キー	47
❼ 消音キー	47
❽ 入力モードキー	81
❾ スリープキー	59
❿ AAC音声多重キー	51
⓫ 音量モードキー	57
⓬ サラウンドキー	52
⓭ メニューキー	38

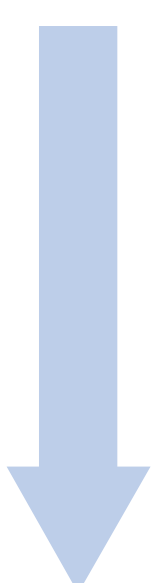
メニュー表示例(❶入力選択キーのテレビキーを押した場合)

テレビ
自動：アナログ

設定の流れ

本機をリスニングルームの環境に合うように設定します。

自動設定を行います。

「本機を自動設定する」(36ページ)

エラーが表示されたら

エラーメッセージを確認して問題を解決します。

「エラーメッセージについて」(41ページ)

エラーが解決できない方は

手動設定を行います。

「本機を手動設定する」(60ページ)

音声を再生したり、ビームモードやシネマDSPの設定を変更します。

「入力音声を再生する～」(45ページ～)

より高精度なサラウンドサウンドを追求したい方は

詳細設定を行います。

「各メニューを個別に設定する」(64ページ)

ヒント

- **反射ビームの音がはっきり聞こえないチャンネルがある場合は**
  「設置視聴環境を設定する」(67ページ)および
  「ビームの角度や長さを設定する(ビーム調整)」(68ページ)を行います。
- **ビーム経路上にカーテンなど吸音性の高いものがある場合は**
  「4「高音レベル」を設定する」(70ページ)を行います。

本機を自動設定する

リスニングルームの形状と大きさ、本機が設置されている場所などは、ご家庭によってさまざまです。本機を最適な視聴空間でご利用いただくためには、最初に各チャンネルの設定を調節する必要があります。

本機には、各チャンネルの設定を自動的に調節する機能として、「ビーム調整」および「音質調整」が搭載されています。「ビーム調整」とは、リスニングルームの形状や大きさなどに応じて、各チャンネルのビーム角度を最適な設定値に調節する機能です。「音質調整」とは、リスニングルームの音響特性などを測定し、各チャンネルの音色を最適な設定値に調節する機能です。

本機では、付属のマイク（オプティマイザーマイク）を使用して、この2種類の設定を自動的に調節することができます。

ヒント

・自動設定されたデータはメモリーに保存することができます（42ページ）。リスニングルームの状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

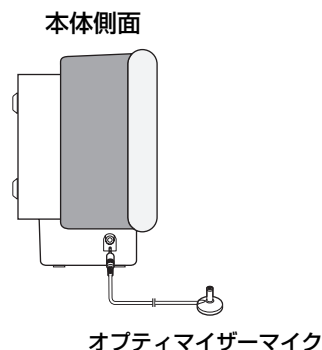
ご注意

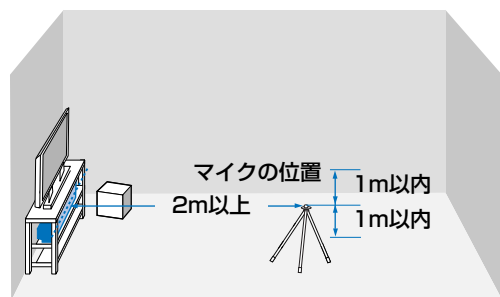
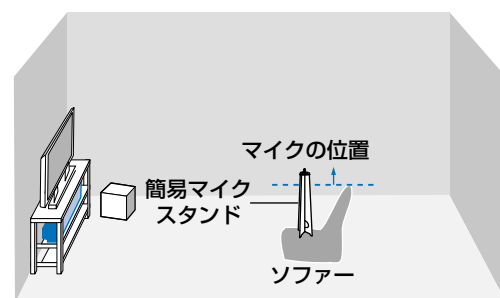
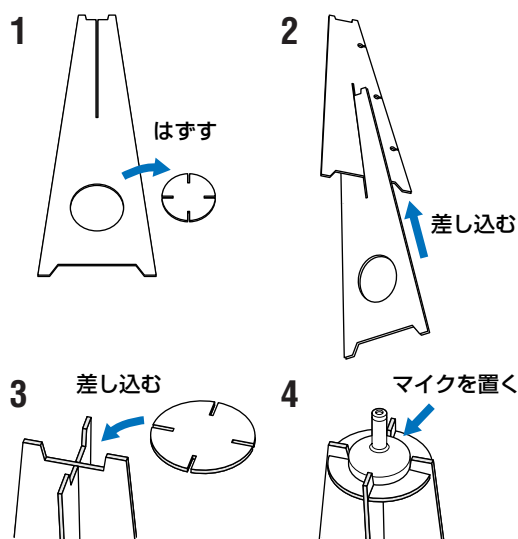
- お部屋の環境がリスニングルームの条件（10ページ）を満たしていない場合は、測定が正しく行われないことがあります。その場合は「手動設定」（60ページ）または「詳細設定」（64ページ）を行ってください。
- オプティマイザーマイクを接続する際は延長ケーブルを使用しないでください。測定が正しく行われないことがあります。
- 自動設定機能を使用していないときは、オプティマイザーマイクをOPTIMIZER MIC端子から外して保管してください。
- オプティマイザーマイクは熱に弱いため、直射日光が当たる場所やAV機器の上など高温になる場所には置かないでください。

オプティマイザーマイクを設置する

本体側面のOPTIMIZER MIC端子に、付属のオプティマイザーマイクを接続します。

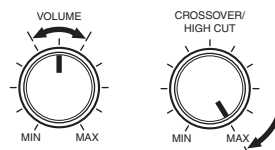
1 本機の電源モードをオフ（スタンバイ）にする

2 オプティマイザーマイクを本体側面のOPTIMIZER MIC端子に接続する

3 オプティマイザーマイクを実際に視聴する位置に水平に設置する

マイクは本機から2m以上離し、本機の中心線上（本機正面）に設置してください。また、本機から上下1m以内の位置に設置してください。

付属の簡易マイクスタンドや三脚などの台を使用して、なるべく視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので、障害物ではありません。

簡易マイクスタンドの組立て方法

ヒント

- オプティマイザーマイクを本機から2m以内に設置した場合、マイクを本機の中心線上に設置していない場合、マイクと本機の中心線上との高さの差異が1m以上の場合は、測定エラーになることがあります。この場合はマイクを正しい場所に設置しなおしてから、再度測定してください。
- オプティマイザーマイクの位置周辺で視聴できない環境下では、サラウンド効果が薄れることがあります。このような場合、詳細設定でお好みのビーム角度に設定することができます（68ページ）。
- サブウーファーを接続している場合は、電源を入れて、音量を半分よりやや大きめからやや小さめの間（図の位置）に設定してください。クロスオーバー/ハイカット周波数の調節機能がある場合は、クロスオーバー/ハイカット周波数を最大に設定してください。

サブウーファー

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

測定する

ご注意

- 測定中は大きなテストトーンが出力されます。小さなお子様がお部屋にいる場合やお部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。聴覚障害などの原因となる場合があります。
- 測定中はなるべく他の音を出さないようにしてください。大きな声や音を出したりすると、最適な設定が行われない場合があります。
- エアコンなど騒音を発生する機器がある場合は、電源を切ってください。
- 測定中はお部屋の外に出ることをおすすめします。お部屋の中に残る場合は本体の真横、または後方へ移動してください。

ヒント

- 設定の途中で前の画面に戻って選択し直したいときは、戻るキーを押してください。
- メニューを操作中に入力選択キーを押してしまい、カーソルキーの操作ができなくなった場合は、YSPキーを1回押してください。

1 電源(⏻/I)キーを押して本機の電源をオンにする

サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源がオンになっていることを確認してください。

2 YSPキーを押す

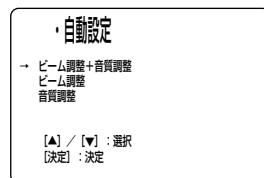
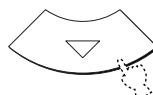
YSPモードに切り替わります。

3 メニューキーを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。メニューの下部の表示は操作方法を表しています。

メニュー
→ ・メモリー
・自動設定
・手動設定
・詳細設定
[▲]／[▼]：選択
[決定]：決定

4 △／▽キーを押して「自動設定」を選択し、決定キーを押す

テレビに下のような画面が表示されます。

5 △／▽キーを押して、「ビーム調整＋音質調整」、「ビーム調整」、「音質調整」のいずれかを選択する

「ビーム調整＋音質調整」
購入後、初めて設定を行う場合に選択します。測定開始から完了まで約3分です。

「ビーム調整」
ご利用の環境に合わせてビーム角度を設定する場合に選択します。測定開始から完了まで約1分です。

「音質調整」
音質、音量バランス、音が聞こえるタイミングを設定する場合に選択します。測定開始から完了まで約2分です。
「音質調整」はビーム角度を設定したあとで実行してください。ビーム角度が正しく設定されていない場合は、正常に測定できません。
カーテンの開閉後、またはビーム角度を「詳細設定」で調節したあとなどにご使用ください。

ご注意
壁にカーテンやブラインドなどがかかっているお部屋では、ビーム設定が正確に行われないことがあります。「ビーム調整＋音質調整」または「ビーム調整」を選択した場合、カーテンやブラインドなどは開けてから測定してください。

6 選択が終わったら、決定キーを押す

「ビーム調整＋音質調整」を選択した場合、以下の画面が表示されます。
「ビーム調整」を選択した場合は「設置位置」についての項目のみ表示されます。「音質調整」を選択した場合は「壁かけ設置」および「部屋の響き」についての項目が表示されます。

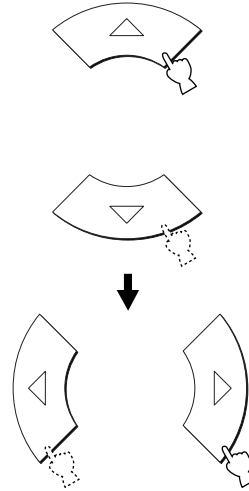
測定準備

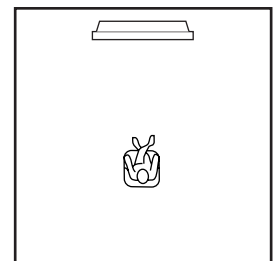
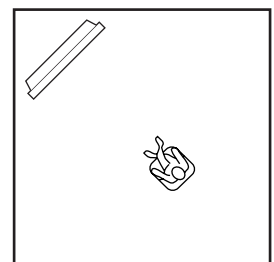
→ 設置位置・・・・・・・・[壁]／ コーナー
壁かけ設置・・・・・・・[いいえ]／ はい
部屋の響き・・・・・・・[標準] ／ 大

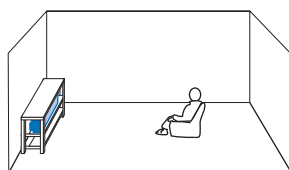
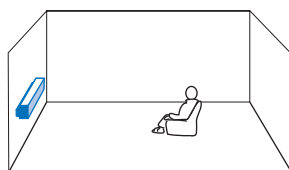
・マイクを、本体の正面で
本体から最低２m離して置く。

[▲]／[▼]：項目選択 [◀]／[▶]：選択
[決定]：開始

7 テレビ画面に表示された項目について、お部屋の環境に合わせて設定する。

△／▽キーを押して項目を選択し、◁／▷キーで登録したい内容を選びます。

設置位置・・・・・・・壁/コーナー

本機を壁に対して平行に設置している場合は「壁」を選択します。

本機を壁に対して斜めに設置している場合は「コーナー」を選択します。

壁かけ設置・・・・・・・いいえ/はい

本機をラックなどに置いてご利用の場合は「いいえ」を選択します。

本機を壁に掛けてご利用の場合は「はい」を選択します。

部屋の響き・・・・・・標準/大

一般的なお部屋の場合は「標準」を選択します。
壁がコンクリートでできているなど、音の響きが大きなお部屋の場合は「大」を選択します。

8 選択が終わり、マイクの位置を確認したら、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。手順5で「ビーム調整」を選択した場合、サブウーファーの測定結果は表示されません。また、測定中はお部屋の外に出ることをおすすめします。お部屋の中に残る場合は、本体の真横から後方の位置へ移動してください。測定開始から完了まで、最長で3分程度かかります。

ヒント

- 測定中に自動設定を中止したい場合は、戻るキーを押してください。
- サブウーファーから音が出力されているにもかかわらず「サブウーファー・・・[無]」と表示される場合は、サブウーファーの音量を上げてから、設定をやり直してください。

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。画面にエラーメッセージが表示された場合は「エラーメッセージについて」(41ページ)を参照して問題を解決してください。その後、戻るキーを押してメニューの初期画面に戻り、手順4から再度測定してください。

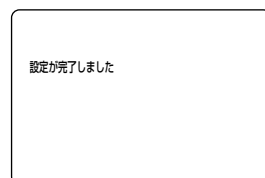
測定が完了すると、以下のような画面が表示されます。手順5で「ビーム調整」を選択した場合、サブウーファーの測定結果は表示されません。

結果表示

ビームモード　：5ビーム
サブウーファー：無

[決定]：確定する
[戻る]：確定しない

9 設定を有効にする場合は決定キーを、無効にする場合は戻るキーを押す

決定キーを押して、設定を有効にすると以下の画面が表示されます。

戻るキーを押して、設定を無効にすると初期画面に戻ります。

10 メニューキーを押す

テレビ画面からメニューが消えます。

ヒント

設定結果をメモリーに保存したり、そのデータをお部屋の状況に応じて呼び出したい場合は「メモリー機能を使用する」(42ページ)をご参照ください。

エラーメッセージについて

テレビ画面にエラーメッセージが表示された場合は、原因を確認し問題を解決してください。その後、戻るキーを押してメニューの初期画面に戻り、手順4から再度測定してください(38ページ)。エラーが解決できない場合は、手動設定を行ってください(60ページ)。

エラー　E-1: 環境ノイズが大きすぎます

原因	対策
騒音が大きすぎて、正確な測定ができません。	エアコンなど騒音を発生する機器の電源を一時的に切るか、それらの機器から離してください。
	周囲が静かな時間帯にやりなおしてみてください。

エラー　E-2: マイクの接続を確認してください

原因	対策
オプティマイザーマイクが接続されていません。	本機前面のOPTIMIZER MIC端子にオプティマイザーマイクを接続してください。

エラー　E-3: 測定中に本体操作がされました

原因	対策
測定中に音量の調節、消音などの操作がされました。	測定中は本機を操作しないでください。

エラー　E-4: マイクを本体正面に置いてください

原因	対策
オプティマイザーマイクが本機正面の延長線上に置かれていません。	オプティマイザーマイクを本機正面の延長線上に設置してください。

エラー　E-5: マイクの設置位置を最低2m離してください

原因	対策
オプティマイザーマイクが本機から2m未満の場所に設置されています。	オプティマイザーマイクを本機から2m以上離して設置してください。

エラー　E-6: マイクからの音量が小さい。マイクの設置・接続を確認してください

原因	対策
テストトーンが取得できません。	オプティマイザーマイクを正しく接続、設置してください。

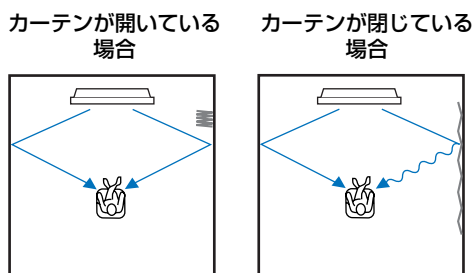
エラー　E-7: エラーが発生しました。再度、実行してください

原因	対策
本機内部にエラーが発生しました。	再度測定してください。

メモリー機能を使用する

設定結果をメモリーに保存する

リスニングルームの状況に応じて設定を切り替えたい場合、測定結果をメモリーに保存しておくと便利です。測定結果のデータは最大3つまで保存することができます。例えば、ビーム経路上にカーテンがある場合などは、カーテンの開閉によってビームの効果が変化します。

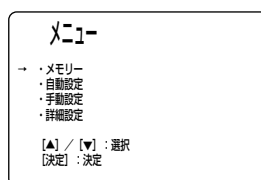
カーテンが開いている場合

カーテンが閉じている場合

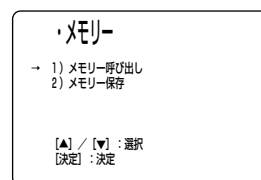
このような場合、カーテンが開いている状態で「ビーム調整＋音質調整」を行い、測定結果を「ユーザー1」に保存します。次にカーテンが閉じている状態で「音質調整」を行い、測定結果を「ユーザー2」に保存します。このようにすると、ご使用の際にリスニングルームの状況に応じて設定を切り替えることができ、最適な環境でサラウンドサウンドがお楽しみいただけます。

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

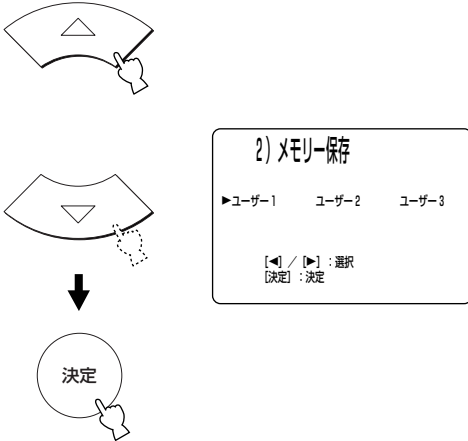
2 メニューキーを押す

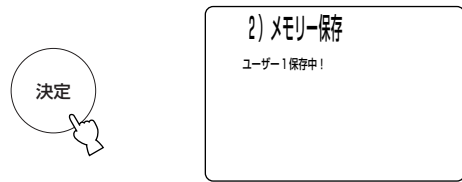
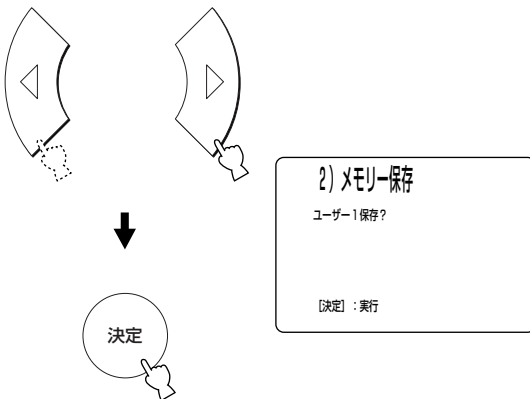
テレビ画面にメニューが表示されます。

3 矢印が「メモリー」にあることを確認して、決定キーを押す

テレビ画面に下のような画面が表示されます。

4 △／▽キーを押して「メモリー保存」を選択し、決定キーを押す

テレビ画面に下のような画面が表示されます。

5 ◁／▷キーを押して「ユーザー1」「ユーザー2」「ユーザー3」のいずれかを選択し、決定キーを押す

テレビ画面に下のような画面が表示されます。

6 もう一度決定キーを押す

選択した項目に測定結果が登録されます。

登録されると下の初期画面に戻ります。

7 メニューキーを押す

テレビ画面のメニューが消えます。

保存したメモリーを呼び出す

設定したデータをメモリーに保存した場合(42ページ)、そのデータを呼び出すことができます。ご使用の際のリスニングルームの状況にあったメモリーを呼び出して、最適な環境でサラウンドサウンドをお楽しみください。

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

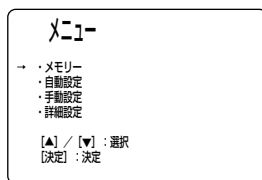
2 メニューキーを押す

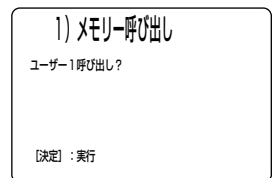
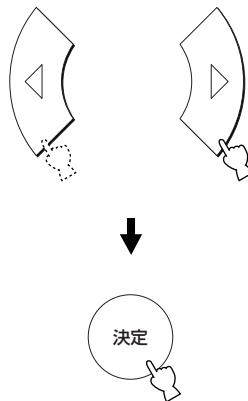
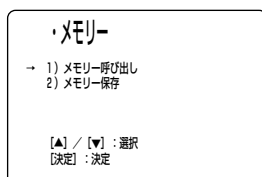
テレビ画面にメニューが表示されます。

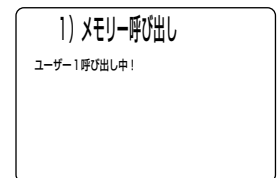
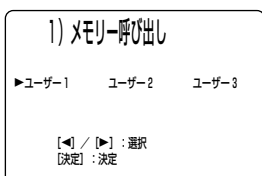
3 矢印が「メモリー」にあることを確認して、決定キーを押す

テレビに下のような画面が表示されます。

4 矢印が「メモリー呼び出し」にあることを確認して、決定キーを押す

テレビに下のような画面が表示されます。

5 ◁ / ▷ キーを押して呼び出したい項目を選択し、決定キーを押す

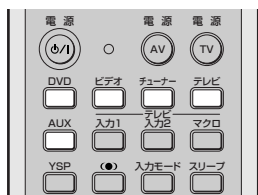
テレビ画面に下のような画面が表示されます。

6 もう一度決定キーを押す

選択した項目のメモリーを呼び出します。

呼び出しが完了すると初期画面に戻ります。

7 メニューキーを押す

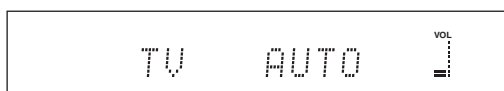
テレビ画面のメニューが消えます。

入力音声を再生する

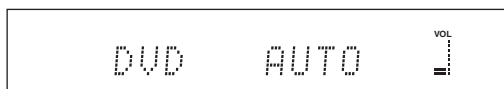
再生したい機器を切り替える

テレビキー、DVDキー、ビデオキー、チューナーキー、AUXキーを押すと、本機に接続したそれぞれの機器の入力を選択し、音声を再生することができます。

テレビを再生したい場合は

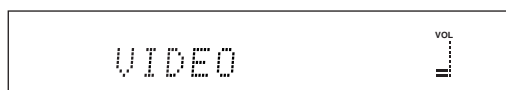
テレビキーを押します。

TV AUTO VOL

DVDプレーヤーを再生したい場合は

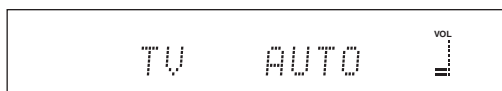
DVDキーを押します。

DVD AUTO VOL

ビデオデッキを再生したい場合は

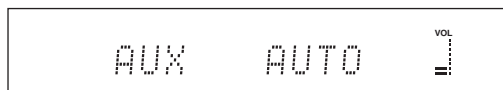
ビデオキーを押します。

VIDEO VOL

テレビチューナーを再生したい場合は

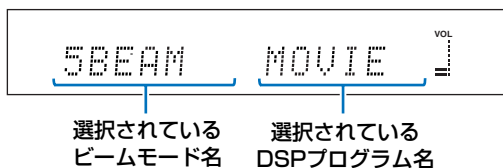
チューナーキーを押します。

TV AUTO VOL

AUX端子に接続した機器を再生したい場合は

AUXキーを押します。

AUX AUTO VOL

ヒント

それぞれのキーを押してから数秒経つと、フロントパネルディスプレイに、選択されているビームモード(48ページ)とDSPプログラム(54ページ)が表示されます。

表示例

テレビやDVDを楽しむ

入力音声を再生する例として、ここではテレビとDVDプレーヤーの再生方法を紹介します。
テレビやDVDプレーヤーの機能については、それぞれに付属している取扱説明書をご参照ください。

ヒント

- DVDを再生する場合、DVDプレーヤーの音声設定を5.1チャンネルモードにすると、より豊かなサラウンドサウンドをお楽しみいただけます。
- リモコンコードを設定している場合は、テレビやDVDプレーヤーを本機のリモコンで操作することができます。リモコンコードの設定については84ページをご参照ください。

テレビを再生する

1 テレビのリモコンで、見たいチャンネルを選ぶ

2 本機のリモコンのテレビキーを押す

テレビの再生モードに切り替わります。

3 テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、聞こえなくなるまでテレビのスピーカーの音量を下げる

ヒント

本機とデジタル放送対応のテレビがデジタル接続されている場合、以下の方法で**5.1chサラウンドのデジタル信号が本機に入力されているか**を確認できます。

上記の手順で5.1chに対応しているデジタル放送を選局し、YSPキーを押してからビームモードキー（ステレオ）を押します。
5.1chサラウンドのデジタル信号が本機に入力されている場合は、フロントパネルディスプレイに以下のインジケーターが点灯します。

インジケーターが点灯しない場合は、テレビのデジタル出力がオンになっているかご確認ください。

DVDプレーヤーを再生する

1 テレビの映像入力切替を操作して、DVDプレーヤーの映像に切り替える

2 本機のリモコンのDVDキーを押す

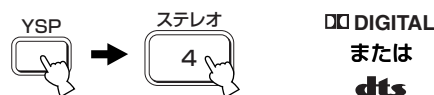
DVDの再生モードに切り替わります。

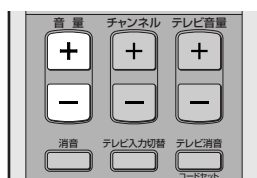
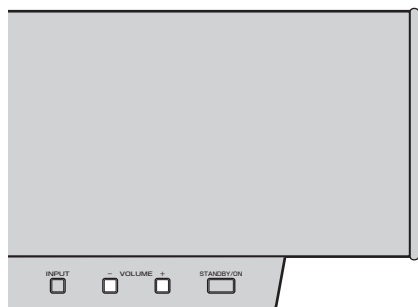
3 DVDプレーヤーで、ディスクを再生する

ヒント

本機とDVDプレーヤーがデジタル接続されている場合、以下の方法で**5.1chサラウンドのデジタル信号が本機に入力されているか**を確認できます。

上記の手順でドルビーデジタルまたはdtsに対応しているディスクを再生し、YSPキーを押してからビームモードキー（ステレオ）を押します。
5.1chサラウンドのデジタル信号が本機に入力されている場合は、フロントパネルディスプレイに以下のインジケーターのどちらかが点灯します。

DIGITAL
または
dts

インジケーターが点灯しない場合は、DVDプレーヤーのデジタル出力がオンになっているかご確認ください。

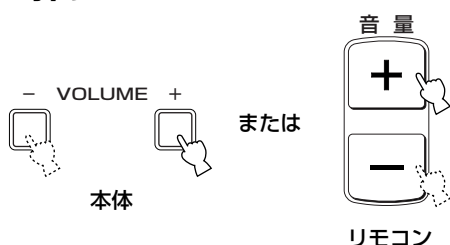
音量を調節する

音量を上げるには本体のVOLUME＋キーまたはリモコンの音量＋キー、下げるには本体のVOLUME－キーまたはリモコンの音量－キーを押す

– VOLUME +

または

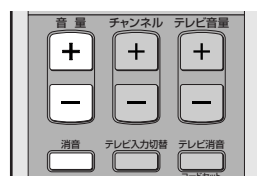
音 量

本体

リモコン

VOLUME（音量）調節範囲：
0dB～－99.5dB、MIN（最小）

ヒント

- －25dB程度まで音量を上げても音声が聞こえない場合は、「故障かな？と思ったら」（90ページ）をご参照ください。
- 「dB」はデシベルと読み、本機では音の大きさを表す単位として用いられています。最大を0dBとして、そこからの差を－（マイナス）で表しています。

一時的に消音する

消音キーを押す

フロントパネルディスプレイに「AUDIO MUTE ON」と表示され、VOLUMEインジケーターが点滅します。

消音を解除してもとの音量に戻すには

消音キーを再度押す、または音量＋/－キーを押します。

ヒント

「消音のレベルを設定する」（73ページ）で、消音キーを押したときに完全に音を消音するか、20dB下げるかを選択することができます。

ビームモードの設定を変更する

ビームモードキーを使って、ビームモードを変更することができます。2チャンネルのステレオモード、3ビームモード、ターゲットモード、5ビームモードとST（ステレオ）＋3ビームモードの2つの5.1チャンネルモードを、お好みで切り替えてお楽しみください。

メニューの設定内容によっては、選択できないビームモードもあります。下の表をご参照ください。

ビームモード	自動設定「設置位置」（39ページ）		手動設定「設置位置？」（61ページ）		詳細設定「設置視聴環境 1/3」（67ページ）	
	「壁」	「コーナー」	「（左/右）コーナー」以外	「（左/右）コーナー」	「壁置き」	「コーナー置き」
ステレオ	○	○	○	○	○	○
3ビーム	○	×	○	×	○	×
5ビーム	○	×	○	×	○	×
ST＋3ビーム	○	○	○	○	○	○
ターゲット	○	○	○	○	○	○

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

2 選択したいビームモードキーを押す

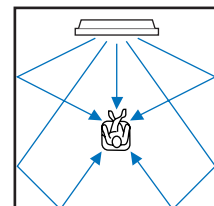
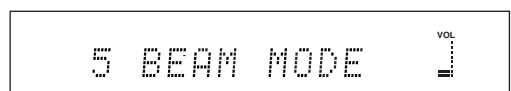
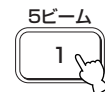
5ビームモード

フロント左/右、センター、サラウンド左/右の5チャンネルから、ビーム化された音声を出力します。

ビーム経路とビームが反射する壁が確保されている場合には、最大のサラウンド効果が得られます。

マルチチャンネルで記録されている映画DVDの鑑賞や、2チャンネルソースをマルチチャンネルで再生したいときなど、サラウンド効果を存分に楽しみたい場合に最適です。

フロント左/右チャンネルは、壁に向けて出力されます。

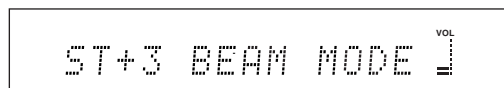
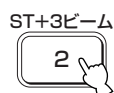
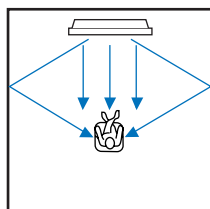
5 BEAM MODE

ST(ステレオ)+3ビームモード

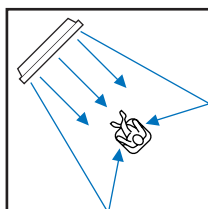
ステレオモードのフロント左/右チャンネルの音声に、ビーム化したセンターチャンネルとサラウンド左/右チャンネルの音声を加え、5チャンネルで音声を出力します。

ライブDVDなどの鑑賞に最適です。中央付近からはボーカルの声や楽器の音が、横からは会場の反射音が聞こえ、まるでステージを前にしているような臨場感を楽しむことができます。

サラウンド左の音声信号はフロント左チャンネルのビームを使って出力され、サラウンド右の音声信号はフロント右チャンネルのビームを使って出力されます。

フロント左/右チャンネルは、直接視聴位置に向けて出力されます。

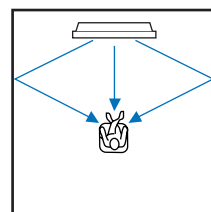
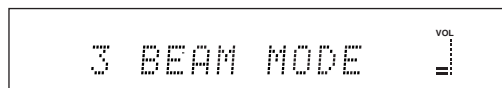
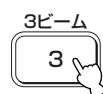
ST+3 BEAM MODE VOL

壁と並行に設置している場合

部屋のコーナーに設置している場合

3ビームモード

フロント左/右、センターの3チャンネルから音声を出力します。

フロントビームだけを出力することによって音のスイートスポットが広がるため、広い範囲で良好なサラウンド感を得ることができます。ご家族で一緒に映画を見るときなどに最適です。

マルチチャンネルソースの場合、サラウンド左チャンネルの音声はフロント左チャンネルにミックスしてフロント左チャンネルのビームで出力します。
また、サラウンド右チャンネルの音声はフロント右チャンネルにミックスしてフロント右チャンネルのビームで出力します。
これにセンターチャンネルのビームを加え、3つのビームで音声を出力します。

3 BEAM MODE VOL

ヒント

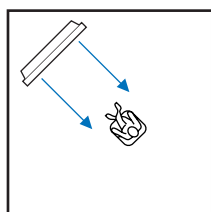
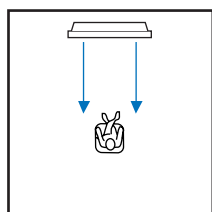
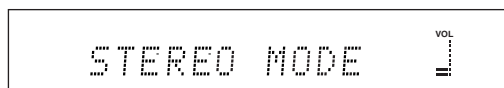
詳細設定で「フロント左/右チャンネルの位置を調節する(Lch/Rch位置調整)」(70ページ)を行うと、よりつながりのあるサラウンド感が得られます。

ステレオモード

フロント左/右の2チャンネルから、ビーム化しない通常の音声を出力します。

CDなどのハイファイステレオソースの再生に最適です。また、通常のテレビのスピーカーの代わりとしてもご利用いただけます。

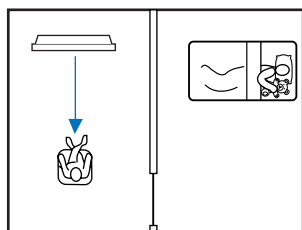
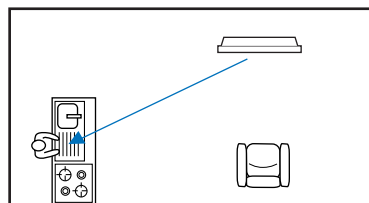
マルチチャンネルソースの場合は、フロント左/右チャンネル以外の音声をフロント左/右チャンネルにミックスして、フロント左/右チャンネルから出力します。

STEREO MODE

ヒント

ステレオモードを選択しているときには、サラウンドモード(52ページ)、シネマDSP(54ページ)の機能は無効です。

ターゲットモード

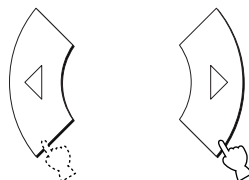
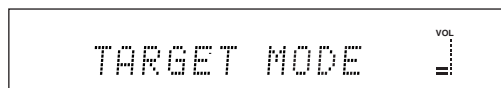
ビーム化された音声を1チャンネルで出力します。

深夜に視聴する場合など、周囲に音を響かせたくないときに最適です。

また、角度を調節することにより、キッチンなど離れた位置からでもセリフなどを明瞭に聞き取ることができます。

フロントパネルディスプレイに「TARGET MODE」と表示されている間に、◁ / ▷ キーを押すと、ビームの角度を調節できます。

◁ キーを押すたびに左方向へ角度が大きくなり、▷ キーを押すたびに右方向へ角度が大きくなります。

操作をしない状態で数秒経つと、角度調節モードが終了します。

TARGET MODE　VOL

ANGLE・・・・・・・・・0　VOL

角度(水平方向)調節範囲：
左90°～右90°

ヒント

・ターゲットモードを選択しているときには、サラウンドモード(52ページ)、シネマDSP(54ページ)、TruBass(58ページ)の機能は無効です。また、サブウーファーからは音声が出力されません。
・音量モード(57ページ)と併用すると、より効果的に音声を出力できる場合があります。

サラウンド再生を楽しむ

内蔵デコーダーとインジケーター表示

本機では、内蔵したデコーダーにより、以下のようなさまざまなソースを楽しむことができます。

入力している音声信号は自動的に選択され、フロントパネルディスプレイのインジケーターが以下のように点灯します。

状況	インジケーター表示
BS/CS/地上デジタル放送を入力している	AAC
BS/CS/地上デジタルの音声多重信号を入力している	DUAL
CDを再生している	PCM
DTSデジタル信号を入力している、またはDTS Neo:6を選択している	dts
ドルビーデジタル信号を入力している	DD DIGITAL
ドルビープロロジックを選択している	DD PL
ドルビープロロジックII を選択している	DD PL II

ヒント

・「音声信号の種類を選ぶ」(81ページ)で、入力音声信号を選択することができます。
・DTS-ES対応のディスクはDTSで再生され、ドルビーデジタル5.1EX対応のディスクはドルビーデジタルで再生されます。

デジタル放送の音声多重を切り替える

本機では、BS/地上デジタル放送の映画やドラマなどで使われているAAC信号の音声入力時に、どの音声を出力するか選ぶことができます。

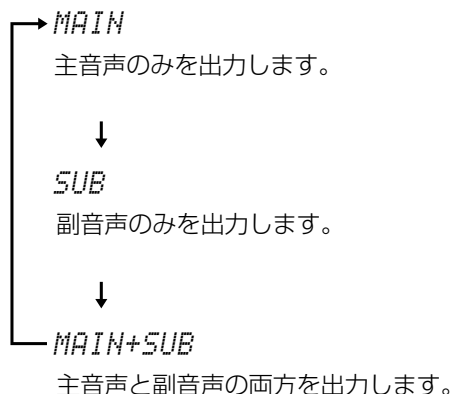
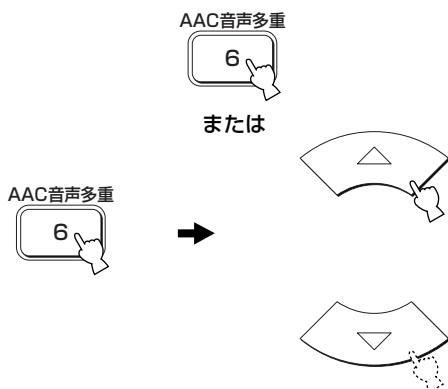
ヒント

音声多重放送をHDDレコーダーで録音した場合、ドルビーデジタルフォーマットで再生されることがあります。この場合、HDDレコーダー側で主音声と副音声の両方を出力するよう設定されていると、本機でも音声多重を切り替えることができます。

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

2 リモコンのAAC音声多重キーを繰り返し押す、またはAAC音声多重キーを押してから △ / ▽ キーを押す

2チャンネルソースをサラウンドで楽しむ

本機では、2チャンネルソース(アナログソースやCDなど)をデコードし、最大5.1チャンネルで再生することができます。また、サラウンドモードを切り替えることによって、さまざまなサラウンド効果を楽しむことができます。

ヒント

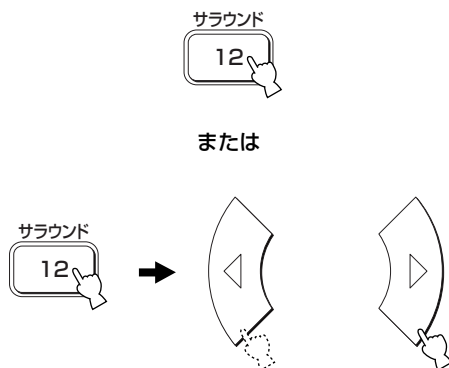
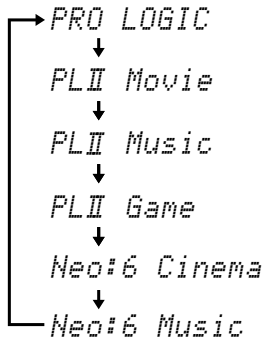
サラウンドモードの切替は3ビーム/5ビーム/ST+3ビームモード(48ページ)が選択されていて、シネマDSP(54ページ)が映画/オフのときにのみ有効です。

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

2 リモコンのサラウンドキーを繰り返し押す、またはサラウンドキーを押してから ◁ / ▷ キーを押す

シネマDSPがオフのときの表示例

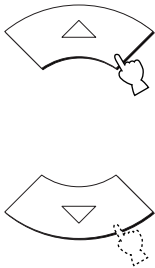
PRO LOGIC
↓
PLⅡ Movie
↓
PLⅡ Music
↓
PLⅡ Game
↓
Neo:6 Cinema
↓
Neo:6 Music

選択できるサラウンドモードとおすすめのソース

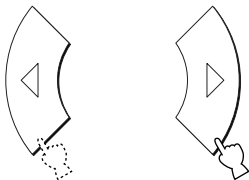
サラウンドモード		おすすめのソース
ドルビープロロジック	－	すべてのソース
ドルビープロロジックII	Movie *Music *Game	映画 音楽 ゲーム
DTS Neo:6	Cinema *Music	映画 音楽

*：シネマDSPがオフ(56ページ)のときにのみ有効です。

サラウンドモードのパラメーターを変更する

サラウンドモードでドルビープロロジックII MusicまたはDTS Neo:6 Musicを選択している場合は、ソースにあわせてサウンドをアレンジすることができます。

1 △／▽キーを押して、パラメーターを選択する

2 ◁／▷キーを押して、設定値を変更する

選択できるパラメーターと変更できる設定値は次のとおりです。

PANORAMA(PLII Music選択時)

フロント音場の広がり感を調節します。サラウンド音場につながるような広がり感を得ることができます。

選択項目：ON、OFF
初期設定：OFF

DIMENSION(PLII Music選択時)

フロント音場とサラウンド音場レベルを好みのバランスにすることができます。
－にするとサラウンド側、＋にするとフロント側が強くなります。

可変範囲：－3～STD～＋3
初期設定：STD

CT WIDTH(PLII Music選択時)

センターからの音声を左右に振り分けることができます。
0にするとセンターのみ、7にするとフロントL/Rのみからセンター音声が出力されます。

可変範囲：0～7
初期設定：3

C. IMAGE(DTS Neo:6 Music選択時)

フロント音場の広がり感を調節します。
値を小さくするとフロント音場の広がりが大きくなり、大きくすると狭く(センターへの定位が強く)なります。

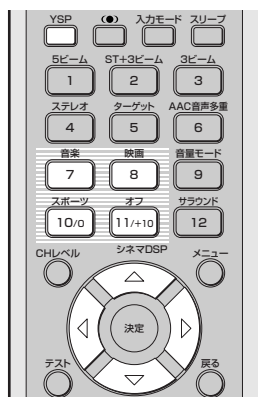
可変範囲：0.0～1.0
初期設定：0.3

シネマDSPについて

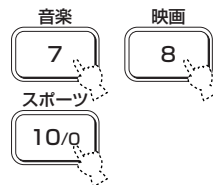
シネマDSPとは、世界の著名なコンサートホールや劇場などで測定したデータに基づく音場（音の広がり）技術を応用することにより、ご家庭で映画館のような視聴体験を実現する機能のことです。ドルビープロロジックやドルビーデジタル、DTSのシステムと組み合わせて、音のスケールや奥行き、音量感を補います。

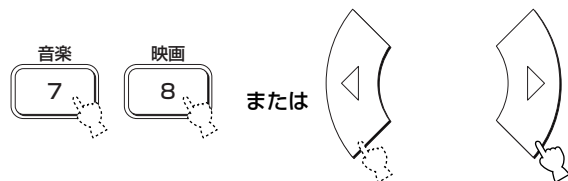
ヒント

- ビームモード（48ページ）が「ステレオモード」または「ターゲットモード」に設定されているときには、シネマDSPの機能は無効です。
- 各DSPプログラムのエフェクトレベル（音場効果のかかり具合）を変更することができます。エフェクトレベルの初期設定値および設定値の変更方法については「エフェクトレベルを調節する」（56ページ）をご参照ください。
- DSPプログラムを設定する際は、DSPプログラムの名称にはこだわらずに、実際に聴いてみて再生する音声に最も適していると思われるDSPプログラムをお選びください。

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

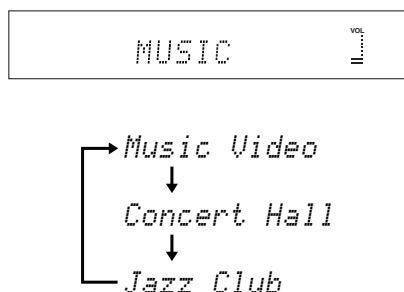
2 選択したいシネマDSPキーを押して、プログラムを選択する

フロントパネルディスプレイに、選択されたプログラムが表示されます。

3 フロントパネルディスプレイに「MUSIC」/「MOVIE」と表示されている間に、音楽/映画キーを繰り返し押す、または◁ / ▷キーを押す

プログラムが切り替わります。

音楽プログラム

音楽キーを押して、音楽プログラムを選択します。音楽キーを繰り返し押す、または◁ / ▷ キーを押して、プログラムを切り替えます。

MUSIC

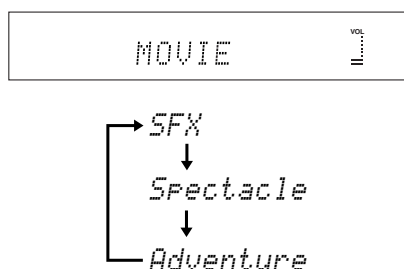
Music Video
↓
Concert Hall
↓
Jazz Club

Music Video（ミュージックビデオ）
ロックやジャズなどのライブコンサート会場の臨場感をつくりだします。映像/音場空間がスクリーン周囲に大きく広がり、熱狂的な雰囲気を感じることができます。

Concert Hall（コンサートホール）
円形ホールをイメージさせる広大な音場で、全周囲に反射音が拡がります。サラウンド感が強く、豊麗な響きが特長です。

Jazz Club（ジャズクラブ）
ニューヨークで話題のライブハウス「ザ・ボトムライン」のステージ正面にいるような臨場感をつくりだします。左右の幅が広く、リアルな躍動感を感じることができます。

映画プログラム

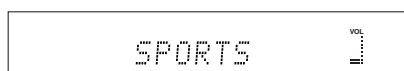
映画キーを押して、映画プログラムを選択します。映画キーを繰り返し押す、または◁ / ▷ キーを押して、プログラムを切り替えます。

MOVIE

SFX（エスエフエックス）
音楽および効果音が、SFの映像空間をリアルに表現します。シリアスでストーリー性の高いSFX映画に適しています。

Spectacle（スペクタクル）
ワイドな空間をイメージできる臨場感をつくりだします。手に汗握るパニックシーンなどビジュアルインパクトの強い作品に適しています。

Adventure（アドベンチャー）
音の立体感が強く、アクションならではの痛快な臨場感をつくりだします。

スポーツプログラム

スポーツキーを押して、スポーツプログラムを選択します。

SPORTS

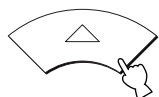
SPORTS（スポーツ）
スポーツ中継のステレオ放送では、解説は中央に定位し、歓声や場内の雰囲気は周囲に大きく広がって、スポーツ観戦の醍醐味を味わうことができます。

エフェクトレベルを調節する

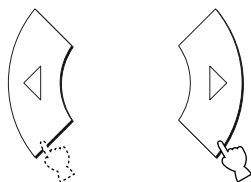
各DSPプログラムは初期設定のままで十分お楽しみいただけますが、ソースやリスニングルームの音響にあわせてDSPプログラムのエフェクトレベル(音場効果のかかり具合)を変更することができます。

1 調節したいプログラムを選択する

2 △/▽キーを押す

フロントパネルディスプレイに「DSP LEVEL··0dB」と表示されます。

DSP LEVEL··0dB VOL

3 ◁/▷キーを押す

エフェクトレベルを選ぶことができます。

レベル調節範囲：
−6dB(効果を弱く)〜＋3dB(効果を強く)

シネマDSPをオフにする

音場効果をかけずに元の音で再生したい場合は、シネマDSPをオフにします。

1 YSPキーを押す

YSPモードに切り替わります。

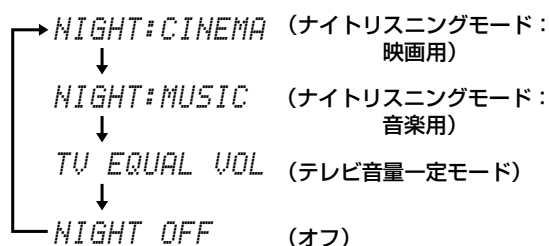
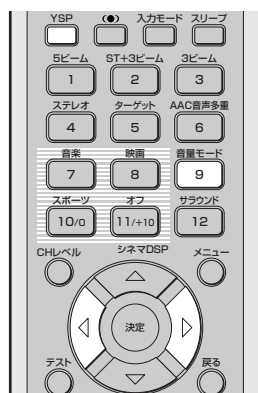
2 オフキーを押す

CINEMA DSP OFF VOL

その他の機能

音量を抑えてサラウンドを楽しむ(音量モード)

ナイトリスニングモードとテレビ音量一定モードを合わせて音量モードといい、音量モードキーで切替ができます。ナイトリスニングモードとは、夜間に小音量で映画や音楽を楽しみたいときに、大きな効果音などを抑えてセリフなどは明瞭に再生する機能です。テレビ音量一定モードとは、テレビを再生中、CMなどで急に音量が大きくなるのを防ぐ機能です。

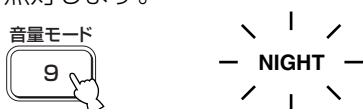
ナイトリスニングモードには、映画再生に適したCINEMAモードと音楽再生に適したMUSICモードが用意されています。再生するソースにあわせてサラウンドモードを選択してください。

1 YSPキーを押す

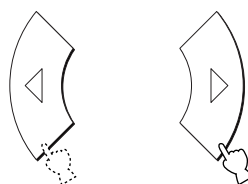
YSPモードに切り替わります。

2 リモコンの音量モードキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在設定されているモードが表示されます。

3 音量モードキーを繰り返し押して、モードを選択する

音量モードで再生している間は、フロントパネルディスプレイのNIGHTインジケーターが点灯します。

4 各モードが表示されている間に ◁ / ▷ キーを押す

エフェクトレベル(音を抑えるレベル)を選ぶことができます。

Effect.Lvl:MIN (弱めに抑える)
↑↓
Effect.Lvl:MID (ほどよく抑える)
↑↓
Effect.Lvl:MAX (強めに抑える)

ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、音量モードは解除されます。

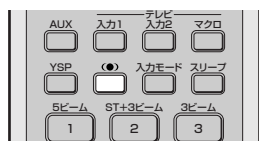
低音を効果的に再生する(TruBass)

低音域の信号を効果的に出力します。サブウーファーがない場合でも低音を効かせて再生することができます。

TruBassの低音は振動が伝わりにくいため、近隣への低音妨害を低減することもできます。

TruBassには、低音をほどよく効かせることができる「TruBass MID」と強めに効かせることができる「TruBass DEEP」の2種類が用意されています。再生するソースに合わせてどちらかを選択してください。

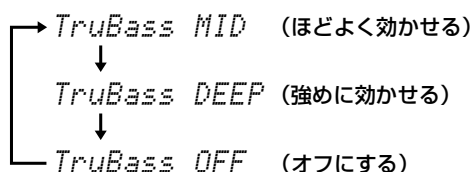
ヒント

ビームモードが「ターゲットモード」(50ページ)に設定されているときには、TruBassの機能は無効です。

1 リモコンの TruBassキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在の設定(「TruBass MID」、「TruBass DEEP」、「TruBass OFF」のいずれか)が表示されます。

2 TruBassキーを繰り返し押す

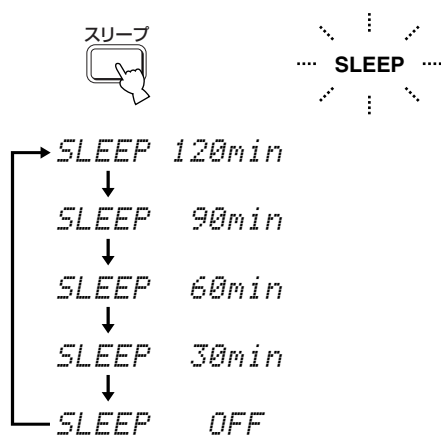
オン(ほどよく低音を効かせる/強めに効かせる)とオフを選ぶことができます。

TruBass MID (ほどよく効かせる)
↓
TruBass DEEP (強めに効かせる)
↓
TruBass OFF (オフにする)

一定時間後に自動的にスタンバイ状態にする(スリープタイマー)

一定時間が経過すると、自動的に電源がスタンバイ状態になるように設定します。本機で音声を聴きながらおやすみになりたい場合などに便利です。

スリープタイマーを設定するには

1 リモコンのスリープキーを繰り返し押す

スタンバイ状態になるまでの時間が以下のように切り替わります。選択している間はSLEEPインジケーターが点滅します。

2 しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが点灯に変わり、スリープタイマーが設定されます。

スリープタイマーを解除するには

スリープタイマーを設定したあとに設定を解除したい場合です。

1 リモコンのスリープキーを繰り返し押して、「OFF」を選択する

SLEEP OFF

2 しばらくの間操作をしない

SLEEPインジケーターが消灯し、設定が解除されます。

SLEEP
消灯

ヒント

リモコンの電源キーまたは本体のSTANDBY/ONキーを押すか、電源コードを抜くと、スリープタイマーは解除されます。

本機を手動設定する

自動設定（36ページ）で測定ができず、エラーが解決できない場合は、手動で本機を設定することができます。

ヒント

・自動設定されたデータはメモリーに保存することができます（42ページ）。
・視聴環境によっては、十分なサラウンド感が得られない場合があります。その場合は「詳細設定」（64ページ）を行ってください。

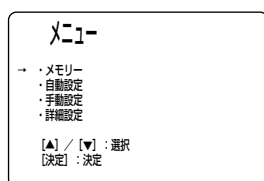
ヒント

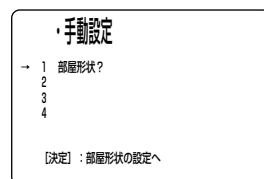
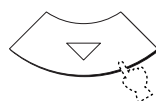
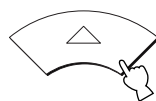
・設定の途中で前の画面に戻って選択し直したいときは、戻るキーを押してください。
・メニューを操作中に入力選択キーを押してしまい、カーソルキーの操作ができなくなった場合は、YSPキーを1回押してください。

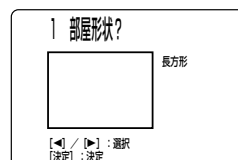
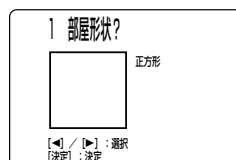
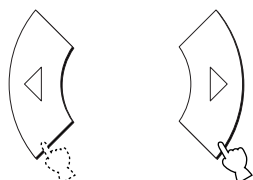
1 YSPキーを押す

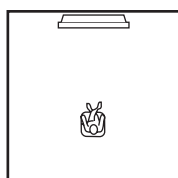
YSPモードに切り替わります。

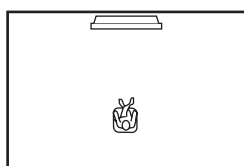
2 メニューを押す

テレビ画面にメニューが表示されます。

3 △／▽キーを押して、手動設定を選択し、決定キーを押す

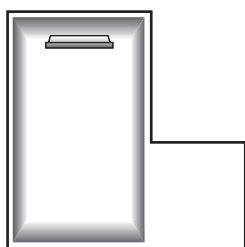
テレビに以下のような画面が表示されます。

4 もう一度決定キーを押す

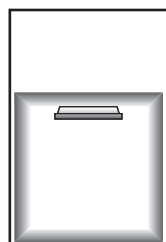
部屋の形状を選択する画面が表示されます。◁／▷キーで「正方形」と「長方形」の切替ができます。

5 ◁／▷キーを押して、設定したい項目を選択する

正方形

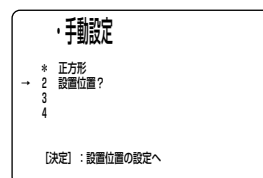
リスニングルームが正方形に近い場合は「正方形」を選択します。

長方形

リスニングルームが長方形に近い場合は「長方形」を選択します。

ヒント

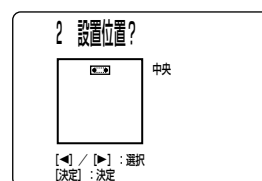
例1のように形状が変則的な場合や、例2のように本機が壁からはなれた場所にある場合は、図のように仮想的な形状を想定してください。
例1の場合は、長方形に近いので「長方形」を選択します。

例1

例2の場合は、正方形に近いので「正方形」を選択します。

例2

6 決定キーを押す

テレビに以下のような画面が表示されます。「1 部屋形状？」は、手順5で選択した項目に変わっています。

7 矢印が「2 設置位置？」にあることを確認して、決定キーを押す

「部屋形状」で「正方形」を選択した場合、「左」、「中央」、「右」、「コーナー」の項目が表示されます。
「長方形」を選択した場合、「長辺左」、「長辺中央」、「長辺右」、「右コーナー」、「左コーナー」、「短辺左」、「短辺中央」、「短辺右」の項目が表示されます。

「正方形」を選択した場合の表示例

「長方形」を選択した場合の表示例

8 ◁／▷キーを押して、実際の本機の設置位置ともっとも近い項目を選択し、決定キーを押す

テレビに以下のような画面が表示されます。「2 設置位置？」は、選択した項目に変わっています。

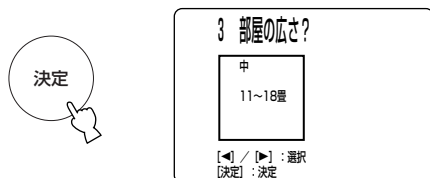
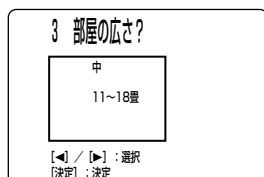
9 矢印が「3 部屋の広さ？」にあることを確認して、決定キーを押す

「部屋形状」で「正方形」を選択した場合、「小(6-10畳)」、「中(11-18畳)」、「大(19-28畳)」の正方形が表示されます。「長方形」を選択した場合、「小(6-10畳)」、「中(11-18畳)」、「大(19-28畳)」の長方形が表示されます。

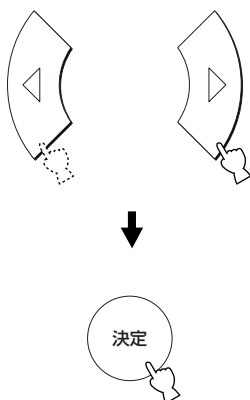
「正方形」を選択した場合の表示例

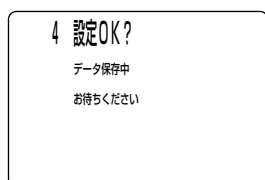
「長方形」を選択した場合の表示例

10 ◁／▷キーを押して、リスニングルームの大きさにもっとも近い項目を選択し、決定キーを押す

テレビに以下のような画面が表示されます。「3 部屋の広さ」は、選択した項目に変わっています。

11 矢印が「4 設定OK?」にあることを確認して、決定キーを押す

以下のような画面が表示されます。

12 ◁／▷キーを押して、設定を有効にするか無効にするかを選択し、決定キーを押す

「はい」を選択すると以下のような画面が表示されます。設定が有効になると、初期画面に戻ります。

4 設定OK？
データ保存中
お待ちください

「いいえ」を選択すると設定が無効になり、初期画面に戻ります。

13 メニューキーを押して設定を終了する

テレビからメニュー画面が消えます。

ヒント

設定結果をメモリーに保存したり、そのデータをお部屋の状況に応じて呼び出したい場合は「メモリー機能を使用する」(42ページ)をご参照ください。

各メニューを個別に設定する

自動設定や手動設定で調節されたサラウンドサウンドをお好みに合わせて変更したり、その他の各種設定を行うことができます。

詳細設定メニュー一覧

詳細設定では、本機の性能をより引き出してお使いいただくことができます。自動設定で十分にリアルサラウンドサウンドをお楽しみいただくことができますが、さらに高精度で高品質のサラウンドサウンドを追求するには、詳細設定におすすみください。詳細設定は、以下のように用途、機能別に4つのカテゴリーに分類されています。

ヒント

自動設定されたデータはメモリーに保存することができます(42ページ)。リスニングルームの状況に合わせてそれぞれのデータを保存し、ご使用の際に設定を切り替えると便利です。

メニュー	サブメニュー	内容	ページ
サウンド設定	トーンコントロール	高音域と低音域の出力レベルを調節します。	72
	ビームレベル	各チャンネルの音量レベルを調節します。	72
	サブウーファー設定	サブウーファーに関するいろいろな設定をします。	73
	消音レベル	消音にしたときの音量を設定します。	73
	映像と音声のタイミング調節	音声出力のタイミングが映像と一致するよう調節します。	74
	設置環境	本機の設置環境を設定します。	74
	DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮	ダイナミックレンジの設定をします。	74
ビーム設定	設置視聴環境	リスニングルームでの本機の位置を設定します。	67
	ビーム調整	ビームの指向性に関する設定をします。	68
	Lch/Rch位置調整	フロント左右チャンネルの定位を調節します。	71
入力設定	入力端子設定	音声入力端子の設定を変更します。	75
	入力信号デコード	電源をオンにしたときの入力の設定をします。	77
	入力レベル調整	端子ごとに入力レベルを設定します。	77
表示設定	本体表示設定	フロントディスプレイの表示の明るさを設定します。	78
	テレビ画面設定	テレビ画面に表示される本機のメニューに関する設定をします。	78

詳細設定メニューの操作手順

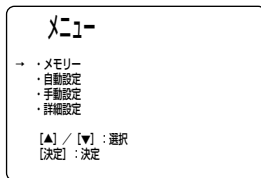
詳細設定メニューの操作について説明します。メニューの各項目の詳細については、67ページ～78ページをご覧ください。

メニューを操作中に入力選択キーを押してしまい、カーソルキーの操作ができなくなった場合は、YSPキーを1回押してください。

1 YSPキーを押す

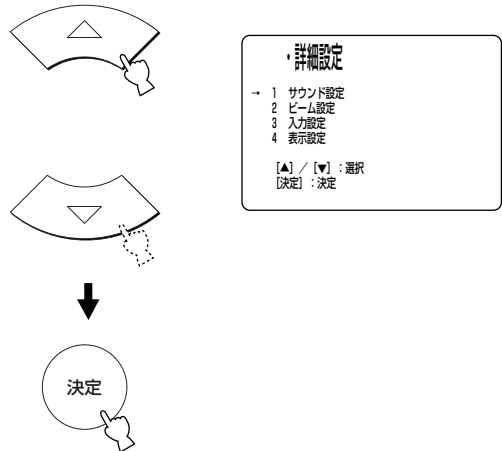
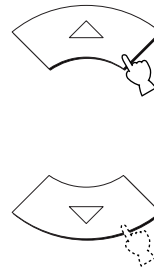
YSPモードに切り替わります。

2 メニューを押す

テレビにメニュー画面が表示されます。

3 △/▽キーを押して、詳細設定を選択し、決定キーを押す

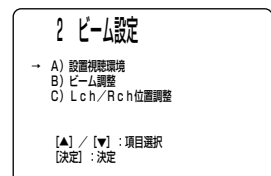
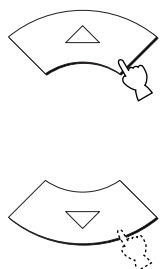
テレビに以下のような画面が表示されます。

・詳細設定
→ 1 サウンド設定
2 ビーム設定
3 入力設定
4 表示設定
[▲] / [▼] : 選択
[決定] : 決定

決定

4 △/▽キーを押して、設定したい項目があるメニューを選ぶ

5 決定キーを押す

選択したメニュー内の項目が表示されます。

表示例：手順4でビーム設定を選んだ場合

2 ビーム設定
→ A) 設置視聴環境
B) ビーム調整
C) Lch/Rch位置調整
[▲] / [▼] : 項目選択
[決定] : 決定

6 △／▽キーを押して、設定したい項目を選ぶ

7 決定キーを押す

選んだ項目の設定モードに入り、現在の設定が表示されます。
項目によっては、△／▽キーでサブメニューを選びます。

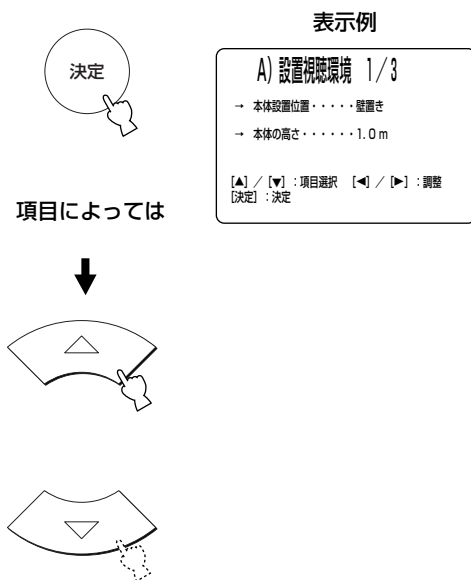
表示例

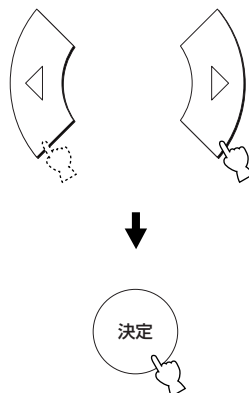
A) 設置視聴環境 1/3

→ 本体設置位置・・・・・壁置き

→ 本体の高さ・・・・・・1.0m

[▲]／[▼]：項目選択　[◀]／[▶]：調整
[決定]：決定

項目によっては

8 ◁／▷キーを押して、設定を調節、変更する

設定を確定するには、決定キーを押します。前の表示に戻るには、戻るキーを押します。

9 メニューキーを押して、設定を終了する

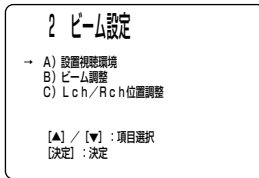
ビームを設定する

本機から出力されているビームに関するさまざまな設定を行います。「設置視聴環境」を設定することにより、その他のいくつかの項目で、設定が自動的に適切な値へ変更されます。

（メニュー→詳細設定→ビーム設定）

2 ビーム設定

→ A）設置視聴環境
B）ビーム調整
C）Lch／Rch位置調整

【▲】／【▼】：項目選択
［決定］：決定

設置視聴環境を設定する

リスニングルームでの本機の位置や、本機からリスニングポジションまでの距離を設定します。

ご注意

- 「設置視聴環境」の設定を変更すると、自動設定で調節されたビームに関するデータが失われます。自動設定で調節されたビームのデータを生かした状態で、さらに調節を加えたい場合は「ビームの角度や長さを設定する（ビーム調整）」から設定を行ってください。
- 「設置視聴環境」の各項目の値を変更するたびに「ビーム調整」の項目で、設定が自動的に適切な値へ変更されます。

ヒント

手動設定の実行により、各項目の初期設定値は自動的に設定されています。

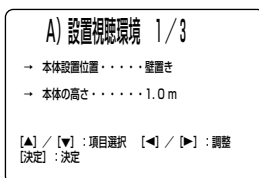
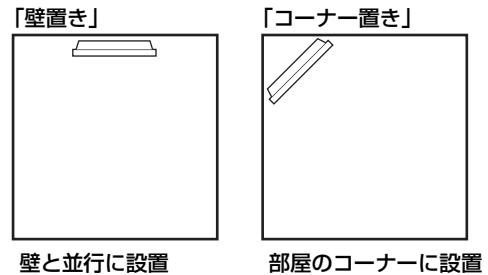
1 設置視聴環境 1/3の「本体設置位置」を設定する

本機の設置状態を設定します。

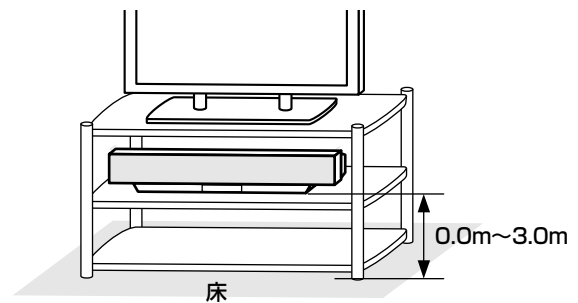
A）設置視聴環境 1/3

→ 本体設置位置・・・・・壁置き

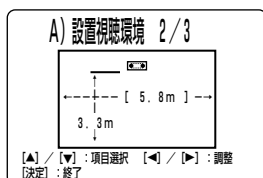
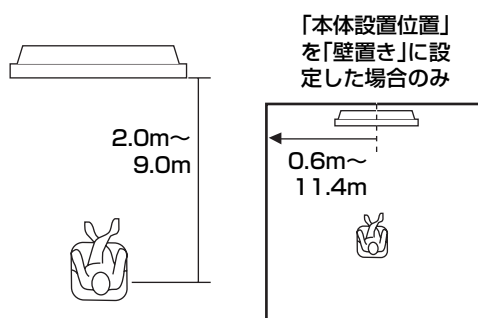
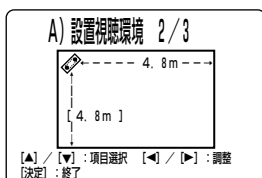
→ 本体の高さ・・・・・・1.0m

【▲】／【▼】：項目選択 【◀】／【▶】：調整
［決定］：決定

選択項目：壁置き、コーナー置き
初期設定：壁置き

2 設置視聴環境 1/3の「本体の高さ」を設定する

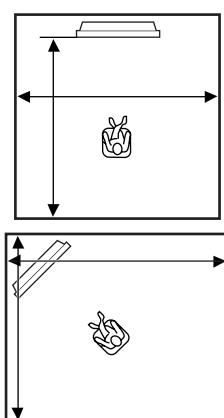
床から本機までの高さを設定します。

可変範囲：0.0m〜3.0m
初期設定：1.0m

3 設置視聴環境 2/3を設定する

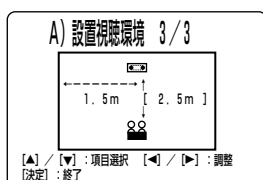
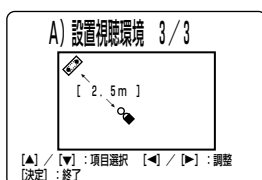
リスニングルームの長さと幅を設定します。

「壁置き」の場合

「コーナー置き」の場合

可変範囲:2.0m～12.0m

「本体設置位置」を「壁置き」に設定した場合は、リスニングルームの幅と本機から後方までの長さを設定します。

「コーナー置き」に設定した場合は、リスニングポジションの左側前方の壁の長さと右側前方の壁の長さを設定します。

4 設置視聴環境 3/3を設定する

本機前面から視聴位置までの距離や、本機の中心から左側の壁までの距離を設定します。

「壁置き」の場合

「コーナー置き」の場合

本機から視聴位置までの可変範囲:
2.0m～9.0m

本機から左側の壁までの可変範囲:
0.6m～11.4m

2.0m～
9.0m

「本体設置位置」を「壁置き」に設定した場合のみ

0.6m～
11.4m

ビームの角度や長さを設定する(ビーム調整)

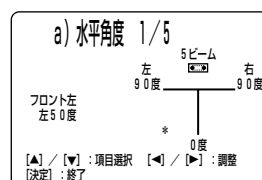
ビームの指向性に関する設定を行います。

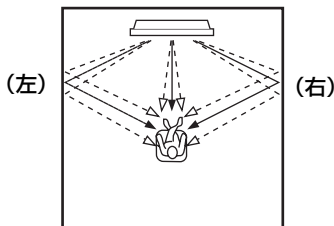
ヒント

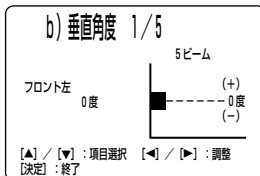
・自動設定または手動設定の実行や、詳細設定「設置視聴環境」の設定により、各項目の初期設定値は自動的に設定されています(「焦点距離」の「センター」は除く)。

・ビームモード(48ページ)の設定により、設定できないチャンネルは「——」と表示されます。

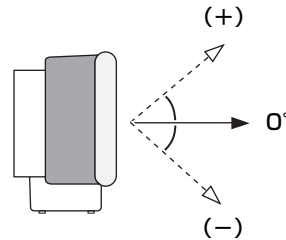
1 「水平角度」を設定する

自動的に出力されるテストトーンを聴きながら、ビームの水平方向の角度をチャンネルごとに調節します。

左方向に調節すると音が出力される方向は左方向へ移動し、右方向に調節すると右方向へ移動します。
これによってビームの経路が移動し、ビームの方向を最適化することができます。

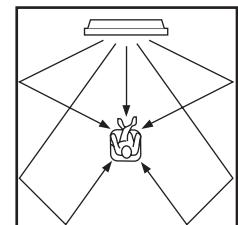
フロント左/右
可変範囲：左90度〜右90度
センター
可変範囲：左90度〜右90度
サラウンド左/右
可変範囲：左90度〜右90度

2「垂直角度」を設定する

自動的に出力されるテストトーンを聴きながら、ビームの垂直方向の角度をチャンネルごとに調節します。

下方向に調節すると音が出力される方向は下へ移動し、上方向に調節すると上へ移動します。

これによってビームの経路が移動し、ビームの方向を最適化することができます。

フロント左/右
可変範囲：−45度〜+45度
センター
可変範囲：−45度〜+45度
サラウンド左/右
可変範囲：−45度〜+45度

3「ビーム経路長」を設定する

それぞれのチャンネルのビームが、出力されてから壁にはね返ってリスニングポジションに到達するまでの距離を設定します。

フロント左/右
可変範囲：0.3m〜24.0m
センター
可変範囲：0.3m〜24.0m
サラウンド左/右
可変範囲：0.3m〜24.0m

右図では、矢印の長さがビームの経路長を表しています。

4 「焦点距離」を設定する

本機の前面と各チャンネルの音の焦点までの距離を設定します。

−（マイナス）方向に設定すると音が広がり、＋（プラス）方向にすると定位が得られます。

センターチャンネルについては、初期設定（−0.5m）での使用をおすすめします。

フロント左/右
可変範囲：−1.0m〜＋13.0m
センター
可変範囲：−1.0m〜＋13.0m
初期設定：−0.5m
サラウンド左/右
可変範囲：−1.0m〜＋13.0m

例

5 「高音レベル」を設定する

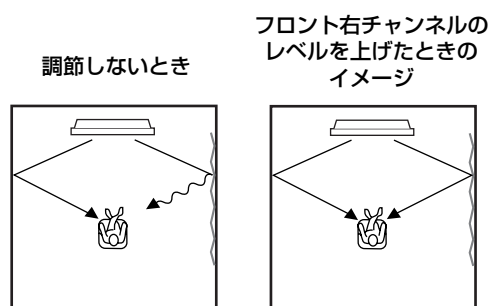
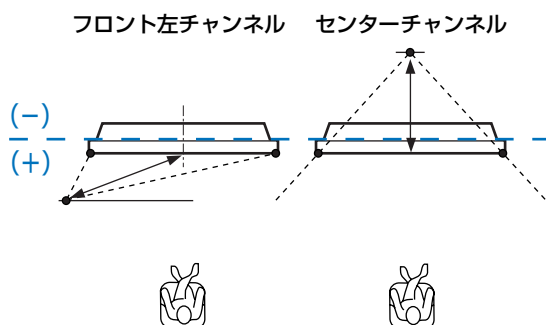
高音域の指向性を各チャンネルごとに調節します。

カーテンなどに音が吸収され、ビームの反射が小さくなってしまうときに、高音域のレベルを上げることにより、それを補正します。

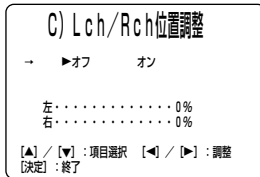
数値が上がるほど、ビームの反射が大きくなります。

フロント左/右
可変範囲：−12.0dB〜＋12.0dB
センター
可変範囲：−12.0dB〜＋12.0dB
初期設定：0dB
サラウンド左/右
可変範囲：−12.0dB〜＋12.0dB

調節しないとき

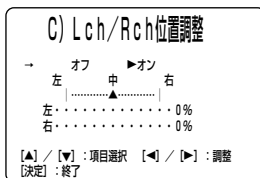
フロント右チャンネルのレベルを上げたときのイメージ

フロント左/右チャンネルの位置を調節する（Lch/Rch位置調整）

フロント左/右チャンネル用の音声信号を、センターチャンネルにも振り分けることによって、フロント左/右チャンネルの音声が聞こえてくる方向を調節します。

C) Lch/Rch位置調整
→ ▶オフ オン
左･････････････0%
右･････････････0%
[▲]／[▼]：項目選択 [◀]／[▶]：調整
[決定]：終了

リスニングポジションがリスニングルームの中心から極端にずれている場合など、左右で音の聞こえてくる方向が不自然な場合にご利用ください。

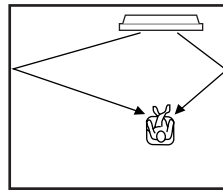
3ビームモードまたは5ビームモードに設定しているときのみ調節することができます。

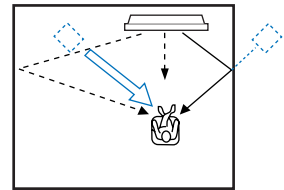
選択項目：オン、オフ
初期設定：オフ

表示例：
オンに設定した場合

1 「左」を設定する

左側から聞こえてくる音の方向を調節します。

設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

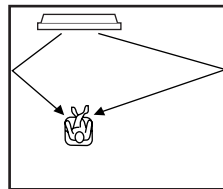
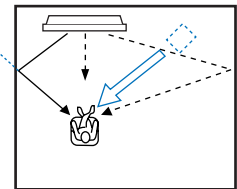
可変範囲：0%～95%
初期設定：0%

調節しないとき

フロント左チャンネルを調節したときのイメージ

2 「右」を設定する

右側から聞こえてくる音の方向を調節します。

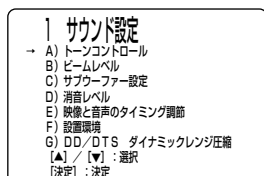
設定値（%）が上がるほどセンターから音が聞こえるようになります。

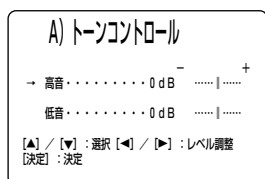
可変範囲：0%～95%
初期設定：0%

調節しないとき

フロント右チャンネルを調節したときのイメージ

音声出力を設定する

音質や音色の調節など、音声の出力に関する設定をします。

(メニュー→詳細設定→サウンド設定)

1 サウンド設定
→ A) トーンコントロール
B) ビームレベル
C) サブウーファー設定
D) 消音レベル
E) 映像と音声のタイミング調節
F) 設置環境
G) DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮
[▲]/[▼]:選択
[決定]:決定

高音域と低音域の出力レベルを設定する(トーンコントロール)

高音域と低音域の出力レベルを調節します。

1 「高音」を調節する

高音域の音色を調節します。

可変範囲:−12.0dB〜+12.0dB
初期設定:0dB

2 「低音」を調節する

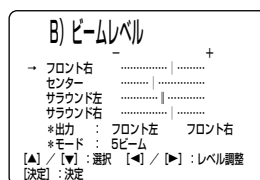
低音域の音色を調節します。

可変範囲:−12.0dB〜+12.0dB
初期設定:0dB

ビームの音量レベルを設定する(ビームレベル)

各チャンネルの音量レベルを調節して、バランスを整えます。

ヒント

- 自動設定または手動設定の実行や、詳細設定メニュー「設置視聴環境」の設定により、各項目の初期設定値は自動的に設定されています。
- 5つのビームモードそれぞれにチャンネルごとの音量調節ができます。選択できないチャンネルは「無し」と表示されます。

フロント右、センター、サラウンド左、サブウーファーの各チャンネルの音量レベルを設定する際には、フロント左チャンネルおよび選択したチャンネルの2つから、テストトーンが交互に出力されます。

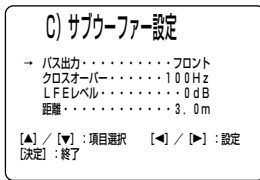
サラウンド右チャンネルの音量レベルを設定する際には、サラウンド左チャンネルおよびサラウンド右チャンネルの2つから、テストトーンが交互に出力されます。

フロント左チャンネルまたはサラウンド左チャンネルにあわせて、その他のチャンネルの音量レベルを調節してください。

可変範囲:−10.0dB〜+10.0dB
初期設定:0dB

サブウーファーの設定をする

サブウーファーについて、さまざまな設定をします。

C) サブウーファー設定
→ パス出力・・・・・・・・・・フロント
クロスオーバー・・・・・・・100Hz
LFEレベル・・・・・・・・・・0dB
距離・・・・・・・・・・・・・3．0m
[▲]／[▼]：項目選択　[◀]／[▶]：設定
[決定]：終了

1「バス出力」を設定する

サブウーファーと本機のどちらから低音成分を出力するかを設定します。

選択項目：サブウーファー、フロント
初期設定：フロント

「サブウーファー」：本機に接続したサブウーファーから低音成分を出力します。サブウーファーのオートスタンバイ機能を使用する場合はこちらを選択してください。

「フロント」：本機から低音成分を出力します。

2「クロスオーバー」を設定する

「バス出力」を「サブウーファー」に設定しているときに、サブウーファーに出力する低音成分の周波数の上限を設定します。設定した周波数以下の低音成分がサブウーファーに出力されます。

選択項目：80Hz、100Hz、120Hz
初期設定：100Hz

3「LFE（エルエフイー）レベル」を設定する

ドルビーデジタル、DTS、およびAAC信号に含まれているLFE（低域効果音）の音量を調節します。

可変範囲：－20dB～0dB
初期設定：0dB

4「距離」を設定する

サブウーファーからリスニングポジションまでの距離を設定します。

可変範囲：0.3m～15.0m
初期設定：3.0m

消音のレベルを設定する

リモコンの消音キーを押して消音するときに下げる音量を、2段階から選択します。

D) 消音レベル
▶消音　－20dB
[◀]／[▶]：設定
[決定]：終了

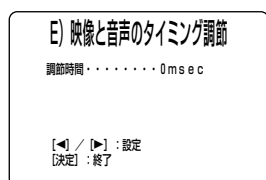
選択項目：消音、－20dB
初期設定：消音

「消音」：完全に消音し、無音にする場合に選択します。

「－20dB」：いま聴いている音量よりも、20dB下げて再生する場合に選択します。

映像と音声のタイミングを調節する

音声出力のタイミングが映像と一致するように補正します。

E) 映像と音声のタイミング調節
調節時間・・・・・・・・0msec
[◀]/[▶]:設定
[決定]:終了

デジタル処理された映像が、音声よりも遅れて出力されることがあります。

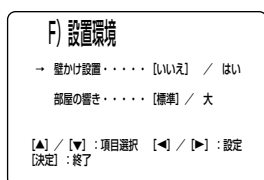
この出力タイミングのずれを、音声を遅らせて出力することにより補正します。設定値が大きくなるほど音声が遅れて出力されます。

プラズマディスプレイをご使用の場合は30msec～50msec、ブラウン管式テレビをご使用の場合は0msecの設定をおすすめします。

可変範囲:0msec～160msec
初期設定:0msec

設置環境を設定する

本機の設置状況やリスニングルームの環境を設定します。

F) 設置環境
→ 壁かけ設置・・・・・[いいえ] / はい
部屋の響き・・・・・[標準] / 大
[▲]/[▼]:項目選択 [◀]/[▶]:設定
[決定]:終了

1 「壁かけ設置・・・いいえ/はい」を選択する

本機をラックなどに置く場合は「いいえ」を選択してください。

本機を壁掛けブラケット等を利用して壁面に直接設置する場合は「はい」を選択してください。本機背面と壁が接近していると、中低音がこもった感じに聞こえることがありますが、それを補正します。

選択項目:いいえ、はい
初期設定:いいえ

2 「部屋の響き・・・標準/大」を選択する

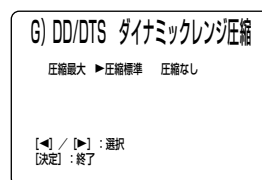
一般的なリスニングルームでご使用の場合は「標準」をお選びください。

壁がコンクリートでできている場合など、音がよく反射するリスニングルームでご使用の場合は「大」お選びください。

選択項目:標準、大
初期設定:標準

ダイナミックレンジ圧縮を設定する

ドルビーデジタル、およびDTS再生時のダイナミックレンジを選びます。

G) DD/DTS ダイナミックレンジ圧縮
圧縮最大 ▶圧縮標準 圧縮なし
[◀]/[▶]:選択
[決定]:終了

選択項目:圧縮最大、圧縮標準、圧縮なし
初期設定:圧縮なし

「圧縮最大」:小音量でも小さな音が明瞭に聴こえる、夜間に音声を楽しむのに適したダイナミックレンジです。

「圧縮標準」:一般的な家庭用として使用するダイナミックレンジです。

「圧縮なし」:小さな音から大きな音まで、ソースの持つサウンドを最大に生かすダイナミックレンジです。

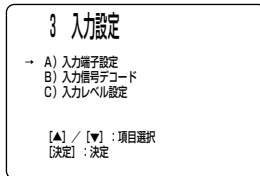
ダイナミックレンジとは?
どれだけ小さな音から、どれだけ大きな音までを雑音や歪みなく再生できるかを表わしたものです。

入力の設定を変更する

音声信号や映像信号の入力に関する設定を行います。

（メニュー→詳細設定→入力設定）

3 入力設定
→ A）入力端子設定
B）入力信号デコード
C）入力レベル設定

[▲]／[▼]：項目選択
[決定]：決定

入力端子の割り当てを変更する（入力端子設定）

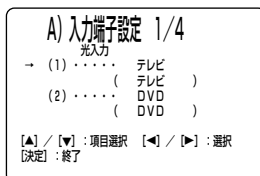
本機の入力端子に印字されている名前（テレビ/チューナー、DVD、ビデオ、AUX）は便宜的に付けられているものです。
入力端子自体は同一のため、例えば光デジタル入力（テレビ/チューナー）端子にDVDプレーヤー/レコーダーを接続しても機能は変わりません。

その場合、接続された機器に応じて名前を変更することにより、リモコンの入力選択キーの名前と同じ機器名の入力切替ができます。
また、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に表示される機器名が実際に接続されている機器名と一致します。

1 「光入力（1）」を設定する

本機の光デジタル入力（テレビ/チューナー）端子を「テレビ」または「ビデオ」に割り当てることができます。

A）入力端子設定 1/4
光入力
→ （1）・・・・・ テレビ
（ テレビ ）
（2）・・・・・ DVD
（ DVD ）

[▲]／[▼]：項目選択 [◀]／[▶]：選択
[決定]：終了

選択項目：テレビ、ビデオ
初期設定：テレビ

初期設定では、光デジタル入力（テレビ/チューナー）端子は「テレビ」に設定されています。そのため入力選択キーのテレビキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイには「TV」、メニュー画面には「テレビ」と表示されます。

設定を「ビデオ」に変更すると、光デジタル入力（テレビ/チューナー）端子に接続した機器を入力選択キーのビデオキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイには「VIDEO」、メニュー画面には「ビデオ」と表示されるようになります。

2 「光入力（2）」を設定する

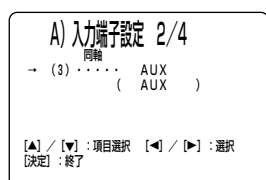
本機の光デジタル入力（DVD）端子を「DVD」または「AUX」に割り当てることができます。

選択項目：DVD、AUX
初期設定：DVD

初期設定では、光デジタル入力（DVD）端子は「DVD」に設定されています。そのため入力選択キーのDVDキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「DVD」と表示されます。

設定を「AUX」に変更すると、光デジタル入力（DVD）端子に接続した機器を入力選択キーのAUXキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「AUX」と表示されるようになります。

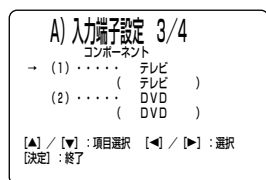
3 「同軸」を設定する

本機の同軸デジタル入力(AUX)端子を「AUX」または「DVD」に割り当てることができます。

選択項目：AUX、DVD
初期設定：AUX

初期設定では、同軸デジタル入力(AUX)端子は「AUX」に設定されています。そのため入力選択キーのAUXキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「AUX」と表示されます。

設定を「DVD」に変更すると、同軸デジタル入力(AUX)端子に接続した機器を入力選択キーのDVDキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「DVD」と表示されるようになります。

4 「コンポーネント(1)」を設定する

本機のコンポーネントビデオ入力(チューナー)端子を「テレビ」または「ビデオ」に割り当てることができます。

選択項目：テレビ、ビデオ
初期設定：テレビ

初期設定では、コンポーネントビデオ入力(チューナー)端子は「テレビ」に設定されています。そのため入力選択キーのテレビキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイには「TV」、メニュー画面には「テレビ」と表示されます。

設定を「ビデオ」に変更すると、コンポーネントビデオ入力(チューナー)端子に接続した機器を入力選択キーのビデオキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイには「VIDEO」、メニュー画面には「ビデオ」と表示されるようになります。

5 「コンポーネント(2)」を設定する

本機のコンポーネントビデオ入力(DVD/AUX)端子を「DVD」または「AUX」に割り当てることができます。

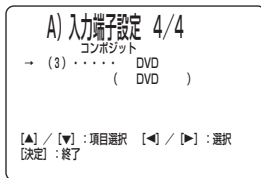
選択項目：DVD、AUX
初期設定：DVD

初期設定では、コンポーネントビデオ入力(DVD/AUX)端子は「DVD」に設定されています。そのため入力選択キーのDVDキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「DVD」と表示されます。

設定を「AUX」に変更すると、コンポーネントビデオ入力(DVD/AUX)端子に接続した機器を入力選択キーのAUXキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「AUX」と表示されるようになります。

6 「コンポジット」を設定する

本機のビデオ入力(DVD/AUX)端子を「DVD」または「AUX」に割り当てることができます。

A) 入力端子設定 4/4
コンポジット
→ (3)・・・・・ DVD
(DVD)
[▲]/[▼]:項目選択 [◀]/[▶]:選択
[決定]:終了

選択項目:DVD、AUX
初期設定:DVD

初期設定では、ビデオ入力(DVD/AUX)端子は「DVD」に設定されています。そのため入力選択キーのDVDキーを押すと、接続された機器名に関係なく、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「DVD」と表示されます。

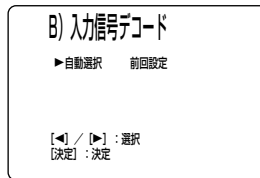
設定を「AUX」に変更すると、ビデオ入力(DVD/AUX)端子に接続した機器を入力選択キーのAUXキーで選択できるようになり、フロントパネルディスプレイやメニュー画面に「AUX」と表示されるようになります。

電源を入れたときに適用する入力モードを設定する(入力信号デコード)

本機の電源モードをオンにしたときに使用する音声信号の入力設定を指定することができます。本機が自動的に適切な音声入力信号を選択するか、前回選択していた音声入力信号を今回もそのまま適用するかのどちらかを設定します。

ヒント

音声信号の種類については「音声信号の種類を選ぶ」(81ページ)をご参照ください。

B) 入力信号デコード
▶自動選択 前回設定
[◀]/[▶]:選択
[決定]:決定

選択項目:自動選択、前回設定
初期設定:自動選択

「自動選択」:入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択をします。

「前回設定」:前回電源を切ったときに選択していた音声入力信号を再生します。設定とは異なった音声信号が入力された場合は、音声は出力されません。

各端子の入力レベルを調節する(入力レベル調整)

端子ごとに入力レベルを設定して、ソースにより異なる音量のばらつきを調節します。

ヒント

本機と外部機器との接続状況によって、メニュー項目が変わります。

表示例

C) 入力レベル調整
→ テレビ アナログ・・・・・・−3.0dB
光入力・・・・・・・−3.0dB
ビデオ アナログ・・・・・・−3.0dB
DVD 光入力・・・・・・・−3.0dB
AUX 同軸入力・・・・・・−3.0dB
[▲]/[▼]:選択 [◀]/[▶]:レベル調整
[決定]:終了

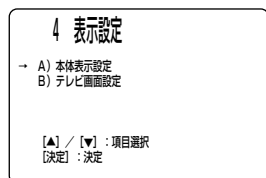
メニューに表示されたそれぞれの端子について、入力レベルを調節します。

可変範囲: −6.0dB〜0dB
初期設定: −3.0dB

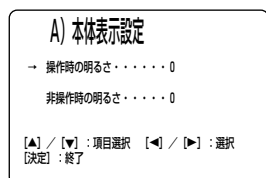
表示の設定を変更する

本体のフロントパネルディスプレイ表示や、テレビ画面に表示されるメニューについて設定します。

（メニュー→詳細設定→表示設定）

4　表示設定
→ A）本体表示設定
B）テレビ画面設定
[▲]／[▼]：項目選択
[決定]：決定

フロントパネルディスプレイの明るさを設定する（本体表示設定）

フロントパネルディスプレイ表示の明るさを設定します。

A）本体表示設定
→ 操作時の明るさ・・・・・・0
非操作時の明るさ・・・・・0
[▲]／[▼]：項目選択　[◀]／[▶]：選択
[決定]：終了

1「操作時の明るさ」を設定する

本体のキーまたはリモコンキーでなんらかの操作をすると、フロントパネルディスプレイの表示が一定時間明るくなります。そのときの明るさを調節します。

選択項目：－2、－1、0
初期設定：0

2「非操作時の明るさ」を設定する

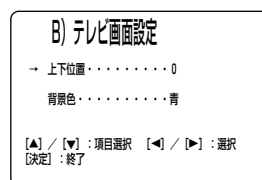
一定時間なにも操作しないと、フロントパネルディスプレイは暗く表示されます。

そのときの明るさを調節します。「操作時の明るさ」の設定値を基準にさらに3段階暗くすることができます。

選択項目：非表示、－3～－1、0
初期設定：0

メニューの表示を設定する（テレビ画面設定）

テレビ画面に表示される本機のメニューに関して設定します。

B）テレビ画面設定
→ 上下位置・・・・・・・・・0
背景色・・・・・・・・・・青
[▲]／[▼]：項目選択　[◀]／[▶]：選択
[決定]：終了

1「上下位置」を設定する

メニューを表示する位置を調節します。－（マイナス）方向にすると表示位置が上に移動し、＋（プラス）方向にすると下に移動します。

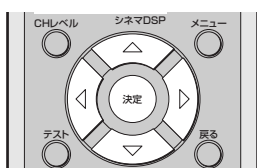
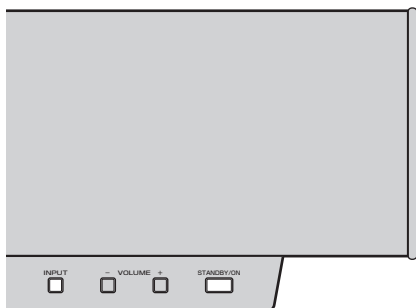
可変範囲：－5～＋5
初期設定：0

2「背景色」を設定する

メニューの背景色を選択します。

選択項目：青、グレー
初期設定：青

本機の設定を変更する

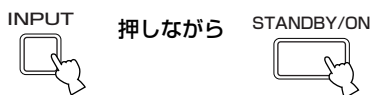
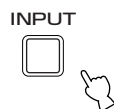
各種設定を保護したり、工場出荷状態に戻したりします。

音量の最大値を設定する

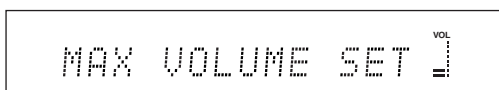
音量を、指定した値より大きくできないように設定します。

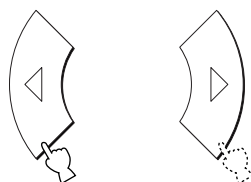
1 本機の電源をオフ(スタンバイ)にする

2 本体のINPUTキーを押しながら、STANDBY/ONキーを押して電源を入れる

フロントパネルディスプレイに「MAX VOLUME SET」と表示されます。

押しながら

3 INPUTキーをはなす

4 フロントパネルディスプレイに「MAX VOLUME SET」と表示されていることを確認して、決定キーを押す

MAX VOLUME SET

5 ◁ / ▷ キーを押して、指定したい値を選択する

調節できる範囲は、0dBから−99.0dB(1dBごと)までです。

6 STANDBY/ONキーを押して、電源をスタンバイにする

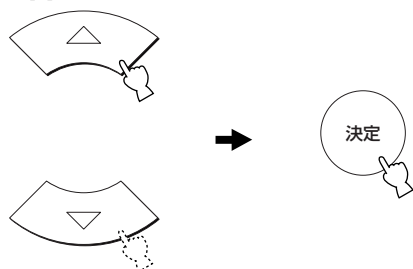
再度STANBY/ONキーを押して電源を入れると、設定されます。

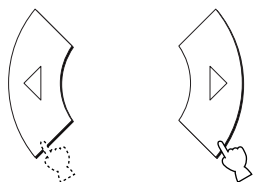
メニューの設定内容を保護する

メモリー保存した設定の内容を変更できないようにします。

1 「音量の最大値を設定する」の手順3までを実行する

2 △ / ▽ キーを押して、フロントパネルディスプレイに「MEMORY PROTECT」を表示させ、決定キーを押す

MEMORY PROTECT　VOL

3 ◁ / ▷ キーを押して、フロントパネルディスプレイに「PROTECT: ON」を表示させる

設定内容を保護したくない場合は、ここで「PROTECT OFF」を選択します。

PROTECT: OFF ↔ PROTECT: ON

4 STANDBY/ONキーを押して、電源をスタンバイにする

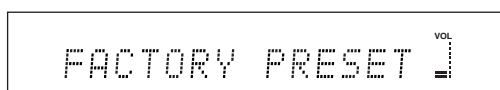
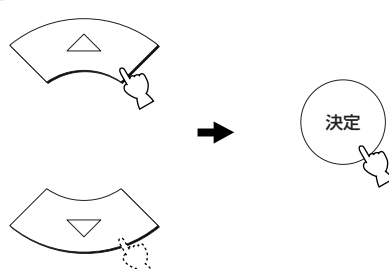
再度STANBY/ONキーを押して電源を入れると、設定されます。

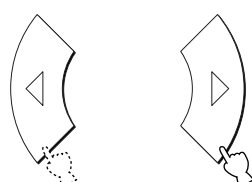
設定した内容を初期化する

メニューで変更した各種設定をすべて工場出荷状態に戻します。

1 「音量の最大値を設定する」の手順3までを実行する

2 △ / ▽ キーを押して、フロントパネルディスプレイに「FACTORY PRESET」を表示させ、決定キーを押す

FACTORY PRESET　VOL

3 ◁ / ▷ キーを押して、フロントパネルディスプレイに「PRESET: RESET」を表示させる

工場出荷状態に戻したくない場合は、ここで「PRESET: CANCEL」を選択します。

PRESET:CANCEL ↔ PRESET: RESET

4 STANDBY/ONキーを押して、電源をスタンバイにする

再度STANBY/ONキーを押して電源を入れると、設定されます。

音声信号の種類を選ぶ

テレビやDVDから本機に入力される音声信号の選択をします。

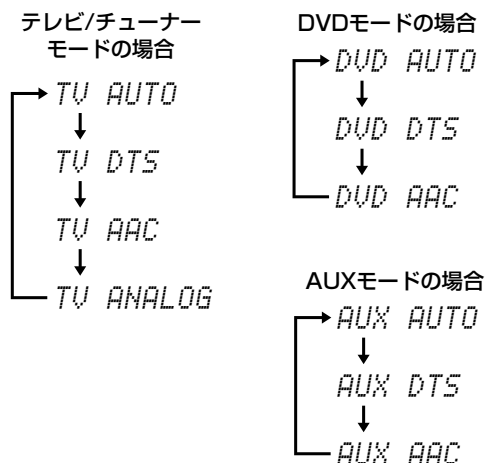
「AUTO」(初期設定)のままでほとんどの音声信号を再生することができますが、必要に応じてデジタル、アナログ信号の優先順位を選んだり、DTSまたはAAC信号に入力設定を固定したりすることができます。

1 入力選択キーを押して、選択したいモードに切り替える

2 入力モードキーを押す

フロントパネルディスプレイに現在の入力設定が表示されます。

3 入力モードキーを繰り返し押す

設定を変更することができます。
ビデオはANALOGの設定となっています(工場出荷時)。

AUTO

入力された音声信号を識別して、自動的に適切な入力選択とデコードをします。

デジタルとアナログの両方で接続したテレビから、両方の信号が入力された場合には、デジタル信号を優先して選択します。

通常はこのモードをご使用ください。

DTS

DTS信号のみを再生します。

DTS信号を入力している場合に、AUTOに設定しているときよりも安定した再生をすることができます。

DTS—CDまたはDTS—LDを再生するときにおすすめします。

AAC

AAC信号のみを再生します。

AAC信号を入力している場合に、AUTOに設定しているときよりも安定した再生をすることができます。

BS/地上デジタル放送やD—VHSデッキなどからAAC信号を入力するときにおすすめします。

ANALOG

デジタル信号とアナログ信号が同時に入力されている場合でも、アナログ信号を再生します。

ヒント

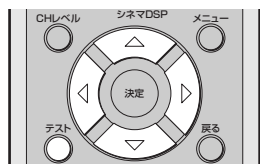
「電源を入れたときに適用する入力モードを設定する(入力信号デコード)」(77ページ)で、本機の電源をオンにした際に使用する入力設定を「自動選択」(AUTO)にするか、前回使用していた入力設定にするかを指定することができます。

音のバランスを調節する

各チャンネルの音量のバランスを調節します。各チャンネルの音量バランスを整えることによって、自然なサラウンドサウンドになります。

5つのビームモードそれぞれにチャンネルごとの音量の調節ができます。

テストトーンを使って調節する

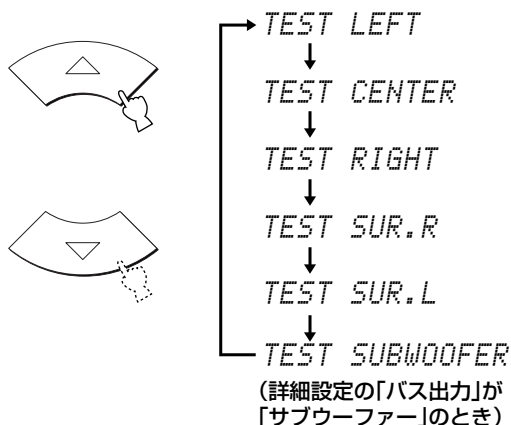
各チャンネルからテストトーンを出力することによって、チャンネルごとの音の大きさの違いを聴きくらべ、バランスを調節することができます。

1 テストキーを押す

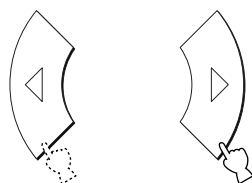
フロントパネルディスプレイに「TEST LEFT」と表示され、フロント左チャンネルからテストトーンが出力されます。

TEST LEFT

2 △ / ▽ キーを押して調節したいチャンネルを選択する

フロントパネルディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

（詳細設定の「バス出力」が「サブウーファー」のとき）

3 ◁ / ▷ キーを押して音量レベルを調節する

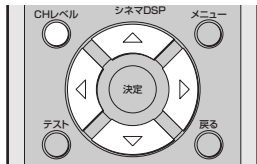
音量調節レベルは−10dB〜+10dBです。

設定中に音量を上げた場合は、次のステップにすすむ前に必ず音量を確認し、上がり過ぎている場合は音量を下げてください。

4 テストキーを押して、設定を終了する

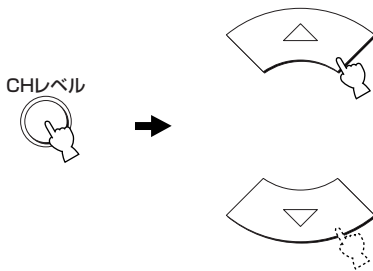
ヒント

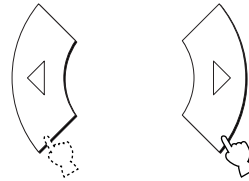
- サブウーファーを接続し、「1 「バス出力」を設定する」(73ページ)で「サブウーファー」を選択すると、「SUBWOOFER」の項目も設定できます。
- 調節できないチャンネルは「−−」と表示されます。
- ビームモードが「ST+3ビームモード」の場合、フロント左/右チャンネルは調節できません。「ステレオモード」および「ターゲットモード」の場合、すべてのチャンネルが調節できません。
- ビームモードが「ステレオモード」または「ST+3ビームモード」の場合、フロント左/右チャンネルは他のチャンネルの設定に応じて、自動的に調節されます。

再生しながら調節する

DVDなどのソースを再生しながら、各チャンネルの音量バランスを調節することができます。

1 CHレベルキーを繰り返し押す、またはCHレベルキーを押してから△ / ▽ キーを押して、調節したいチャンネルを選択する

フロントパネルディスプレイの表示が以下のように切り替わります。

表示例

2 ◁ / ▷ キーを押して、音量レベルを調節する

音量レベル調節範囲は－10dB～＋10dBです。

3 しばらくの間操作をしない

設定を終了します。

ヒント

- サブウーファーを接続し、「1「バス出力」を設定する」(73ページ)で「サブウーファー」を選択すると、「SWFR」の項目も設定できます。
- 調節できないチャンネルは「－－」と表示されます。
- ビームモードが「ST+3ビームモード」の場合、フロント左/右チャンネルは調節できません。
「ステレオモード」の場合、すべてのチャンネルが調節できません。
「ターゲットモード」の場合、センターチャンネルのみ調節できます。
- ビームモードが「ステレオモード」または「ST+3ビームモード」の場合、フロント左/右チャンネルは他のチャンネルの設定に応じて、自動的に調節されます。

本機のリモコンで外部機器を操作する

外部機器のリモコンコード(89ページ)を登録すると、本機のリモコンを使用して本機に接続したテレビやDVD、ビデオデッキなどの外部機器を操作することができます。

ご注意

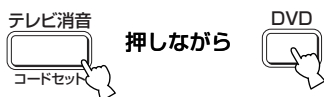
- 外部機器の機種によっては、本機のリモコンで一部の機能を操作できない場合があります。また、全く操作できない場合もあります。このような場合は各機器に付属しているリモコンをご使用ください。
- リモコンの電池が切れると、約2分後にリモコンの設定内容が消去されます。この場合、必要に応じてリモコンコードを再登録してください。また、電池が切れてから2分に満たない場合でも、電池の交換中にリモコンのキーを押すと、設定が消えてしまうことがありますので、ご注意ください。

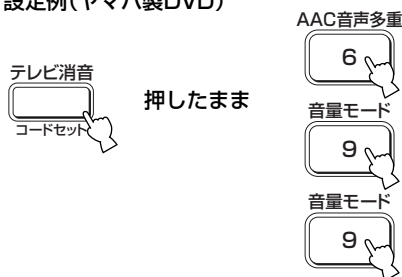
リモコンコードを登録する

入力選択キーのテレビキーにはテレビの、DVDキーにはDVDの、ビデオキーにはビデオデッキの、AUXキーにはその他の機器のリモコンコードを登録することができます。

1 コードセットキーを押しながら、リモコンコードを設定したい外部機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

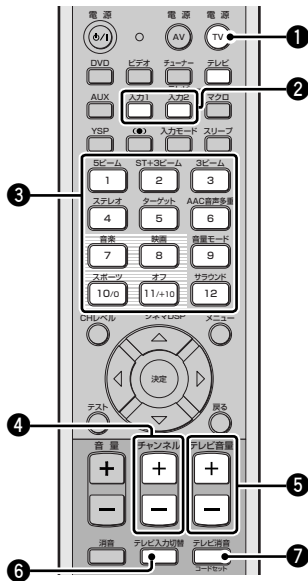
設定例(ヤマハ製DVD)

2 コードセットキーを押したまま、数字キーで外部機器のリモコンコード(89ページ)を入力する

設定例(ヤマハ製DVD)

3 「設定した機器を操作する」(85ページ)を参照し、登録した外部機器のいずれかの操作を実行する

外部機器が正しく機能すれば登録は完了です。

正しく機能しない場合はリモコンコードが合致していない可能性があります。本機に接続している外部機器のリモコンコード(89ページ)を確認後、手順1を再度実行してください。

設定した機器を操作する

テレビを操作する

テレビキーを押して入力をテレビに切り替えます。

テレビ

❶ **電源(TV)キー**：テレビの電源をオンにします。

❷ **入力1/2キー**：テレビの入力を直接指定します。

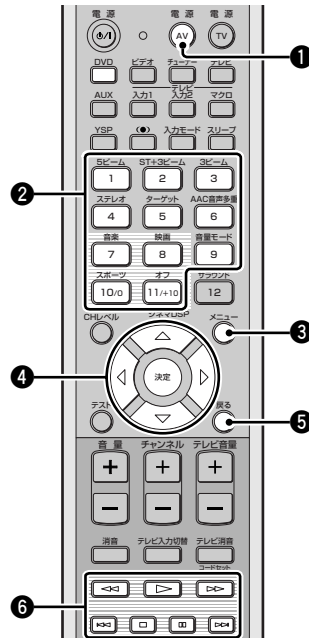
❸ **数字キー**：チャンネルを直接指定します。

❹ **チャンネル(+/−)キー**：テレビのチャンネルを切り替えます。

❺ **テレビ音量(+/−)キー**：テレビの音量を調節し ます。

❻ **テレビ入力切替キー**：テレビの入力を切り替えます。

❼ **テレビ消音キー**：テレビの音量を一時的に消音します。

DVDを操作する

DVDキーを押して入力をDVDに切り替えます。

❶ **電源(AV)キー**：DVDの電源をオンにします。

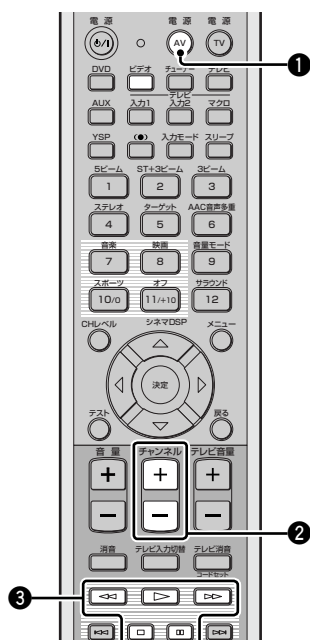
❷ **数字キー**：数字を入力します。

❸ **メニューキー**：DVDメニューを表示します。

❹ **カーソルキー**：DVDメニューを選択します。

❺ **戻るキー**：DVDメニューで前の画面に戻る、またはDVDメニューから抜けるときに押します。

❻ **DVD、ビデオデッキ操作キー**：再生、停止などの操作をします。

ビデオデッキを操作する

ビデオ/VCRキーを押して入力をビデオデッキに切り替えます。

ビデオ

❶ **電源(AV)キー**：ビデオデッキの電源をオンにします。

❷ **チャンネル(+/−)キー**：ビデオデッキのチャンネルを切り替えます。

❸ **DVD、ビデオデッキ操作キー**：再生、停止などの操作をします。

テレビマクロ機能を使う

テレビマクロ機能とは、入力選択キーで入力モードを選んだだけで、テレビの入力切替までを自動的に行うことができるようにする機能です。例えばDVDを再生する場合、通常は(1)テレビの入力を切り替える→(2)入力ソースをDVDに切り替える・・・などの操作が必要です。マクロ機能を使うと、マクロキーのDVDキーを押すだけでこのような一連の操作を行うことができます。

ご注意

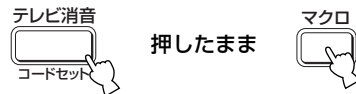
- チューナー機能が搭載されていないテレビをご使用の場合は設定の方法が異なります。詳しくは88ページをご参照ください。
- 設定の途中で、上のリモコン図で示されている以外のキーを押すと、設定が無効になります。
- 手順2または3で、キーを押す間隔が10秒を超えると、すべての操作が無効になります。その場合、手順1からやりなおしてください。

1 コードセットキーを押しながら、マクロを設定したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例(DVD)

押しながら

2 コードセットキーを押したまま、マクロキーを押す

押したまま

3 チャンネル+/−キー、または数字キーを押す

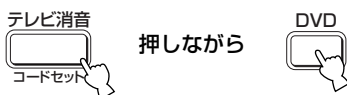
テレビ画面がチューナー画像に切り替わったことを確認します。

または

4 テレビ入力切替キーを押す

手順1で指定した入力モードの画像に切り替わるまで、キーを繰り返し押します。

5 決定キーを押して、マクロ設定を終了する

決定

チューナー機能が搭載されていないテレビをご使用の場合

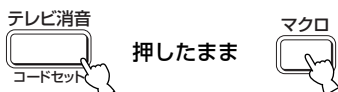
1 コードセットキーを押しながら、マクロを設定したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

設定例（DVD）

押しながら

2 コードセットキーを押したまま、マクロキーを押す

押したまま

3 入力1キーを押す

テレビが入力1の画面に切り替わったことを確認します。

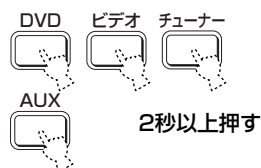
4 テレビ入力切替キーを押す

手順1で指定した入力モードの画像に切り替わるまで、キーを繰り返し押します。

5 決定キーを押して、マクロ設定を終了する

テレビマクロを実行するには

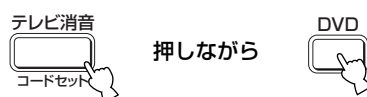
マクロを実行したい機器の入力選択キーを2秒以上押す

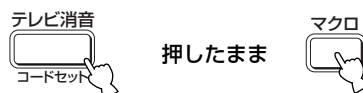
入力モードが切り替わるのと同時に、テレビの入力も切り替わります。

テレビマクロの設定を解除するには

1 コードセットキーを押しながら、マクロ設定を解除したい機器の入力選択キーを押す

コードセットキーを押したまま、手順2へすすみます。

解除例（DVD）

押しながら

2 コードセットキーを押したまま、マクロキーを押す

押したまま

3 決定キーを押して、マクロ設定を解除する

リモコンコード一覧

下表のメーカー製品であっても形式、年式によって使用できないものがあります。他社のリモコンコードを設定した場合、機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。この場合は、お使いの機器専用のリモコンをご利用ください。複数のリモコンコードが記載されている場合は、お使いの機器に一致するものが見つかるまで順番にお試しください。

メーカー名	リモコンコード
テレビ	
アイワ	294　276　283　284
RCA	293　297　234　256　257　258　221
NEC	297　252　282
LG/GOLDSTAR	297　298　239　237
SAMSUNG	297　239　248　262　275
サンヨー	295　233　279　272　273　274　212
シャープ	292　239　232　213
ソニー	263　214
DAEWOO	297　298　224　227　228
東芝	292　226　267　215
パイオニア	226　235　254　255　268
バイデザイン	201　202
パナソニック	234　235　236　253　288　211
ビクター	296　246　247　286
日立	297　239　242　243　285
PHILIPS	298　225　205
富士通	289
フナイ	277　278
三菱	299　297　259　287
ヤマハ	299　292　242　285　287　253
DVDプレーヤー/レコーダー	
アイワ	648　649
RCA	639
オンキョー	632　633　634
ケンウッド	628
SAMSUNG	642
シャープ	643
ソニー	644　676　677
DAEWOO	655
デノン	623　624
東芝	634　665　666　667
パイオニア	636　637　638　673　674　675
バイデザイン	678　679
パナソニック	623　635　668　672
ビクター	627
日立	626
PHILIPS	699　647　659
フナイ	625
MARANTZ	699　659
三菱	629
ヤマハ	699　622　623　647

メーカー名	リモコンコード
ビデオデッキ	
アイワ	396　397　398　329
NEC	392　394　344　383
LG/GOLDSTAR	396　388
Orion	327
ケンウッド	392　394　396
SAMSUNG	354　358　363　364　365　366
サンスイ	394
サンヨー	393　336　367
シチズン	396
シャープ	395　362　382
ソニー	368　379　372　373　374　375
DAEWOO	328　334　335
東芝	335　369　389
TEAC	392　394　397
パイオニア	325
パナソニック	325　328　339　355　378　384　385　386
ビクター	392　394　344　345　346　347
日立	325　333　349　342　343
フナイ	397
MARANTZ	392　394
三菱	399　344　348　359　352　353
ヤマハ	399　392　393　394
ケーブルテレビチューナー	
ソニー	756　757
パイオニア	747　748　785
パナソニック	744　745　746　747　783　784
日立	722
PHILIPS	763　764　765　766　767　768
BSデジタルチューナー	
RCA	837　838　839　842
ソニー	832　835
東芝	833　836
パナソニック	826　829
ビクター	822
日立	824
PHILIPS	825　843　844　845　846　847　848　849
ユニデン	825

故障かな？と思ったら

ご使用中に本機が正常に作動しなくなった場合は下記の点をご確認ください。対処しても正常に動作しない場合や、下記以外で異常が認められた場合は、本機をスタンバイ状態にし、電源プラグをコンセントから抜いてからお買上げ店または最寄りのヤマハ電気音響製品サービス拠点にお問い合わせください。

全般

電源を入れてもすぐに切れてしまう

原因	対策	参照ページ
電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体のAC IN端子にしっかりと差し込んでください。	30
内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

STANDBY/ONキーを押しても電源が入らない

原因	対策	参照ページ
電源コードがしっかり接続されていない。	電源コードをACコンセントおよび本体のAC IN端子にしっかりと差し込んでください。	30
内部マイコンが外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

使用中に突然電源が切れる

原因	対策	参照ページ
機器内部の温度が上昇したため、保護回路が働き電源が切れた。	温度が下がるのを待って(約1時間程度)、電源を入れなおしてください。	—
スリープタイマーが作動した。	電源を入れてソースを再生しなおしてください。	—

音声が突然出なくなる

原因	対策	参照ページ
消音された。	リモコンの消音キーまたは音量+/−キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	47

音声が出ない

原因	対策	参照ページ
再生機器がしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	22
再生したいソースが正しく選ばれていない。	INPUTキーや入力選択キーで、再生したいソースを正しく選んでください。	45
音量が小さい。	音量を大きくしてください。	47
消音されている。	リモコンの消音キーまたは音量+/−キーを押して消音を解除し、音量を調節してください。	47
サンプリング周波数が192kHzのPCMやMPEG2など、本機で再生できない信号が入力されている。	本機で再生可能な信号のソースを再生してください。または再生機器の設定を変更してください。	—

センターチャンネルから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
センターチャンネルの音量が絞られている。	センターチャンネルの音量を調節してください。	82

センター、サラウンド左/右から音声が出ない

原因	対策	参照ページ
ステレオモードで再生している。	ビームモードキーで、5ビーム、ステレオ+3ビーム、または3ビームモードを選択して再生してください。	48

サラウンド左/右チャンネルから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
サラウンド左/右チャンネルの音量が小さい。	サラウンド左/右チャンネルの音量を調節してください。	82

有線放送などでエフェクトチャンネルの音がノイズになる

原因	対策	参照ページ
あらかじめソースにサラウンド効果がかかっている。	本機でサラウンド効果をかけないでください。	—

十分なサラウンド効果が得られない

原因	対策	参照ページ
本機とDVDプレーヤー/レコーダーやテレビをデジタル接続している場合に、DVDプレーヤー/レコーダーやテレビのデジタル出力設定が有効になっていない。	DVDプレーヤー/レコーダーやテレビ側の設定を確認してください。	—
リスニングルームが特殊な形状をしている。	四角の部屋に設置してください。	—
ビーム系路上に壁がない。	ビーム経路上に反射板を設置してください。	—

ドルビーデジタルまたはDTSソフトの再生ができない（本機のディスプレイのドルビーデジタルまたはDTSインジケーターが点灯しない）

原因	対策	参照ページ
接続したプレーヤーなどの設定が「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」に設定されていない。	お使いのプレーヤーの取扱説明書を参照し、正しく設定してください。	—
入力モードをANALOGに設定している。	AUTOに設定してください。	81

サブウーファーから音声が出ない

原因	対策	参照ページ
詳細設定「サブウーファー設定」で「バス出力」を「フロント」に設定している。	「サブウーファー」に設定してください。	73
再生しているソースにLFEや低音信号が含まれていない。		—

低音の再生不良

原因	対策	参照ページ
詳細設定「サブウーファー設定」の「クロスオーバー」が正しく設定されていない。	「クロスオーバー」を正しく設定してください。	73
ナイトリスニングモードが選択されている。	ナイトリスニングモードをオフにしてください。	57

低音が大きすぎる

原因	対策	参照ページ
TruBassが選択されている。	TruBassの設定を変更してください。	58
サブウーファーの音量が大きすぎる。	サブウーファーの音量を下げてください。	—

サブウーファーを接続していない時に、本来の音以外の雑音が出る

原因	対策	参照ページ
強い低音成分が連続して含まれるソースを再生したため、保護回路が働き雑音が出た。	音量を下げてお楽しみください。	47
	詳細設定「サブウーファー設定」で「バス出力」を「サブウーファー」に変更してください。その際「クロスオーバー」を「100Hz」または「120Hz」に設定してください。低音成分が抑えられます。	73
	サブウーファーを接続し、詳細設定「サブウーファー設定」を行ってください。	73

テレビ画面にメニューが表示されない

原因	対策	参照ページ
ビデオ出力端子（コンポジット端子）とテレビが接続されていない。	ビデオ出力端子とテレビを接続してください。本機は、コンポーネント接続のみではメニューが表示されません。	23
ビデオ用ピンケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	23
テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	34

DVDなどの映像が出ない

原因	対策	参照ページ
ビデオ用ピンケーブルまたはコンポーネントビデオケーブルがしっかり接続されていない。	接続を確認してください。	24
テレビの入力切替が正しく設定されていない。	テレビの入力を切り替えてください。	46

本機が正常に作動しない

原因	対策	参照ページ
内部マイコンが外部電気ショック（落雷または過度の静電気）、または電源電圧の低下によりフリーズしている。	ACコンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。	—

デジタル機器や高周波機器からの雑音を受けている

原因	対策	参照ページ
本機とデジタル機器や高周波機器の設置場所が近すぎる。	本機からそれらの機器を離してください。	—

リモコン

リモコンで操作できない

原因	対策	参照ページ
リモコン操作範囲から外れている。	本体のリモコン受光部から6m以内、角度30°以内の範囲で操作してください。	32
受光部に日光や照明（インバーター蛍光灯やストロボライトなど）が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。	—
乾電池が消耗している。	乾電池をすべて交換してください。	31

外部機器がリモコンで操作できない

原因	対策	参照ページ
操作する機器が選ばれていない。	リモコンの入力選択キーを押して、操作したい機器を選んでください。	45
リモコンコードが正しく設定されていない。	リモコンコードを設定しなおすか、同じメーカーのコードの中から別のコードを設定してください。	84
リモコンコードを正しく設定しても、メーカーまたは機器によっては操作できない場合があります。	各機器に付属しているリモコンをご使用ください。	—

メニューの操作中にカーソルキーの操作ができない

原因	対策	参照ページ
入力選択キーを押してしまった。	YSPキーを1回押してください。	38

技術/用語解説

5.1チャンネル

もともと映画館で臨場感のある音響効果を再現するために開発されたサラウンド・システムです。前方に3ch(左、右のステレオ2ch＋セリフ用センター1ch)、後方に2ch(サラウンド効果)、さらに超低音を出すためのLFE(ロー・フリクエンシー・エフェクト)と呼ばれるチャンネルが用意されています。LFEは低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

AAC(アドバンスト・オーディオ・コーディング)

デジタル圧縮音声フォーマットの1つです。主に日本のBS/地上デジタル放送で採用されています。モノラル音声から最大で7チャンネル音声までを効率良く圧縮して記録・伝送できます。圧縮動画規格であるMPEG-2の中で策定されています。

DTS(デジタル・シアター・システムズ)

DTS社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット(音声圧縮技術)で、DVDなどに使用されています。ドルビーデジタルよりも低い圧縮率を採用しており、クリアで厚みのある音質で5.1chサウンドが再生できるといわれています。

DTS Neo：6

DTS社が開発した、2chソースを6ch化してサラウンド再生する技術です。再生するソースに合わせて、映画用のNeo：6 Cinemaモードと音楽用のNeo：6 Musicモードが用意されています。

LFE(ロー・フリクエンシー・エフェクト)

ドルビーデジタル、DTSなどのデジタル・サラウンド・システムでは、通常の5ch(フル帯域)以外に、低域の効果音のみを出力するLFEチャンネルが用意されています。20Hz～120Hzの帯域の重低音を補助的に加えることで、迫力やリアル感が加わります。LFEは低音域専用で帯域が狭く、独立した音源には成り得ないことから「0.1ch」とカウントされています。

MPEG

ISO(工業の標準化を図る国際機関)とIEC(電気・通信などの標準化を図る国際機関)が共同で標準化した「動画」および「音声」にかかわるデジタル圧縮規格の名称です。
MPEGには、MPEG1、MPEG2、MPEG4の3つの規格があります。MPEG1の画質はVHSビデオ並みで、ビデオCDなどで利用されています。
MPEG2の画質はS-VHSビデオ並みで、DVDビデオなどで利用されています。

PCM(パルス・コード・モジュレーション)

アナログ信号をデジタル信号に変換する代表的な方式です。PCMは非常に短く区切った単位時間あたりの信号レベルを符号化(コード化)します。MP3形式やATRAC形式のような圧縮処理を用いないことから、リニアPCMとも呼ばれています。CDやDVDオーディオの録音方式などに採用されています。

SRS TruBass

SRS社が開発した、小さなスピーカーで低音を再生する技術です。原音に含まれる異なる周波数の信号を利用して差成分を作り出し、その差成分で脳に低音を感じさせるようにしています。

音場

空間が持つ固有の音の響きのことです。音場を形成する要素には、音源から直接耳に届く直接音、音の明瞭度や音量を増大させる初期反射音、美しい余韻や艶を与える後部残響音の3要素があります。

シネマDSP

世界中の著名なコンサートホールや劇場などの音の響きを実際に測って作成したデータと各種サラウンドデコーダーをかけ合わせ、ヤマハ独自の技術で生み出された音場プログラムの総称です。映画館や劇場と環境が異なる一般家庭でも、映画や音楽がより臨場感をもって楽しめるように設計されています。

ドルビーデジタル

ドルビーラボラトリーズ社が開発したデジタル・サラウンド・フォーマット(音声圧縮技術)で、DVDの標準音声形式のひとつとなっています。フォーマットとしては1chから5.1chまで用意されていますが、一般的には前方3ch、後方2ch、LFE(低域効果音)0.1chの5.1chでサラウンドを構成します。各チャンネルが独立した信号で録音されているため、非常に明瞭な音声で再生することができます。

ドルビープロロジック

ドルビーラボラトリーズ社が開発した、ステレオ信号をサラウンド再生するためのアナログ技術です。ドルビーサラウンドエンコードされている2chソースを、前方3chと後方1ch(モノラル)の4chでサラウンド再生します。

ドルビープロロジックII

ドルビープロロジックの上位規格で、ステレオ信号を5.1chで再生するための技術です。後方のサラウンドchはステレオ化されているのと同時に、周波数特性がフル帯域化されています。再生するソースに合わせて、映画用のMovieモード と音楽用のMusicモード、ゲーム用のGameモードの3つが用意されています。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力(EIAJ)
.... 2W(1kHz,10%THD,4Ω)×40個
+20W(100Hz,10%THD,3Ω)×2個

スピーカー部

小口径スピーカー
.... 4cmコーン防磁型×40個
ウーファー........... 10cmコーン防磁型×2個

入力端子

オーディオ入力(ビデオ、テレビ/チューナー)
(1V/32kΩ) .... 2組(アナログ音声)

光デジタル入力(DVD、テレビ/チューナー)
.... 2個(デジタル音声)

同軸デジタル入力(AUX)
.... 1個(デジタル音声)

ビデオ入力(ビデオ、DVD/AUX、チューナー)
.................................3個(コンポジット映像)

コンポーネントビデオ入力(DVD/AUX、
チューナー) ....2組(コンポーネント映像)

出力端子

サブウーファー(1.5V/120Hz以下) 1個

ビデオ出力(1Vp-p/75Ω)
.................................1個(コンポジット映像)

コンポーネントビデオ出力
(Y: 1Vp-p/75Ω、PB/PR: 0.5Vp-p/75Ω)
..............................1組(コンポーネント映像)

システム接続端子

OPTIMIZER MIC .... 1個(マイク入力)
RS-232C .... 1個(システム設定用)
REMOTE IN............... 1個(システム設定用)
IR-OUT .... 1個(システム設定用)

総合

電源電圧....................... AC100V、50/60Hz

消費電力... 50W

待機時消費電力 0.1W以下

寸法(幅×高さ×奥行き)

.... 1030×194×118mm

質量 13.0kg

* 仕様、および外観は、改良のため予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2」適合品です。
JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性第3-2部：限度値ー高調波電流発生限度値(1相当たりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

本機について
設置・接続する
準備する
設定する
基本操作
応用操作
付録

索引

A-Z

AAC 51
DTS 51
DTS Neo:6 51
DUAL 51
PCM 51
TruBass 58

ア行

オプティマイザーマイク 36
音量モード 57

カ行

簡易マイクスタンド 37
ケーブル押さえ 30
固定テープ 21

サ行

サラウンドモード 52
自動設定 36
シネマDSP 54
手動設定 60
詳細設定 64
ステレオピンケーブル 23
スリープタイマー 59

タ行

ダイナミックレンジ 74
デジタル音声ピンケーブル 28
テストトーン 82
テレビ音量一定モード 57
テレビマクロ 87
電源コード 30
ドルビーデジタル 51
ドルビープロロジック 51
ドルビープロロジックII 51

ナ行

ナイトリスニングモード 57

ハ行

ビームモード 48
光ファイバーケーブル 23
ビデオ用ピンケーブル 23
フロントパネルディスプレイ 14

マ行

メニュー 34
メモリー 42

ラ行

リモコン 16
リモコンコード 89

ヤマハホットラインサービスネットワーク

ヤマハホットラインサービスネットワークは、本機を末永く、安心してご愛用いただくためのものです。
サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはお近くのサービス拠点にご連絡ください。

ヤマハAV製品の機能や取り扱いに関するお問い合わせ

■ ヤマハオーディオ&ビジュアルホームページ

お客様から寄せられるよくあるご質問をまとめておりますので、ご参考にしてください。
http://www.yamaha.co.jp/audio/

■ お客様ご相談センター

ナビダイヤル（全国共通）® 0570-01-1808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

携帯電話、PHSからは下記番号におかけください。
TEL (053) 460-3409

FAX (053) 460-3459
〒430-8650 静岡県浜松市中沢町10-1

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：10:00～12:00、13:00～18:00

ヤマハAV製品の修理、サービスパーツに関するお問い合わせ

■ ヤマハ電気音響製品修理受付センター

ナビダイヤル（全国共通）® 0570-012-808

全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます。

FAX (053) 463-1127

受 付 日：月～土曜日（祝日およびセンターの休業日を除く）
受付時間：月～金曜日 9:00～19:00　土曜日 9:00～17:30

修理お持ち込み窓口
受 付 日：月～金曜日（祝日および弊社の休業日を除く）
受付時間：9:00～17:45

北海道 〒064-8543 札幌市中央区南10条西1丁目1-50
ヤマハセンター内
FAX (011)512-6109

首都圏 〒143-0006 東京都大田区平和島2丁目1-1
京浜トラックターミナル内14号棟A-5F
FAX (03)5762-2125

浜松 〒435-0016 浜松市和田町200 ヤマハ(株)和田工場内
FAX (053)462-9244

名古屋 〒454-0058 名古屋市中川区玉川町2丁目1-2
ヤマハ(株)名古屋倉庫3F
FAX (052)652-0043

大阪 〒564-0052 吹田市広芝町10-28
オーク江坂ビルディング2F
FAX (06)6330-5535

九州 〒812-8508 福岡市博多区博多駅前2丁目11-4
FAX (092)472-2137

*名称、住所、電話番号、URLなどは変更になる場合があります。

● 保証期間
お買い上げ日から1年間です。

● 保証期間中の修理
保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間が過ぎているとき
修理によって製品の機能が維持できる場合にはご要望により有料にて修理いたします。

● 修理料金の仕組み
技術料　故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器等設備費、一般管理費等が含まれています。

部品代　修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。

出張料　製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途、駐車料金をいただく場合があります。

● 補修用性能部品の最低保有期間
補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後8年です。補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

● 製品の状態は詳しく
サービスをご依頼されるときは製品の状態をできるだけ詳しくお知らせください。また製品の品番、製造番号などもあわせてお知らせください。
※ 品番、製造番号は製品の背面もしくは底面に表示してあります。

● スピーカーの修理
スピーカーの修理可能範囲はスピーカーユニットなど振動系と電気部品です。尚、修理はスピーカーユニット交換となりますので、エージングの差による音色の違いが出る場合があります。

● 摩耗部品の交換について
本機には使用年月とともに性能が劣化する摩耗部品(下記参照)が使用されています。摩耗部品の劣化の進行度合は使用環境や使用時間等によって大きく異なります。
本機を末永く安定してご愛用いただくためには、定期的に摩耗部品を交換されることをおすすめします。
摩耗部品の交換は必ずお買い上げ店、またはヤマハ電気音響製品修理受付センターへご相談ください。

摩耗部品の一例
ボリュームコントロール、スイッチ・リレー類、接続端子、ランプ、ベルト、ピンチローラー、磁気ヘッド、光ヘッド、モーター類など

※ このページは、安全にご使用いただくためにAV製品全般について記載しております。

永年ご使用の製品の点検を！

愛情点検

こんな症状はありませんか?
- 電源コード・プラグが異常に熱い。
- コゲくさい臭いがする。
- 電源コードに深いキズか変形がある。
- 製品に触れるとピリピリと電気を感じる。
- 電源を入れても正常に作動しない。
- その他の異常・故障がある。

すぐに使用を中止してください。
事故防止のため電源プラグをコンセントから抜き、
必ず販売店に点検をご依頼ください。
なお、点検・修理に要する費用は販売店にご相談ください。

ヤマハ株式会社
〒430-8650　浜松市中沢町10-1

YAMAHA

YSP-1000 簡易接続・操作ガイド

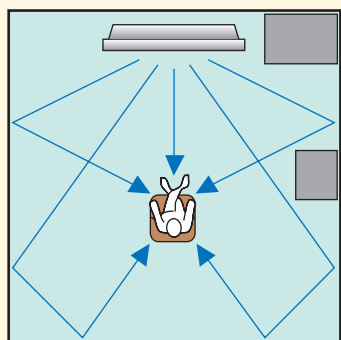
この簡易接続・操作ガイドは、テレビやDVDプレーヤーを接続してYSP-1000のサラウンドサウンドを楽しむまでの手順を説明しています。詳しい内容については取扱説明書をご覧ください。

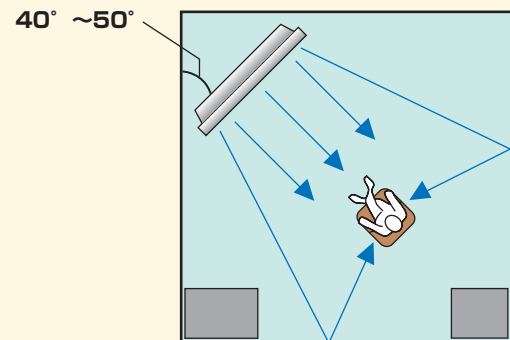
YSP-1000 を設置する

YSP-1000 の設置場所を決定します。

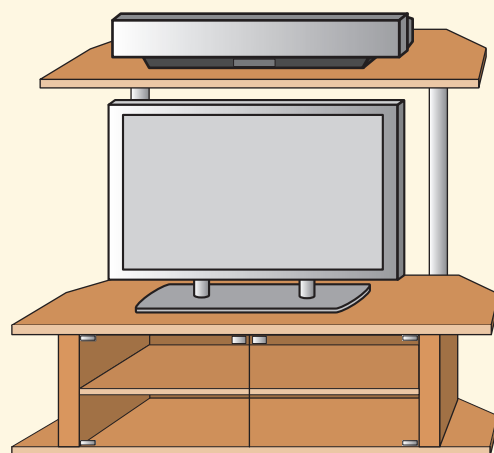
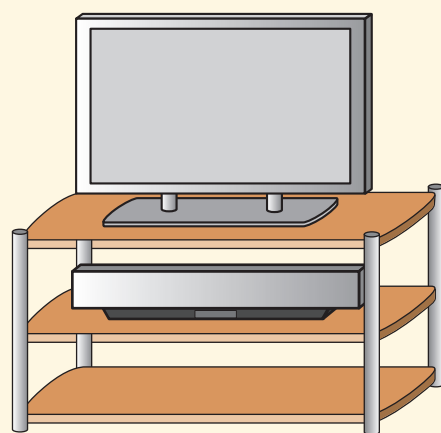
本機は下図のように音声をビーム化して出力します(矢印はビーム化した音声と各ビームの経路を表しています)。効果的なサラウンド感を得るために、ビームの経路と家具などの障害物が重ならない場所に本機を設置してください。

本機を壁と並行に、リスニングルームの中央に設置した場合のイメージ図です。

 家具などの障害物

本機をリスニングルームのコーナーに設置した場合のイメージ図です。隣接する壁との角度が 40°～50°の間におさまるように設置してください。

 家具などの障害物

YSP-1000 をテレビの上または下に設置します。

下図の設置例を参考にして本機を設置してください。設置の詳細については取扱説明書20～21ページをご覧ください。
本機は落下防止のため、固定テープで確実に固定してください(取扱説明書21ページ)。

本機をテレビの上に設置できるタイプのラックを使用して、下図のようにテレビの上に設置します。
地震などの振動やお子様の接触などで本機が落下しないように設置してください。

本機を内部に収納できるタイプのラックを使用して、下図のようにテレビの下に設置します。
床から離れた高さに本機を設置すると、より効果的なサラウンド感を得られます。

テレビや DVD プレーヤーなどを接続する

YSP-1000 をテレビや DVD プレーヤーなどに接続します。

下図の接続例を参考にして本機をテレビやDVDプレーヤーなどに接続してください。サブウーファーを接続すると、よりダイナミックな低音を楽しめます。
接続の詳細や他機器との接続については取扱説明書22～30ページをご覧ください。

接続ケーブル

以下の順番で接続してください。②は a または b のどちらか 1 つを使用してください。
DVD プレーヤーにコンポーネントビデオ出力端子がある場合は、②b のケーブルを使用して接続することをおすすめします。

① 光ファイバーケーブル(付属)
②a ビデオ用ピンケーブル
②b コンポーネントビデオケーブル
③ 光ファイバーケーブル(光デジタル接続もする場合)
④ ステレオピンケーブル(付属)
⑤ ビデオ用ピンケーブル(付属)
⑥ コンポーネントビデオケーブル(コンポーネント接続もする場合)
⑦ サブウーファー用ピンケーブル(サブウーファーを接続する場合)
⑧ 電源コード(付属)

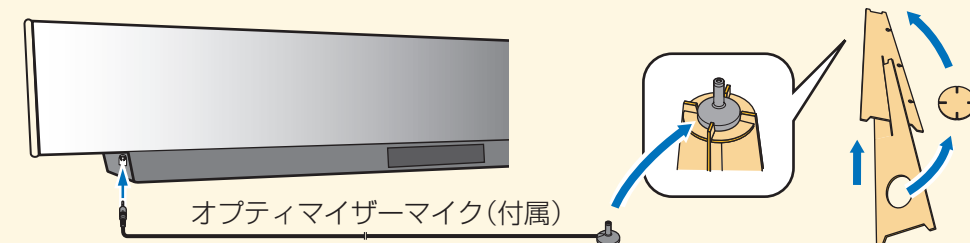
※ この接続例では、付属のデジタル音声ピンケーブル(橙)は使用しません。

ヒント
サブウーファー接続後は、サブウーファーの電源をオンにした状態で自動設定を行う(裏面)か、詳細設定の「バス出力」を「サブウーファー」に設定してください(取扱説明書73ページ)。

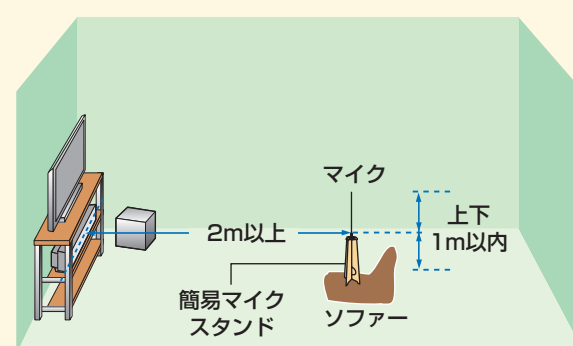
YSP-1000 を自動設定する

オプティマイザーマイクを YSP-1000 に接続し、設置します。

本機では付属のオプティマイザーマイクを使用することにより、各チャンネルの設定を自動的に調節できます。下図を参考にしてマイクを接続・設置してください。

オプティマイザーマイクを本機の OPTIMIZER MIC 端子に接続します。

簡易マイクスタンド(付属)

マイクスタンドは自動設定で使用すると便利です。
左図のように組み立て、オプティマイザーマイクを上に置いて使用します。

マイクを実際に視聴する位置に設置します。付属のマイクスタンド(上図)などを利用して、できるだけ視聴時の耳の高さとなる位置に設置してください。

マイクは本機から2m以上離し、本機の中心線上に設置してください。また、本機から上下1m以内の位置に設置してください。
ソファーの背もたれなど、マイクと壁の間に障害物がある場合には、障害物を移動したり、マイクをより高い場所に設置してください。壁に接している家具は壁と見なしますので障害物ではありません。

マイクの設置が完了したら、本機を自動設定します。裏面へお進みください。

裏面へつづく

Printed in Malaysia WG25950-1

表面からのつづき

YSP-1000を自動設定し、最適な視聴空間をつくります。

接続・設置したオプティマイザーマイクを使用してリスニングルームの環境などを測定し、各チャンネルの設定を自動的に調節します。
測定中は大きなテスト音が出力されます。小さなお子様がお部屋にいる場合やお部屋に入ってくる可能性がある場合は、自動設定機能を使用しないでください。

1 リモコンの電源キーを押す

本機の電源がONになります。

サブウーファーを接続している場合は、サブウーファーの電源を入れて、音量を半分よりやや大きめからやや小さめ(右図の位置)に設定してください。
サブウーファーにクロスオーバー／ハイカット周波数の調節機能がある場合は、右図のようにクロスオーバー／ハイカット周波数を最大に設定してください。

サブウーファー

2 テレビの電源を入れる

3 テレビの映像入力切替を操作して、YSP-1000の映像に切り替える

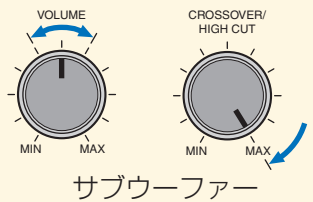
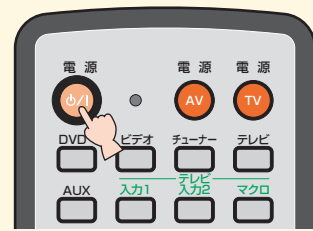
4 メニューキーを押して、YSP-1000のメニューを表示させる

テレビにメニュー画面が表示されます。メニューが表示されない場合は、表面接続例の「⑤ ビデオ用ピンケーブル」が正しく接続されているか確認し、YSPキーを押してから再度メニューキーを押してください。

5 △ / ▽キーを押して「自動設定」を選択し、決定キーを押す

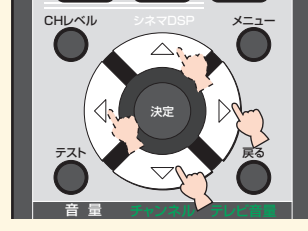
テレビに下の画面が表示されます。

6 矢印が「ビーム調整＋音質調整」にあることを確認し、決定キーを押す

テレビに下の画面が表示されます。

7 △ / ▽キーを押して項目を選択し、◁ / ▷キーで内容を選ぶ

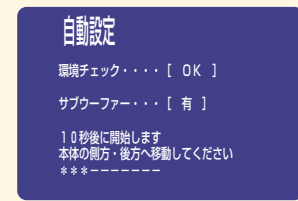
設置位置・・・・・・・・壁／コーナー
- 壁: 本機を壁に対して平行に設置している場合に選択します。
- コーナー: 本機を壁に対して斜めに設置している場合に選択します。

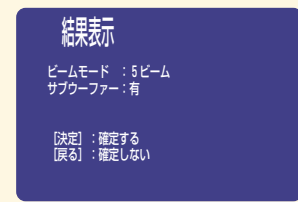
壁かけ設置・・・・・・いいえ／はい
- いいえ: 本機をラックなどに置いてご利用の場合に選択します。
- はい: 本機を壁に掛けてご利用の場合に選択します。

部屋の響き・・・・・・標準／大
- 標準: 一般的なお部屋の場合に選択します。
- 大: 壁がコンクリートでできているなど音が響くお部屋の場合に選択します。

8 選択が終わったら、以下のことを確認する

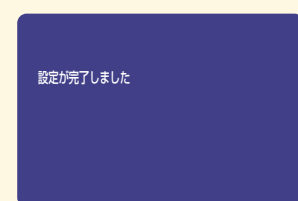
- 測定中はお部屋の外に出ることをおすすめします。お部屋の中に残る場合はビーム経路に重ならない位置(本機の真横から後方)へ移動し、大きな声や音を出さないようにしてください。
- 測定中に自動設定を中止したい場合は、戻るキーを押してください。
- 測定開始から完了まで**約3分**かかります。

9 決定キーを押して、測定を開始する

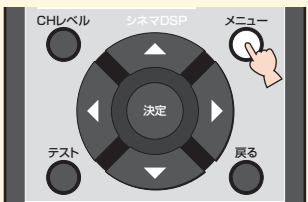
テレビに下のような画面が表示されます。

測定中の項目に従って、画面が自動的に切り替わります。
画面にエラーメッセージが表示された場合は「エラーメッセージについて」(取扱説明書41ページ)を参照して問題を解決してください。その後、戻るキーを押して手順5から再度設定してください。

測定が完了すると、下のような画面が表示されます。

※ 本機の設置位置やサブウーファーの有無などにより、結果表示画面は異なります。

10 決定キーを押す

設定が完了し、下の画面が表示されます。

11 メニューキーを押す

テレビからメニュー画面が消えます。

測定結果は本機に記憶され、電源を切っても初期設定値には戻りません。
設定完了後はオプティマイザーマイクを外し、保管してください。

音声をサラウンドで楽しむ

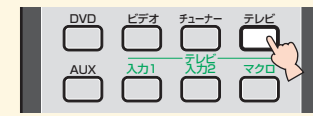
テレビやDVDの音声をサラウンドで楽しみます。

テレビやDVDの機能または操作については、ご使用のテレビやDVDに付属している取扱説明書をご覧ください。
本機の音量は－40dB程度に設定し、「手順4」で必要に応じて調節してください。

テレビを視聴する

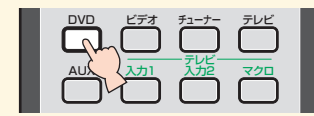
1 テレビのリモコンで、見たいチャンネルを選ぶ

2 本機のリモコンのテレビキーを押す

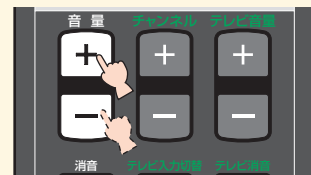
テレビの再生モードに切り替わります。

DVDを再生する

1 テレビの映像入力切替を操作して、DVDの映像に切り替える

2 本機のリモコンのDVDキーを押してから、DVDを再生する

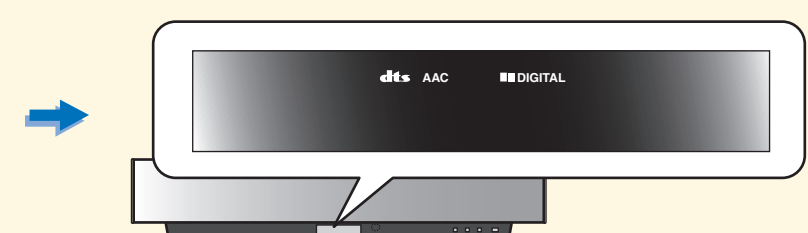
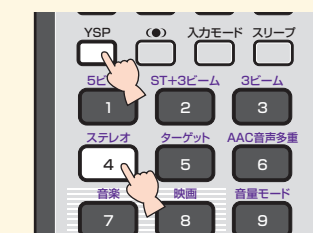
DVDの再生モードに切り替わります。

3 テレビのスピーカーから音声が聞こえる場合は、音声が聞こえなくなるまでテレビの音量を下げる

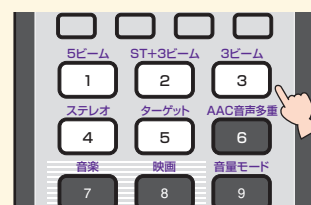
ご使用のテレビのリモコンを使って操作してください。

4 リモコンの音量＋ / －キーを押して、音量を調節する

5 リモコンのYSPキーを押してから、ビームモードキー（ステレオ）を押して、デジタル信号が本機に入力されているか確認する

DVDソフトの5.1chサラウンドデジタル信号や、テレビのBS/地上デジタル放送の信号を再生しているときは、フロントパネルディスプレイに dts、AAC、DIGITAL のうちいずれかのインジケーターが点灯します。
インジケーターが点灯しない場合は、本機とDVDプレーヤー/テレビがデジタル接続されているか、またはDVDプレーヤー/テレビ側のデジタル出力設定がオンになっているかご確認ください。

ヒント

当社製のデモンストレーションDVDを使用すると、DVDプレーヤーから本機にデジタル信号が入力されているか確認するのに便利です。

6 リモコンのビームモードキーを押して、ビームモードを変更する

ビームモードを変更することにより、ステレオ再生から5.1チャンネルのマルチチャンネル再生まで5種類の再生モードをお楽しみいただけます。
ビームモードについては取扱説明書48～50ページをご覧ください。

YSP-1000のサラウンドサウンドはお楽しみいただけましたか？リスニング環境をより詳細に設定したい場合は「各メニューを個別に設定する」（取扱説明書64ページ～）をご参照ください。